

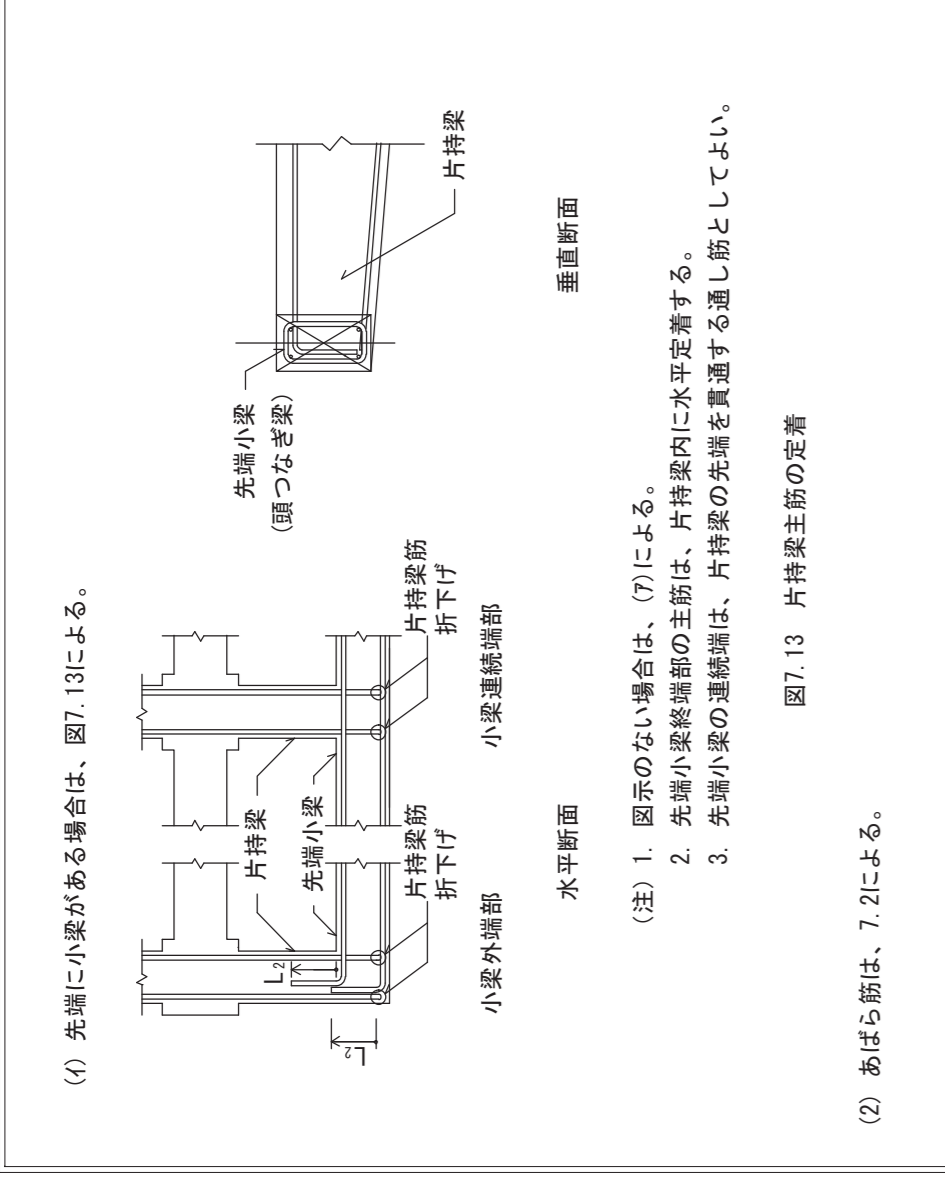
<p>・ 床構造用のデッキプレート</p>	<p>(7.2.7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質・形状・寸法</th> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ デッキプレート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 単独の構造</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ テッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 床型採用</td> <td>2～R階スラブ</td> <td>構造図による</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材質・形状・寸法	適用箇所	材質・形状・寸法	備考	・ デッキプレート				・ 単独の構造				・ テッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造				・ 床型採用	2～R階スラブ	構造図による	
材質・形状・寸法	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																		
・ デッキプレート																					
・ 単独の構造																					
・ テッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造																					
・ 床型採用	2～R階スラブ	構造図による																			
<p>・ スタッド</p>	<p>(7.2.8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類等</th> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ (mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 16</td> <td>・ 80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 19</td> <td>・ 80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類等	呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所	・ 16	・ 80			・ 19	・ 80			・ 22							
種類等	呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所																		
・ 16	・ 80																				
・ 19	・ 80																				
・ 22																					
<p>・ 柱能均しモルタル</p>	<p>(7.2.9)</p> <p>無収縮モルタルとする場合の材料、割合等 ※標準仕様書 7.2.9(2)による</p>																				
<p>○ 製作精度</p>	<p>(7.3.3)</p> <p>鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイヤグラムの交点や継手の食い違いの寸法 ※平収報告第1464号第二号イ(2)による</p>																				
<p>・ 溶接技能者の技能付加試験</p>	<p>(7.6.3)</p> <p>試験の要領 ・ 図示による ()</p>																				
<p>○ 溶接接合</p>	<p>(7.6.4)</p> <p>開年の形状 ○ 図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-2)</p>																				
<p>○ 入熱・バス間温度の管理</p>	<p>(7.6.7)</p> <p>○ エンドタプの切断する部分 切断する箇所 ○ 図示による () ○ 図示による () ○ エンドタプ、裏当て金等は、裏フランジ等の厚から5mm 以下降して直線上に切断する。 なお、切断端が交差する場合は、交差部をアール状に加工する 切断面の仕上げ ・ 標準仕様書 7.6.7(1) (h) (b) 図による</p>																				
<p>○ 溶接部の試験</p>	<p>(7.6.12)</p> <p>平12標準第1464号第二号に関する外観試験方法等 ○ 実寸継手の食い違い仕口のずれの検査・検査マニュアル 3.5.2 受入検査による ・ 抜き取り検査① ・ 抜き取り検査②</p>																				
<p>○ 溶接部の試験</p>	<p>JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3 [溶接]に関する試験方法等 ○ JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の試験箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書 7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ○ 工事溶接の場合 A0DL(%) ※レベルⅡ (4.0) ・ レベルⅠ (2.5) 節 ○ 全て 検査水準 ※第6水準 ・ 全数 ・ 工事現場溶接の場合</p>																				

<p>楠山・枝川特定業務共同企業体</p>	
<p>一級建築士事務所 株式会社 楠山設計 東京都千代田区神田小川町3-2-0</p>	<p>一級建築士事務所 有限会社 枝川建築設計事務所 茨城県土浦市並木4-1-36</p>
<p>一級建築士事務所 東京都知事登録第4630号</p>	<p>一級建築士事務所 茨城県知事登録第1521号</p>

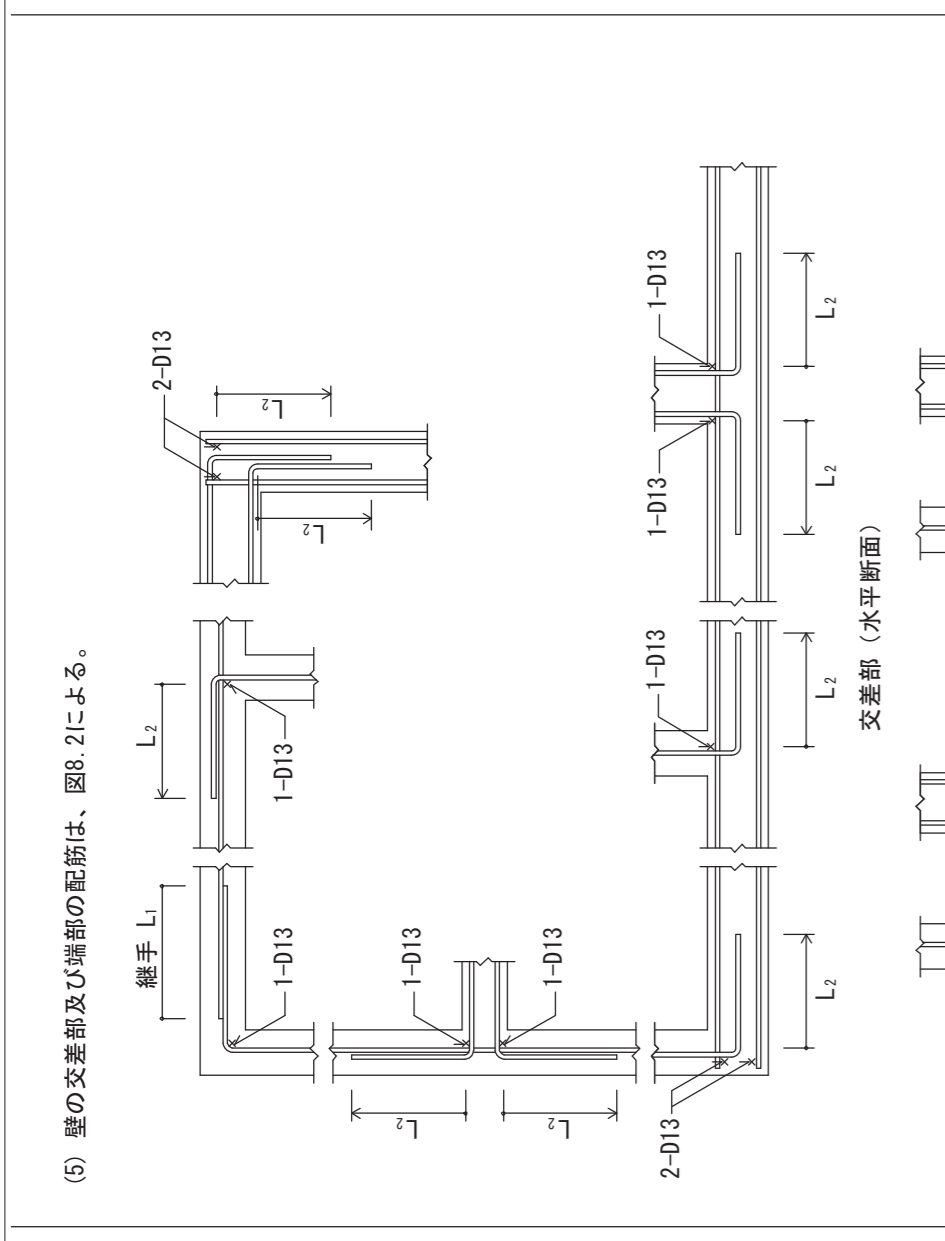
<p>○ 防止の塗装</p>	<p>(7.8.2)</p> <p>塗装の範囲 耐火被覆材の塗着する面の塗装範囲 ○ 図示による (断面図) 耐火被覆材の塗着する面以外の塗装範囲 ○ 標準仕様書 7.8.2(1)による ・ 図示による () (7.8.4) (B.3.2) 塗装の種類 下記以外の鉄筋面は、18巻 [塗装工事] による ・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の鋼止め塗料の種類 ※A種 ・ B種 ・ 耐火塗覆が塗着する面の塗料の種類 ・</p>																												
<p>○ 耐火被覆</p>	<p>(7.9.2～7.9.8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類、材料、工法等</th> <th>材料・工法</th> <th>性能 (耐火時間)</th> <th>適用箇所 (部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">○ 耐火材吹付け</td> <td>○ 乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 単独式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 耐火板張り</td> <td>・ 繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 炭素熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 耐火材巻付け</td> <td>・ ラス張りモルタル塗り</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 耐火塗料</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類、材料、工法等	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)	○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付けロックウール			・ 単独式吹付けロックウール			・ 湿式ロックウール			・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板			・ 炭素熱ロックウール			・ 耐火材巻付け	・ ラス張りモルタル塗り			・ 耐火塗料		
種類、材料、工法等	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)																										
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付けロックウール																												
	・ 単独式吹付けロックウール																												
	・ 湿式ロックウール																												
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板																												
	・ 炭素熱ロックウール																												
・ 耐火材巻付け	・ ラス張りモルタル塗り																												
	・ 耐火塗料																												
<p>○ 建方精度</p>	<p>(7.10.2)</p> <p>※JASS6 付則6 [鉄骨精度基準] 付表5 [工事現場] による</p>																												
<p>○ アンカーボルトの設置等</p>	<p>(7.10.3)</p> <p>構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ○ 図示による (露出仕脚工法設計・施工標準図) 構造用アンカーフレームの保持及び埋込み ○ 図示による (露出仕脚工法設計・施工標準図) 建方 (及び付属鉄骨) 用アンカーボルトの形状及び寸法 ・ 図示による () 建方 (及び付属鉄骨) の保持及び埋込み工法 種類 ・ A種 ・ B種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類 厚さ ○300mm 種類 ※A種 ・ B種</p>																												

<p>○ 建築設備の構造および構造体への接続部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。 ○ 図示による (断面図) ○ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、断止め等、防震のための有効な措置を講ずること。 ○ 建築設備の設置する壁土からの突出する水櫃、煙突、その他これらに類するものは、風圧・地震等に対して構造耐力上主要な部分に接続され、安全であること。 ○ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを50mm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。 ○ 設備配管は、地震時の等価変形に選定できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。 ○ エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に接続されていること。 また、地震時の瞬間変形に追従できること。 ○ 特記以外の設備通孔は原則として取付けない。 ○ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし昔の間隔を管径の2倍以上かつ50mm以上を原則とする。 ○ 給湯設備 は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。沸水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。</p>	<p>DATE</p>
<p>○ 建築設備の構造および構造体への接続部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。 ○ 図示による (断面図) ○ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、断止め等、防震のための有効な措置を講ずること。 ○ 建築設備の設置する壁土からの突出する水櫃、煙突、その他これらに類するものは、風圧・地震等に対して構造耐力上主要な部分に接続され、安全であること。 ○ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを50mm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。 ○ 設備配管は、地震時の等価変形に選定できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。 ○ エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に接続されていること。 また、地震時の瞬間変形に追従できること。 ○ 特記以外の設備通孔は原則として取付けない。 ○ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし昔の間隔を管径の2倍以上かつ50mm以上を原則とする。 ○ 給湯設備 は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。沸水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。</p>	<p>TITLE</p>

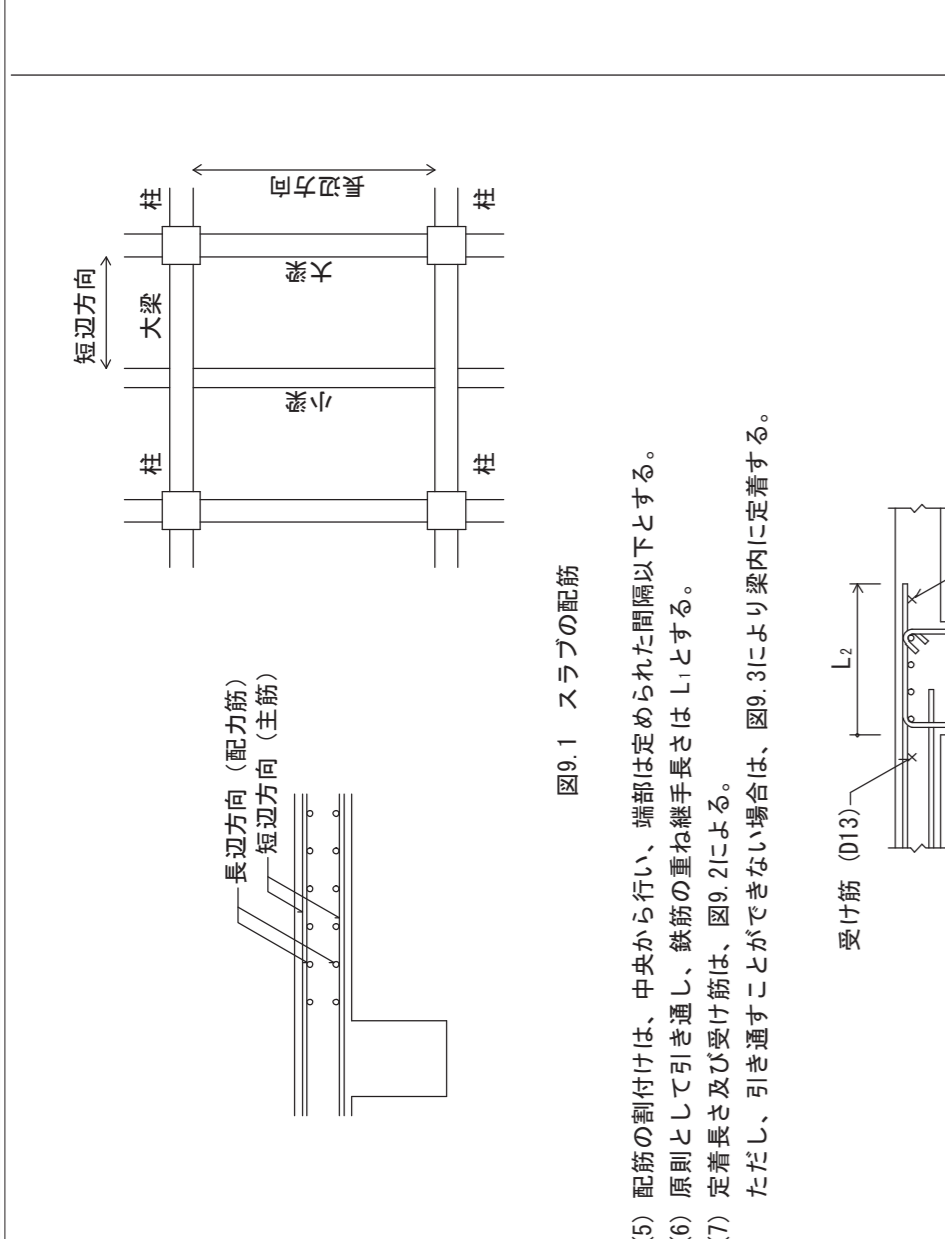
<p>(新) 荒川沖消防署新築建築主体工事</p>	
<p>一級建築士登録第 271669 号 依 置 箇 所 一</p>	<p>一級建築士登録第 301497 号 依 置 箇 所 一</p>
<p>一級建築士登録第 301497 号</p>	<p>DWG NO.</p>
<p>構造特記仕様書 (3)</p>	<p>SCALE A1: 一 A3: 一</p>
<p>構造 S - 003</p>	<p>TITLE</p>



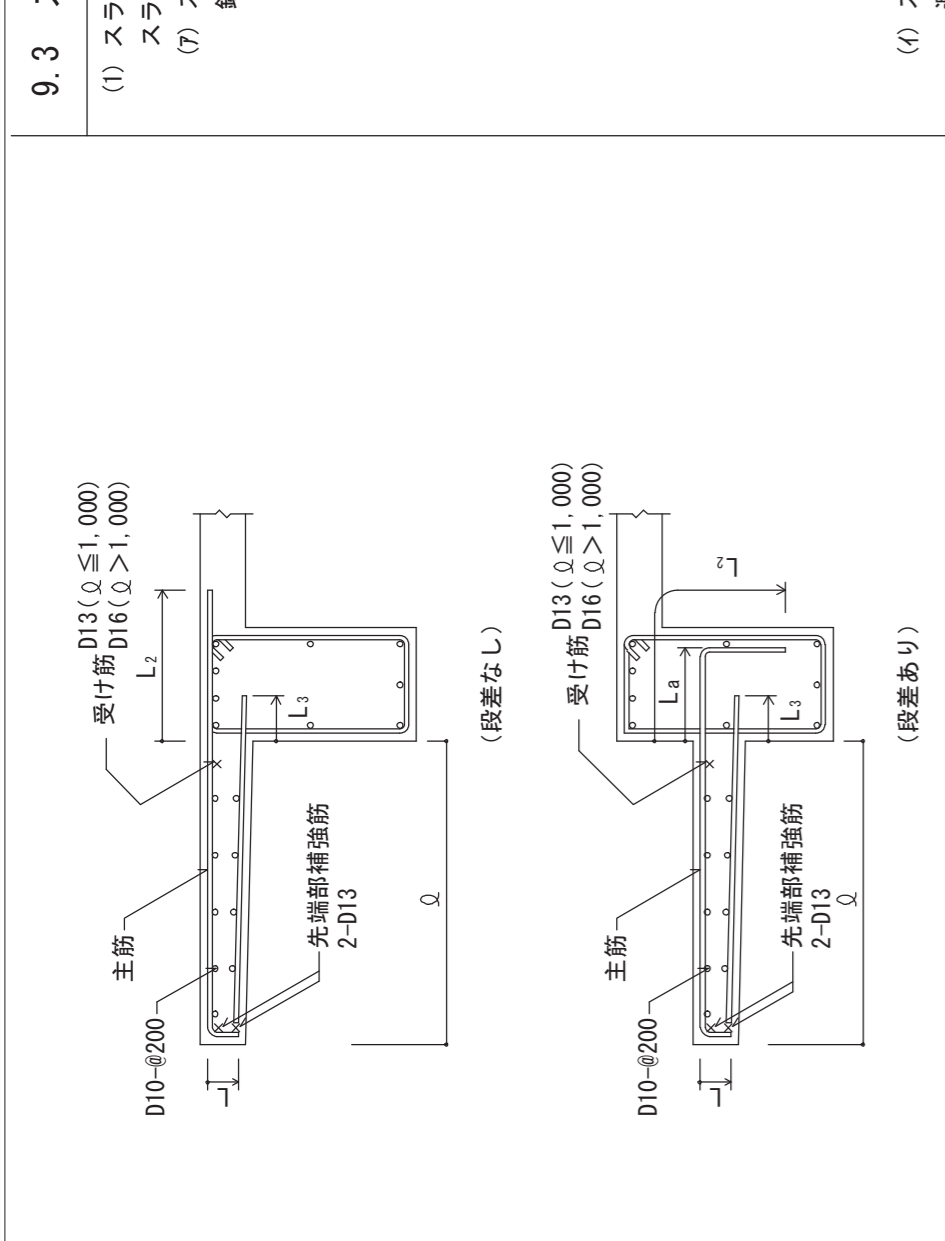
(1) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。
 (2) あらばら筋は、7.2による。
 (3) 片持梁折下げを受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。
 (4) スラブの配筋 (S形配筋) は表8.1及び図9.11により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



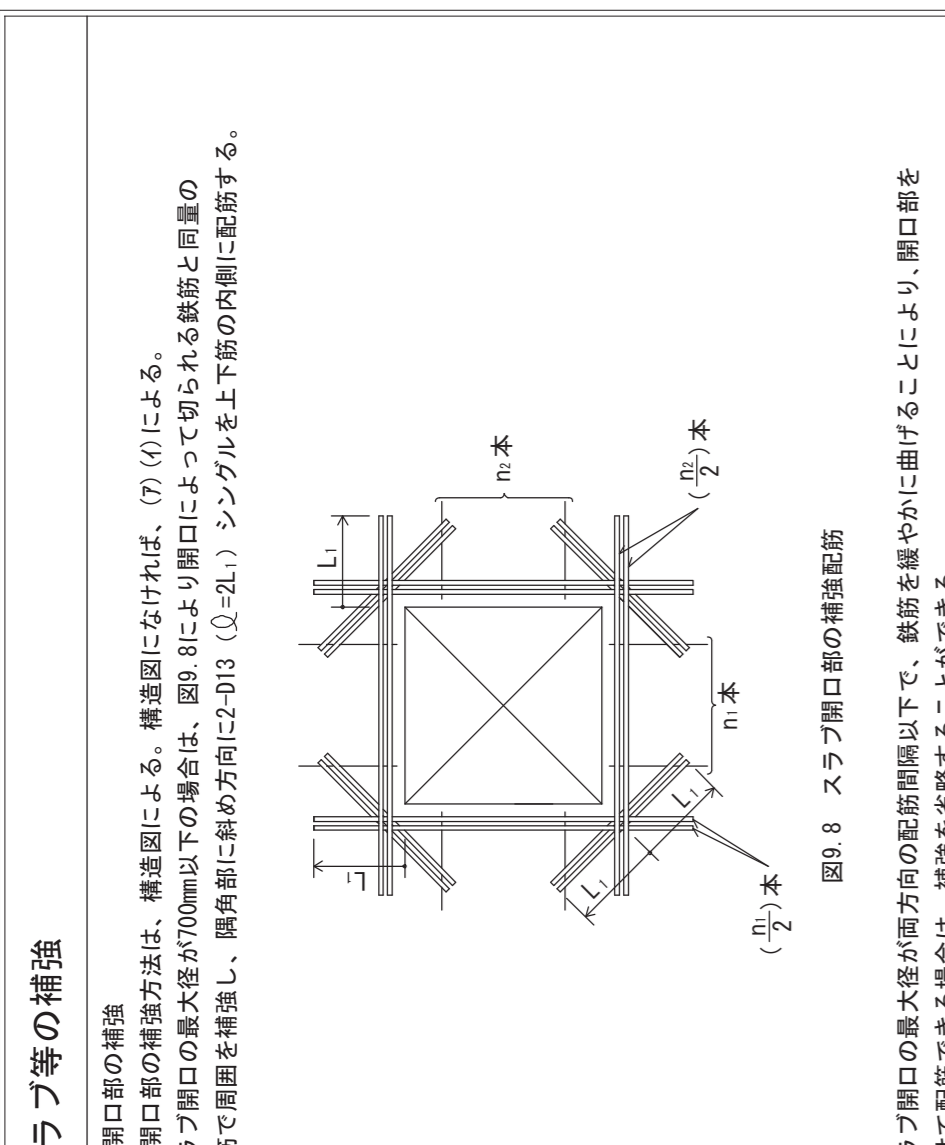
(1) 一般事項
 (2) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。
 (3) 片持梁折下げを受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。
 (4) スラブの配筋 (S形配筋) は表8.1及び図9.11により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



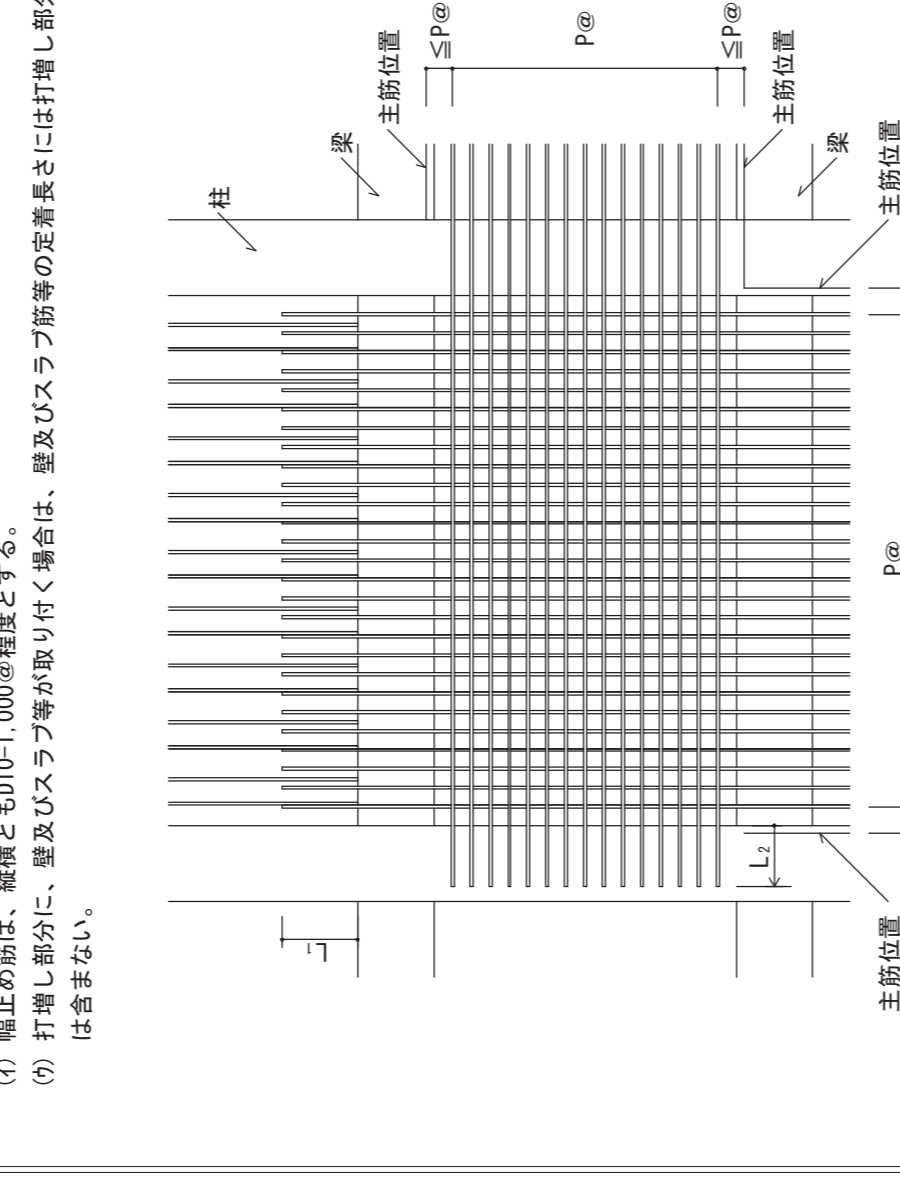
(1) 壁開口部の補強
 (2) 壁の交差部及び端部の配筋
 (3) 壁開口部補強筋 (A形)
 (4) 壁開口部補強筋 (B形)



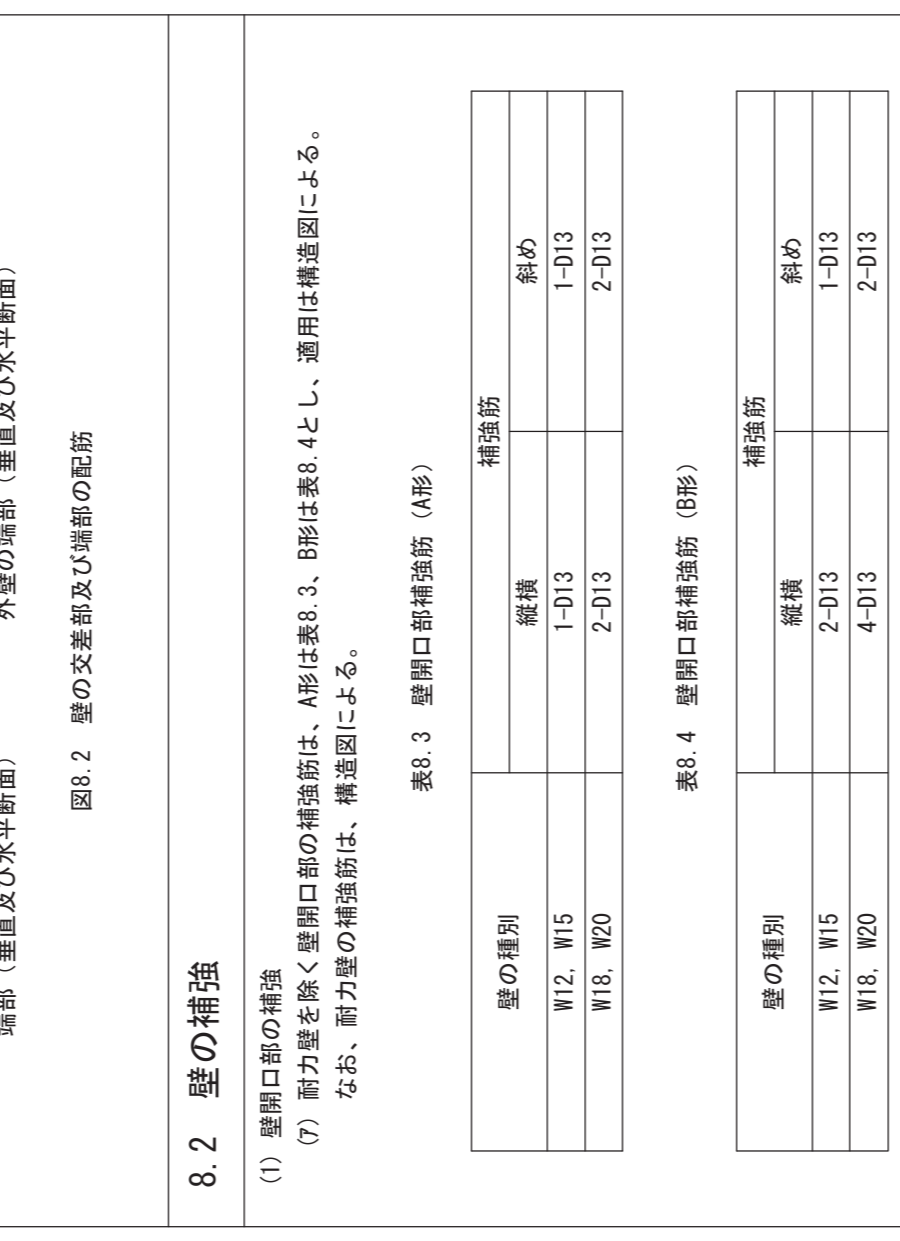
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



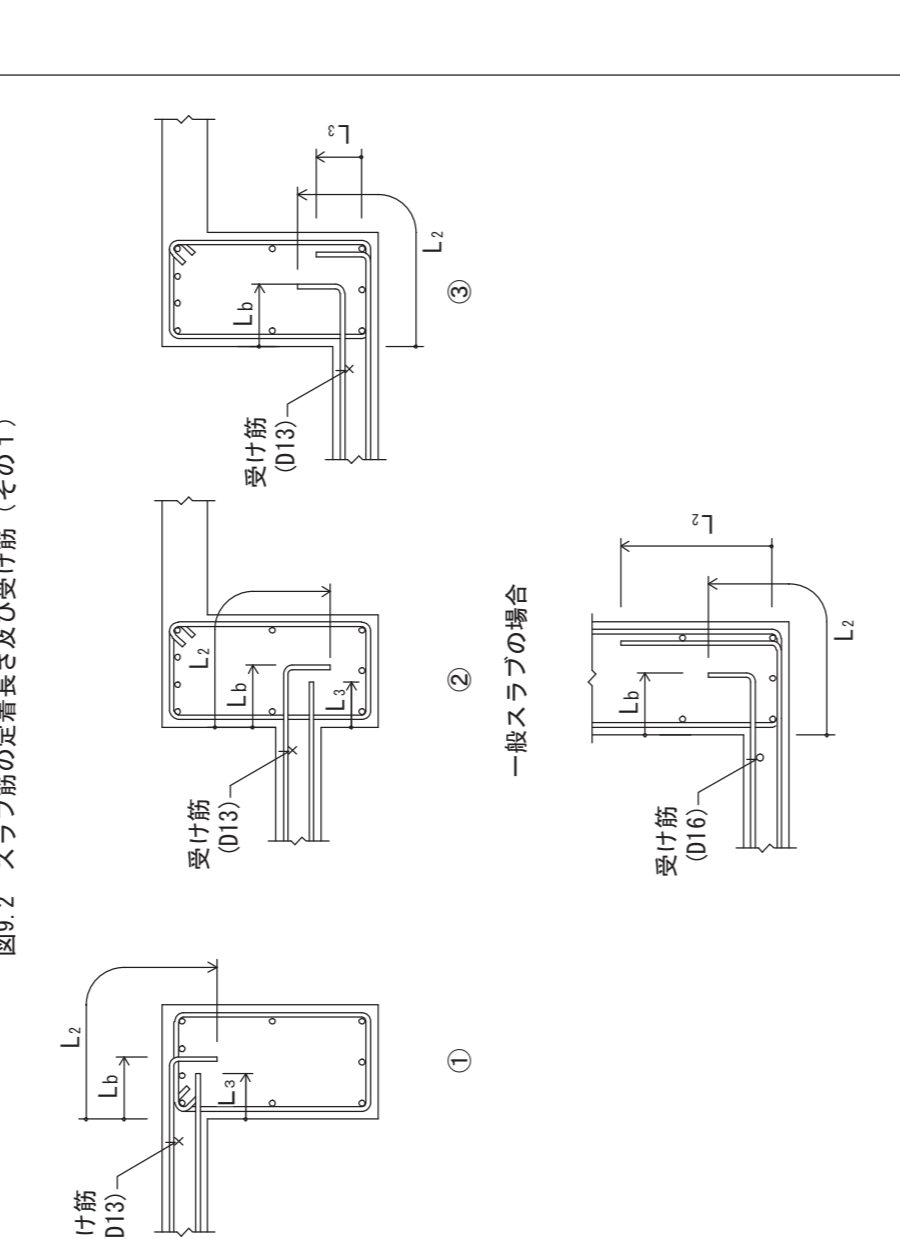
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



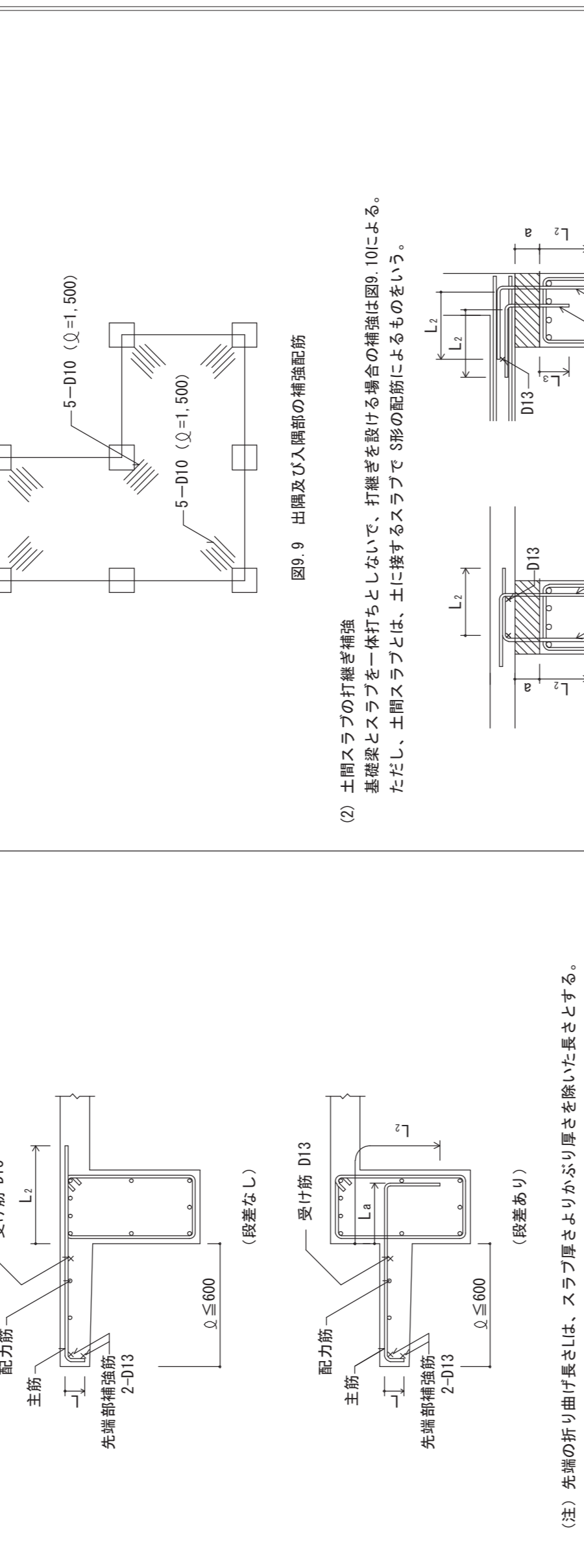
(1) 壁の配筋は表8.1により、種別は構造図による。
 (2) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。
 (3) スラブ及び壁開口部の上がり下がりには、凡そ基準とした寸法とする。
 (4) 土間コンクリートの砂利層厚及び捨てコンクリート厚は構造図による。
 (5) 土間コンクリートの配筋 (S形配筋) は表8.1及び図9.11により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



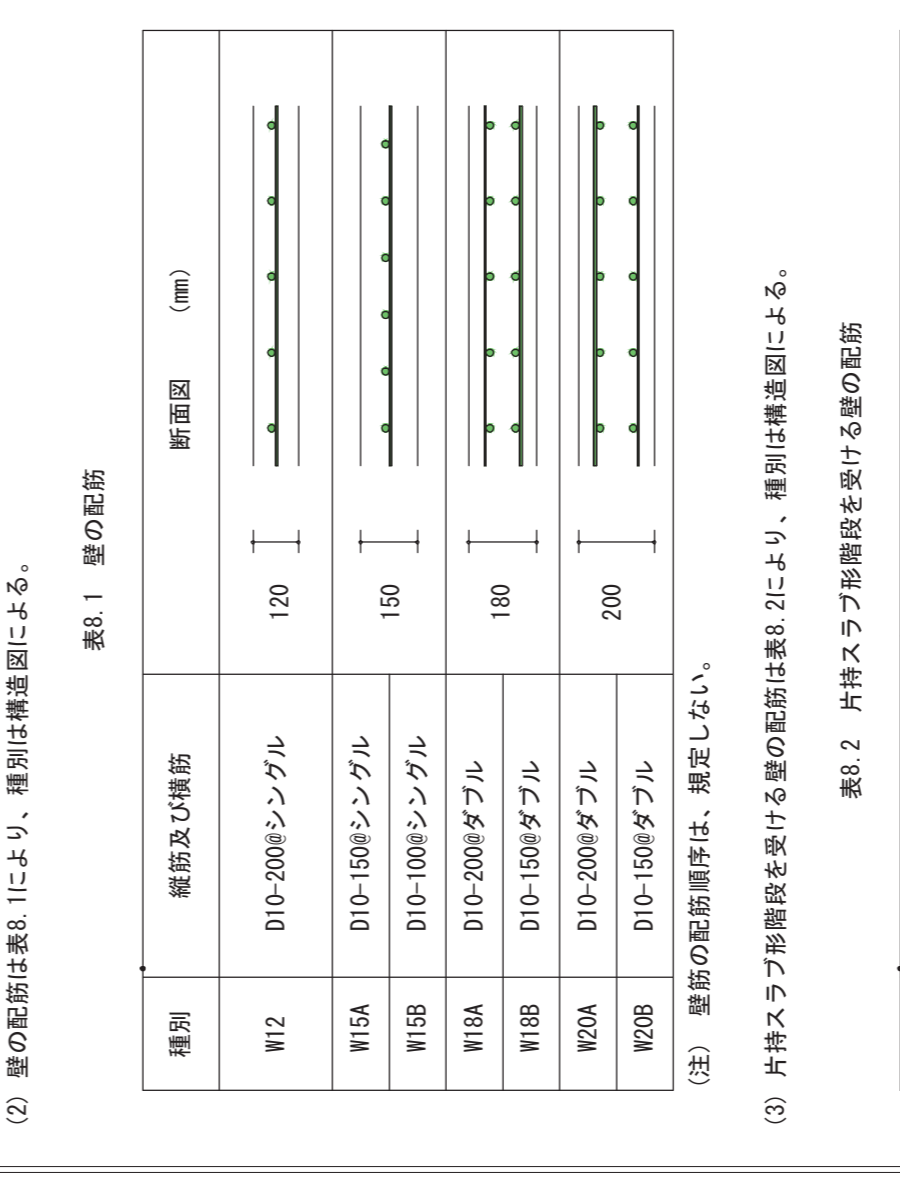
(1) 壁開口部の補強
 (2) 壁の交差部及び端部の配筋
 (3) 壁開口部補強筋 (A形)
 (4) 壁開口部補強筋 (B形)



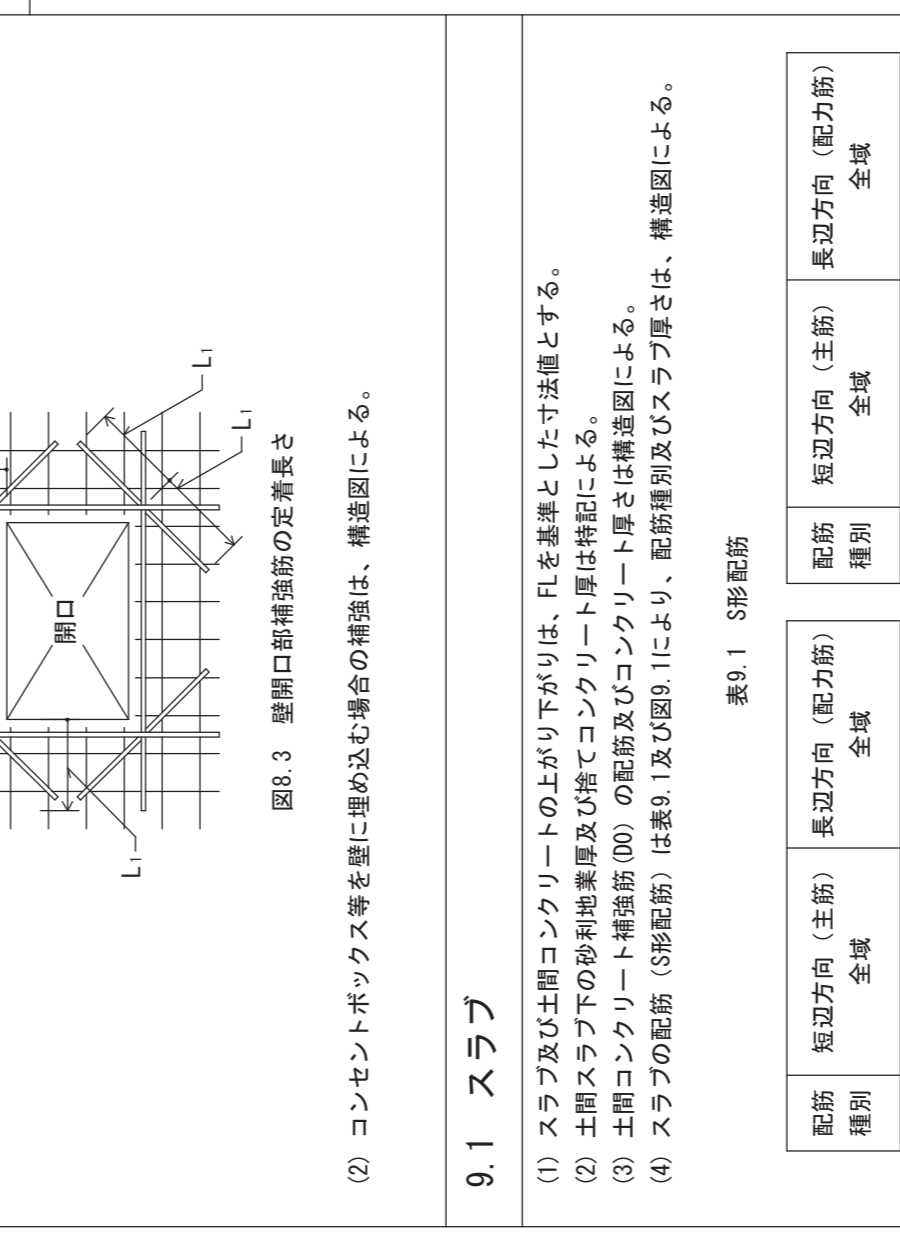
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



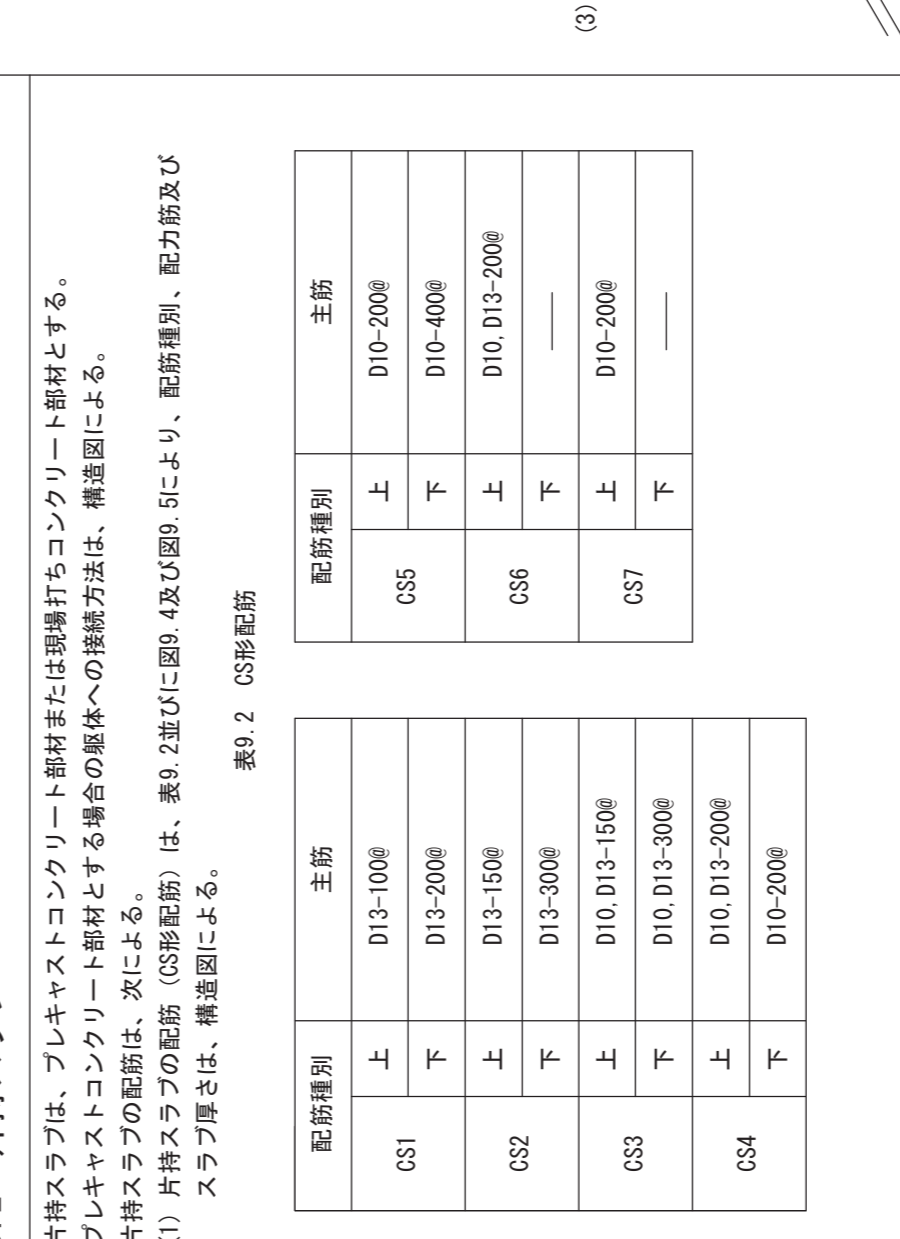
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



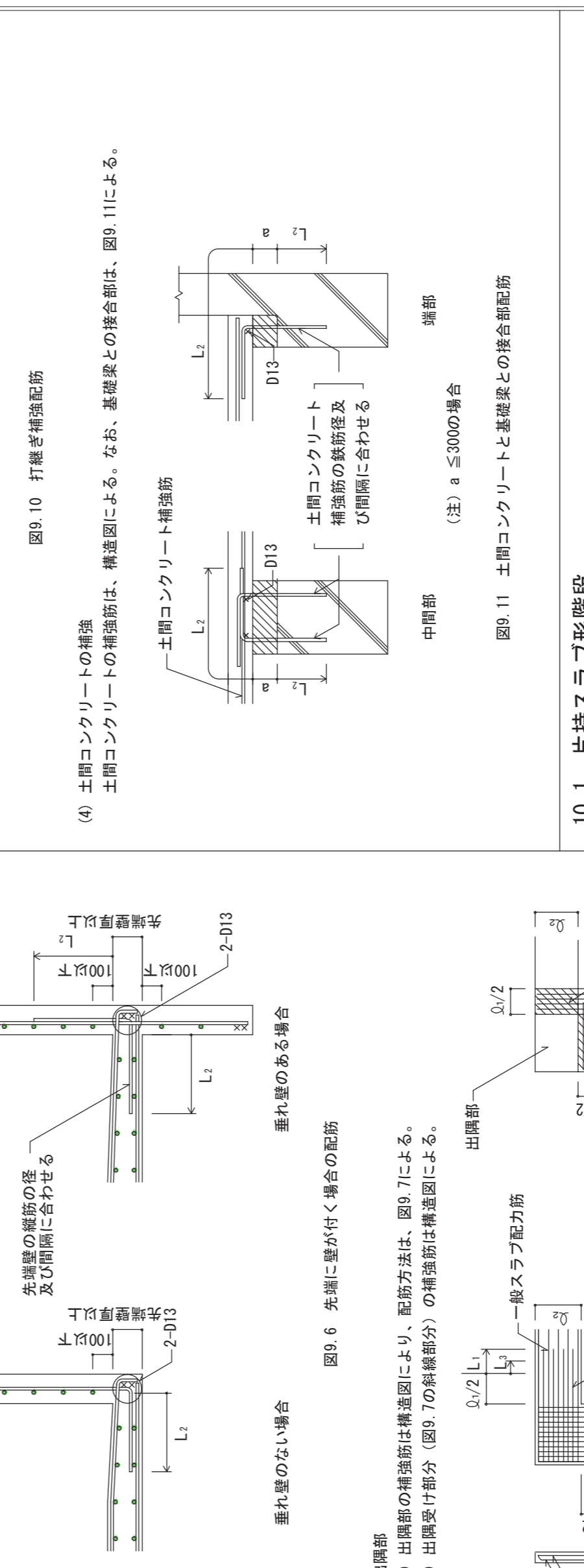
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



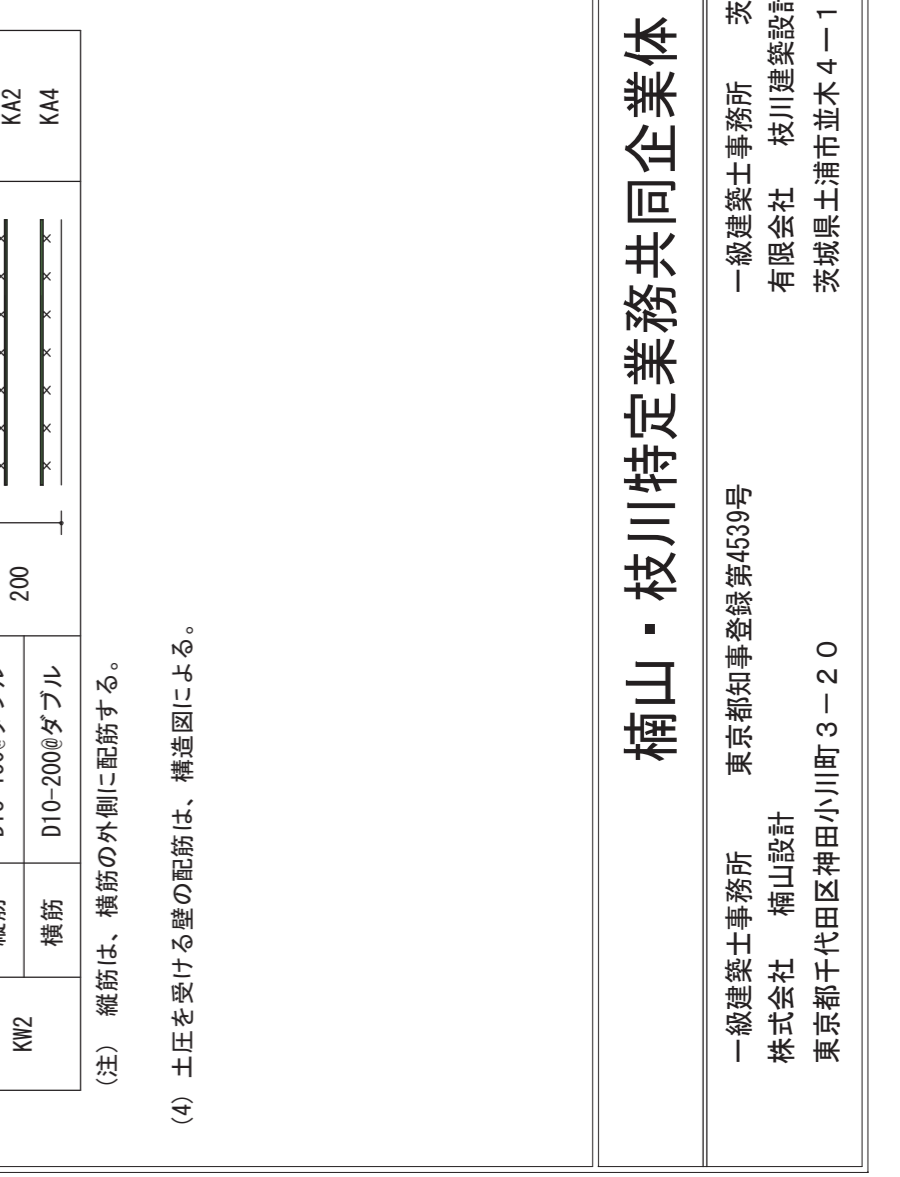
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



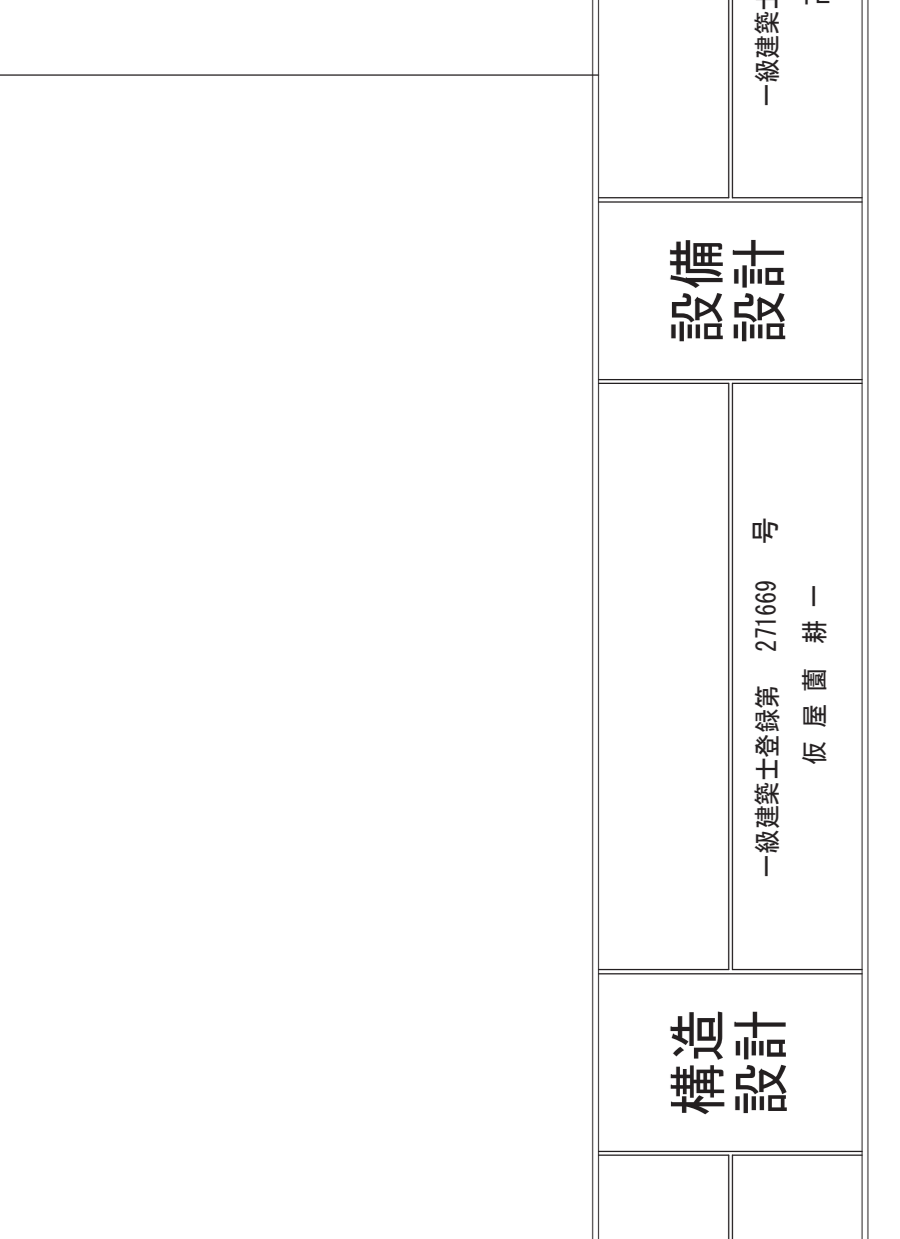
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



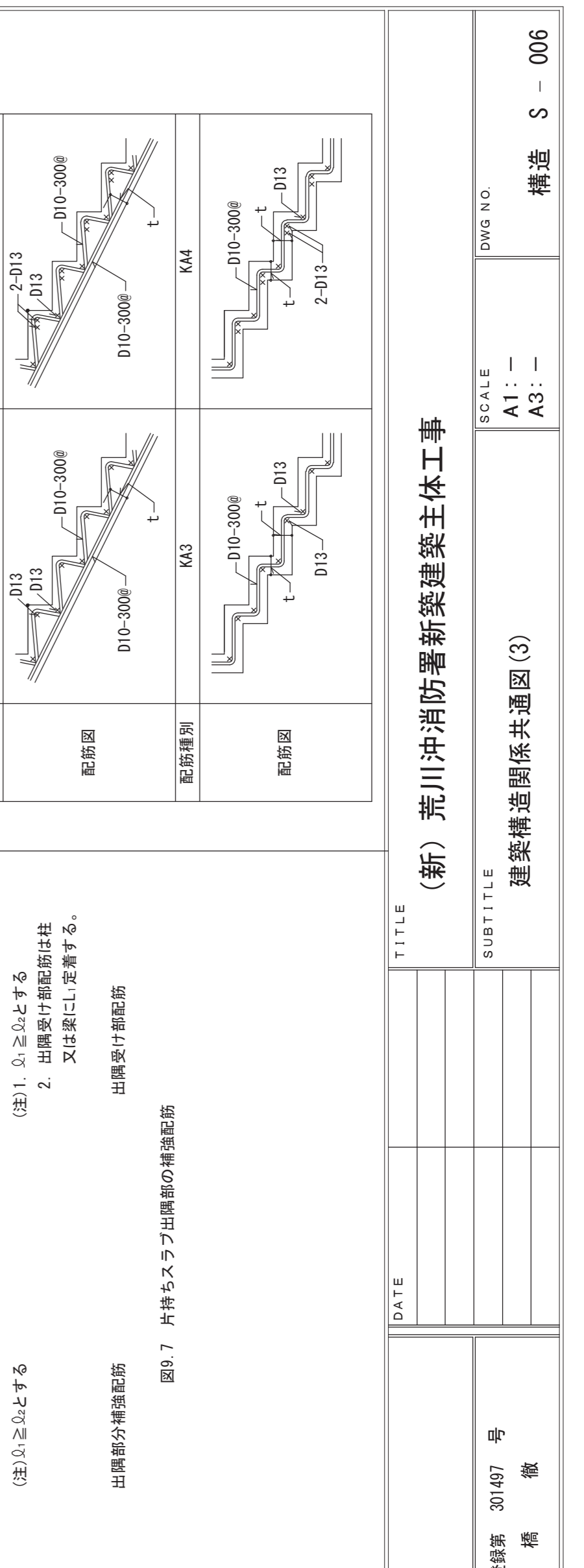
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
 (2) 出隅部
 (3) 出隅部補強筋 (CS形配筋) は、表8.2並びに図9.6及び図9.7により、配筋種別、配筋種別、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

調査名 新消防署整備基本設計及び実施設計業務委託

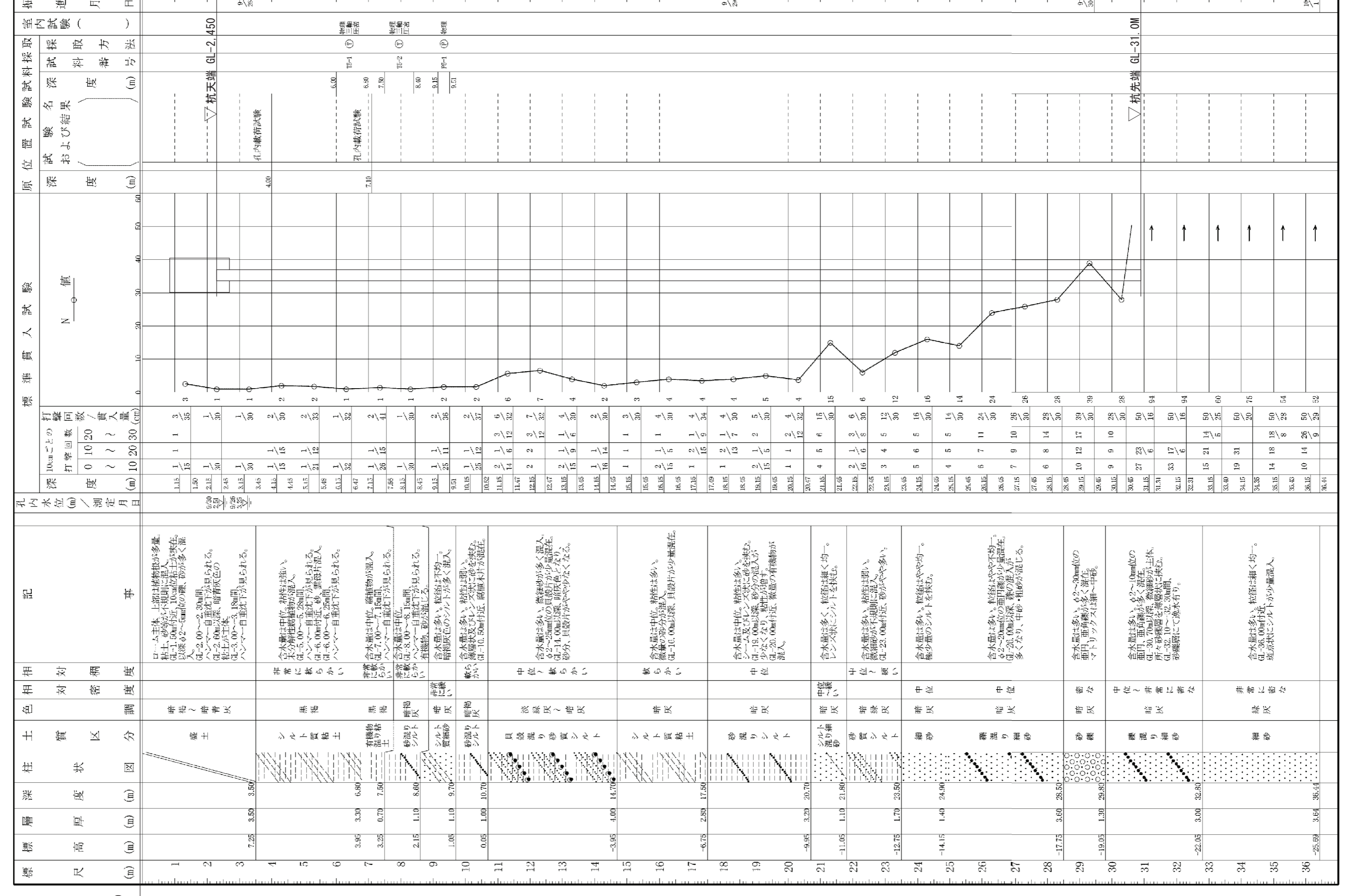
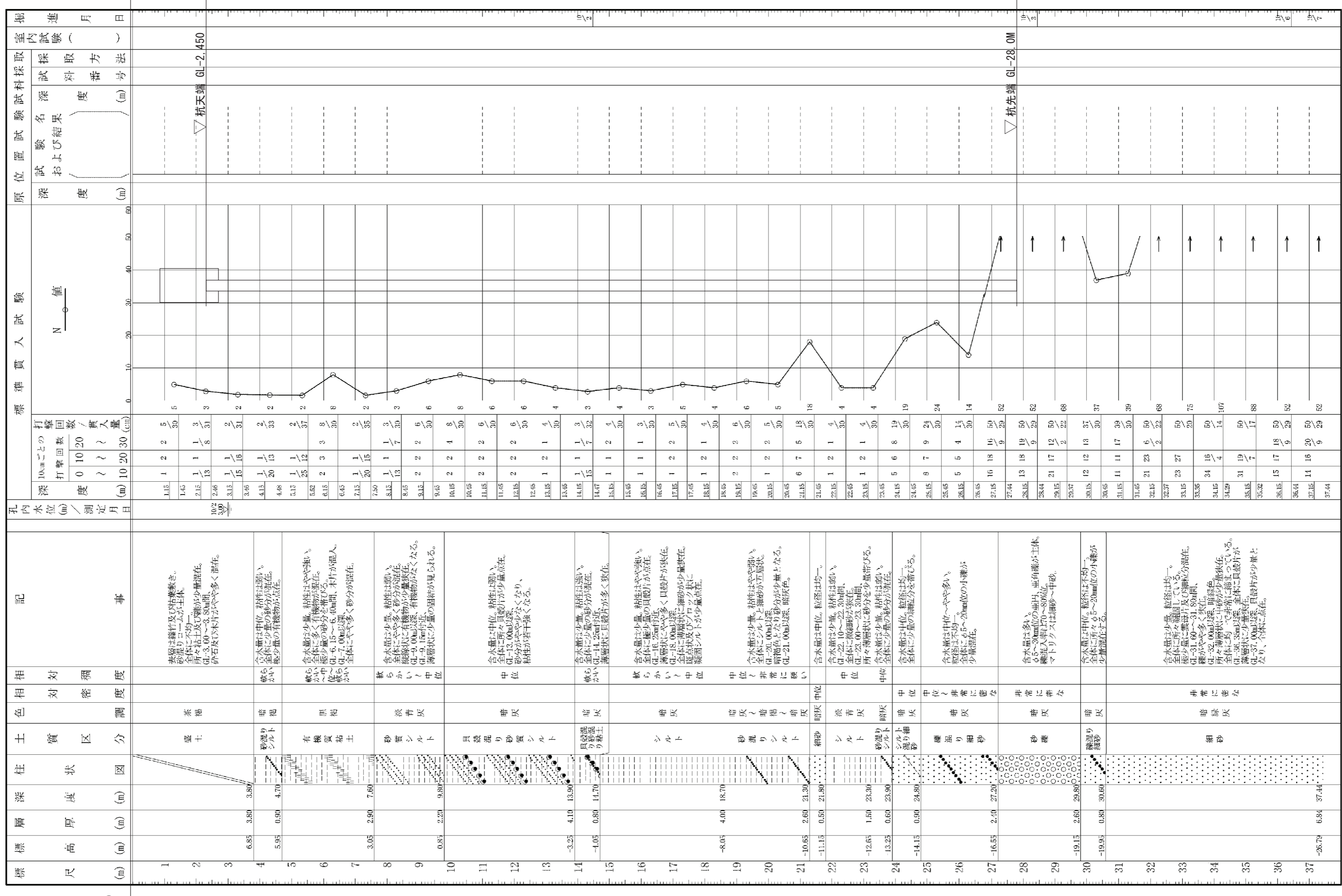
ボーリング№

調査名 新消防署整備基本設計及び実施設計業務委託

ボーリング№

ボーリング名 No.1 調査位置 No.1 茨城県土浦市右勢地内 発注機関 土浦市消防本部 消防総務課 調査期間 令和7年10月2日～7年10月8日 東経 140°11'10.4" 北緯 36°2'54.9" 調査業者名 株式会社DS・唯徳 代表者 荒井 成徳 責任者 荒井 成徳 現場主任 久直 代理店 荒井 成徳 責任者 荒井 成徳 地質調査 株式会社DS・唯徳 電話(029-879-5840) 所在地 茨城県土浦市右勢地内 東経 140°11'10.4" 北緯 36°2'54.9" 使用機器 エンジン ヤンマー TF-90E ポンプ ハンマー 総掘進長さ 37.44m

ボーリング名 No.5 調査位置 No.5 茨城県土浦市右勢地内 発注機関 土浦市消防本部 消防総務課 調査期間 令和7年9月26日～7年10月2日 東経 140°11'9.2" 北緯 36°2'54.7" 調査業者名 株式会社DS・唯徳 代表者 荒井 成徳 責任者 荒井 成徳 現場主任 久直 代理店 荒井 成徳 責任者 荒井 成徳 地質調査 株式会社DS・唯徳 電話(029-879-5840) 所在地 茨城県土浦市右勢地内 東経 140°11'9.2" 北緯 36°2'54.7" 使用機器 エンジン ヤンマー NFS0-L ポンプ ハンマー 総掘進長さ 36.44m



e-pile next工法設計施工標準

1. 押込み方向許容支持力及び適用範囲

- (1) 件名 e-pile next工法 先端地盤：砂質地盤（礫質地盤を含む）粘土質地盤
- (2) 本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1) 長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力 (kN)を(1)式で算出する。

$$R_a = \frac{1}{3} \{ \alpha N_{k1} + (\beta N_{s1} + \gamma q_{ult}) \psi \} \dots (1)$$

2) 短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力 (kN)を(2)式で算出する。

$$R_a = \frac{2}{3} \{ \alpha N_{k1} + (\beta N_{s1} + \gamma q_{ult}) \psi \} \dots (2)$$

ここで、(1)・(2)式において、
 α ：くい先端支持力係数 ($\alpha = 2.95$)
 N ：基礎ぐいの先端より下方に1 D w、上方に1 D wの範囲の地盤標準貫入試験による打撃回数(回) (先測：くい本体鋼管部の下端 D w：振翼の直径)
 ただし、砂質地盤 $4 \leq N \leq 60$ とする。Nの算出に用いる層々のN値はN<4の場合N=0、N>60の場合N=60とする。
 β ：粘土質地盤 $3 \leq N \leq 60$ とする。Nの算出に用いる層々のN値はN<3.0の場合N=0、N>60の場合N=60とする。
 γ ：基礎ぐいの先端の有効断面積 (m²)
 ψ ：砂質地盤におけるくい周囲摩擦係数係数 ($\beta = 0$)
 ψ ：粘土質地盤におけるくい周囲摩擦係数係数 ($\beta = 0$)

(3) 適用範囲
 1) 基礎ぐいの地盤の種類
 基礎ぐいの先端地盤：砂質地盤（礫質地盤を含む）
 基礎ぐいの先端地盤：粘土質地盤
 基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤および粘土質地盤
 2) 液状化しない地盤に液状化しない層まで先端を到達させる。
 3) 最小施工深さ及び最大施工深さは杭施工地盤面から先端位置までの深さとする。

2)-1. 軸径と最大施工深さ

軸径 D (mm)	48.6	60.5	76.3	89.1	101.6	114.3	139.8	165.2
最大施工深さ	6.3	7.8	9.9	11.5	13.2	14.8	18.1	21.4

2)-2. 軸径と最大施工深さ

軸径 D (mm)	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4	457.2	508.0
最大施工深さ	24.7	28.1	34.7	41.4	46.2	52.8	59.4	61.5

3) 適用する建築物の規模
 各層の床面積の合計が500,000m²以内のものとする。

(4) 材料から決まる長期許容支持力
 1) 材料から決まる長期許容支持力の算定式

$$R_a = F \cdot \sqrt{1.5} \cdot A_e \times (1 - \alpha)$$
 【記号の説明】
 R_a ：材料から決まる長期許容軸重支持力 (kN)
 F ：設計基準強度 (N/mm²) $F = (0.8 + 2.5te/r) F_c$ かつ $F \leq F_c$
 F_c ：くいの材料の許容基準強度 (235N/mm²) ※STK400
 F_c ：くいの材料の許容基準強度 (325N/mm²) ※STK490
 F_c ：くいの材料の許容基準強度 (440N/mm²) ※SEAH590、HU590
 te ：腐食しろ(外面tmm)を除いたくい厚 (mm)
 r ：くいの半径 (mm)
 A_e ：腐食しろを除いたくいの断面積 (cm²)
 α ：継手による低減率 (0.05/1か所) ※半自動溶接の場合は低減なしとします。

2. 引抜き方向短期許容支持力及び適用範囲

- (1) くい基礎の許容支持力を定める際に求める短期に生ずる力に対する地盤の引抜き方向許容支持力は(1)式による。
 1) 短期に生ずる力に対する地盤の引抜き支持力 (kN)を(1)式で算出する。

$$T_{Ra} = \frac{2}{3} \{ \alpha N_{k1} + (\lambda N_{s1} + \mu q_{ult}) \psi \} \cdot W_p \dots (1)$$
 ここで、(1)式において、
 K ：引抜き方向のくい先端支持力係数
 α ：砂質地盤・礫質地盤 $K = 52$
 α ：粘土質地盤 $K = 47$
 N ：基礎ぐいの先端より上方に2 D wの範囲の地盤標準貫入試験による打撃回数(回) (先測：くい本体鋼管部の下端 D w：振翼の直径)
 λ ：砂質地盤 $5 \leq N \leq 60$
 λ ：礫質地盤 $2.9 \leq N \leq 60$ ※平均算出N値：16 ≤ N ≤ 60とする。
 μ ：粘土質地盤 $4 \leq N \leq 60$
 λ ：基礎ぐいの先端の有効断面積 (m²)
 ψ ：砂質地盤におけるくい周囲摩擦係数係数 ($\lambda = 0$)
 μ ：粘土質地盤におけるくい周囲摩擦係数係数 ($\lambda = 0$)
 N ：基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数(回)
 N ：基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤の軸圧縮強度の合計 (kN/m²)
 q_c ：基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤の軸圧縮強度の平均値 (kN/m²)
 L_c ：基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計 (m)
 ψ ：基礎ぐい周囲の有効長さ (m) $\psi = \pi \cdot D$
 W_p ：基礎ぐいのうち浮力を考慮した有効自重 (kN)

(2) 適用範囲
 1) 基礎ぐいの地盤の種類
 基礎ぐいの先端地盤：砂質地盤（礫質地盤を含む）
 基礎ぐいの先端地盤：粘土質地盤
 基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤および粘土質地盤
 2) 液状化しない地盤に液状化しない層まで先端を到達させる。
 3) 最小施工深さ及び最大施工深さは杭施工地盤面から先端位置までの深さとする。

3)-1. 最小施工深さ及び最大施工深さ * () 内は先端地盤：粘土質地盤

軸径 D (mm)	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4	457.2	508.0
最小施工深さ	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	4.1	4.6	5.1
最大施工深さ	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.4	46.2	52.8	59.4	61.5

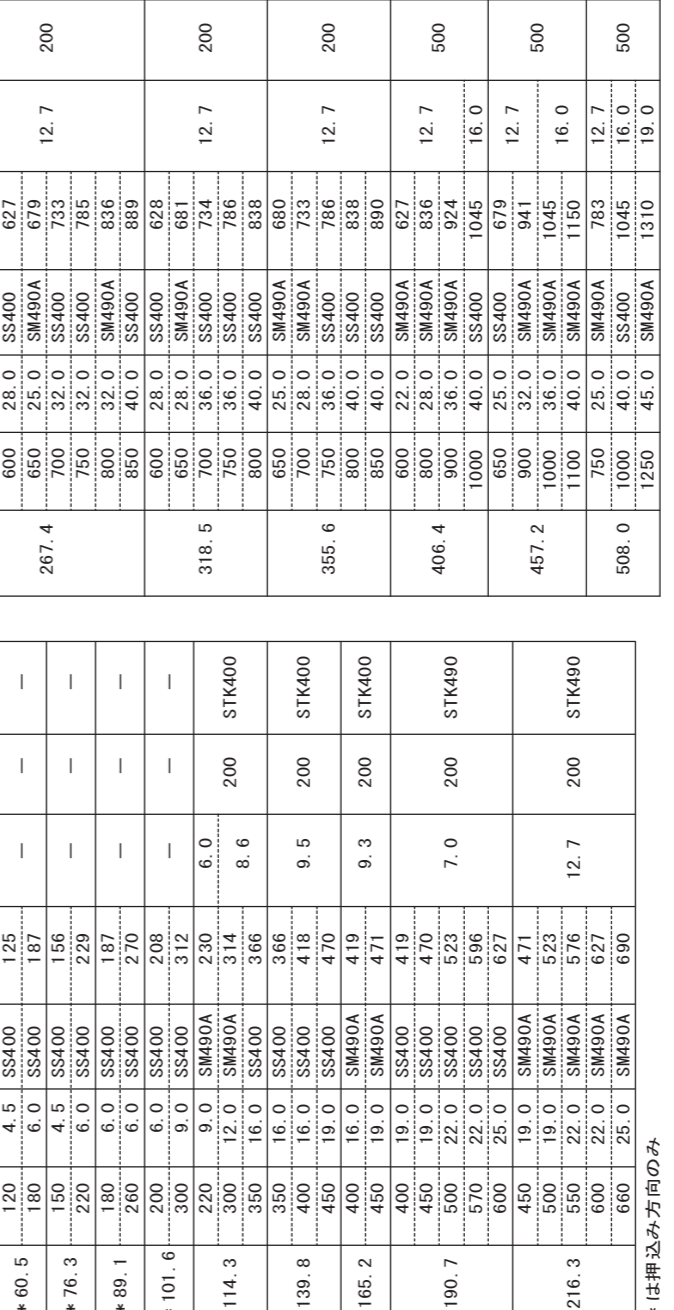
3)-2. 軸径と最大施工深さ
 各層の床面積の合計が500,000m²以内のものとする。

杭本体 D(mm)	特殊部 D(mm)	杭本体 長さ (mm)	特殊部 長さ (mm)	杭本体 材質	特殊部 材質	杭本体		特殊部	
						外径 (mm)	内径 (mm)	外径 (mm)	内径 (mm)
*48.6	140	3.2	55400	104	—	500	19.0	SM490A	S27
*60.5	140	4.5	55400	146	—	590	25.0	SS400	S16
*76.3	150	6.0	55400	187	—	690	32.0	SM490A	S19
*89.1	150	4.5	55400	156	—	700	32.0	SS400	S13
*101.6	160	6.0	55400	208	—	790	37.0	SM490A	S19
*114.3	160	6.0	55400	208	—	850	40.0	SS400	S19
*139.8	170	9.0	55400	274	—	900	40.0	SM490A	S27
*165.2	180	9.0	55400	274	—	950	40.0	SS400	S24
*190.7	190	12.0	55400	314	200	1000	40.0	SM490A	S27
*216.3	190	16.0	55400	366	8.6	1000	40.0	SS400	S18
*267.4	200	16.0	55400	366	—	1000	40.0	SM490A	S27
*318.5	210	19.0	55400	418	9.5	1000	40.0	SS400	S13
*355.6	220	19.0	55400	418	—	1000	40.0	SM490A	S27
*406.4	230	22.0	55400	470	9.3	1000	40.0	SS400	S13
*457.2	240	22.0	55400	470	—	1000	40.0	SM490A	S27
*508.0	250	22.0	55400	470	—	1000	40.0	SS400	S13

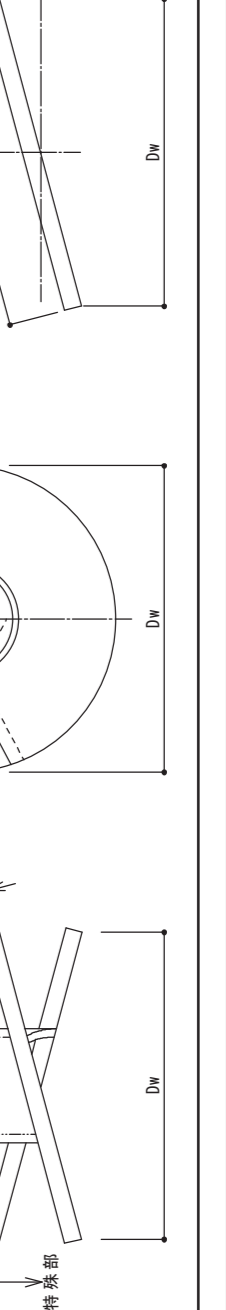
3)-3. 最小施工深さ及び最大施工深さ
 施工深さは杭施工地盤面から先端位置までの深さとする。

杭本体 D(mm)	特殊部 D(mm)	杭本体 長さ (mm)	特殊部 長さ (mm)	杭本体 材質	特殊部 材質	杭本体		特殊部	
						外径 (mm)	内径 (mm)	外径 (mm)	内径 (mm)
*48.6	140	3.2	55400	104	—	500	19.0	SM490A	S27
*60.5	140	4.5	55400	146	—	590	25.0	SS400	S16
*76.3	150	6.0	55400	187	—	690	32.0	SM490A	S19
*89.1	150	4.5	55400	156	—	700	32.0	SS400	S13
*101.6	160	6.0	55400	208	—	790	37.0	SM490A	S19
*114.3	160	6.0	55400	208	—	850	40.0	SS400	S19
*139.8	170	9.0	55400	274	—	900	40.0	SM490A	S27
*165.2	180	9.0	55400	274	—	950	40.0	SS400	S24
*190.7	190	12.0	55400	314	200	1000	40.0	SM490A	S27
*216.3	190	16.0	55400	366	8.6	1000	40.0	SS400	S18
*267.4	200	16.0	55400	366	—	1000	40.0	SM490A	S27
*318.5	210	19.0	55400	418	9.5	1000	40.0	SS400	S13
*355.6	220	19.0	55400	418	—	1000	40.0	SM490A	S27
*406.4	230	22.0	55400	470	9.3	1000	40.0	SS400	S13
*457.2	240	22.0	55400	470	—	1000	40.0	SM490A	S27
*508.0	250	22.0	55400	470	—	1000	40.0	SS400	S13

3)-4. 杭頭部の規格・構造
 杭に水平力を負担させない場合
 杭軸方向に水平力は発生しない。
 杭頭部の仕様については、後詳を要する。
 中継のコネクタードスクリュー(0.190以上)

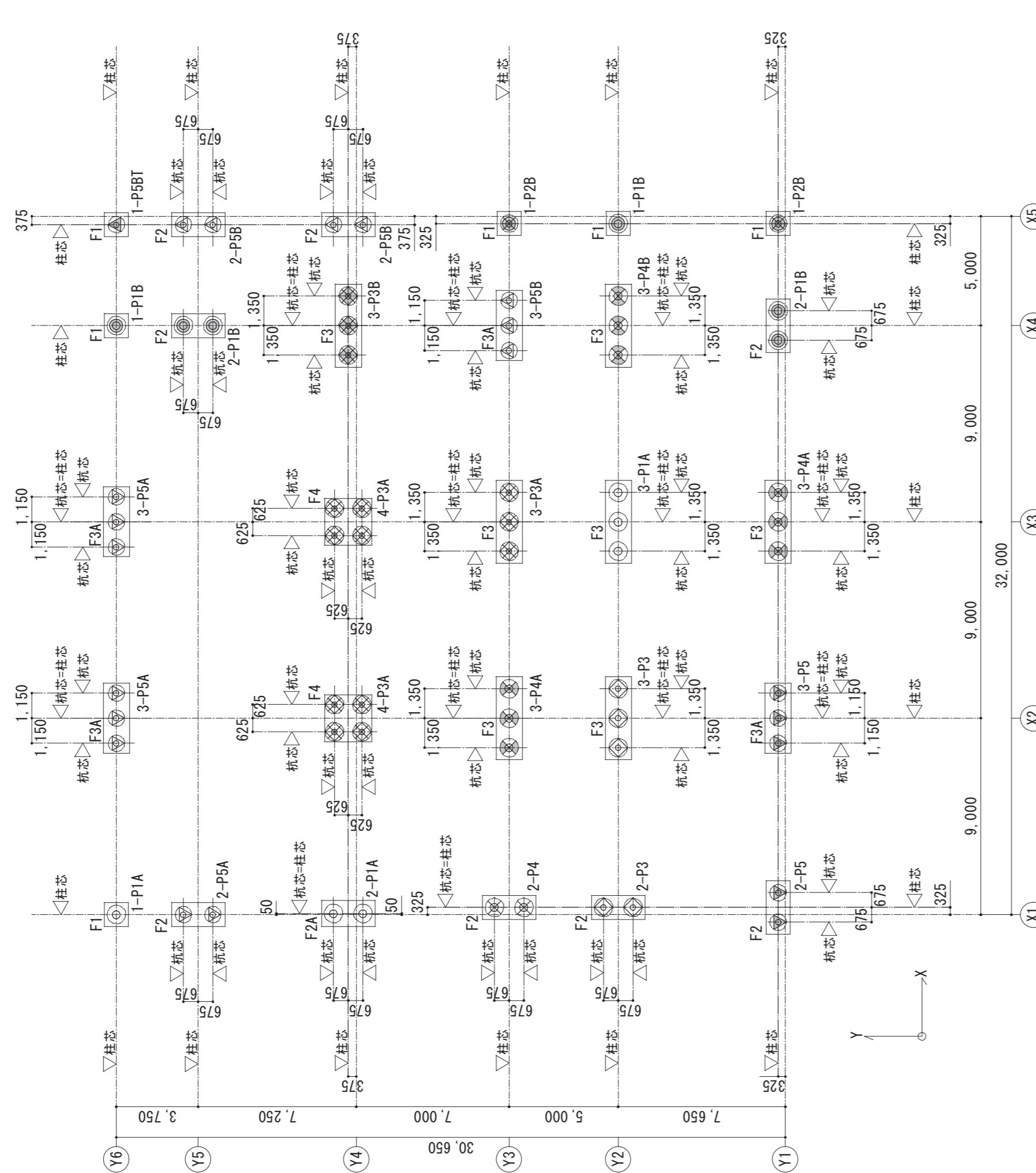


杭に水平力を負担させる場合
 杭軸方向に水平力は発生しない。
 杭頭部の仕様については、後詳を要する。
 中継のコネクタードスクリュー(0.190以上)

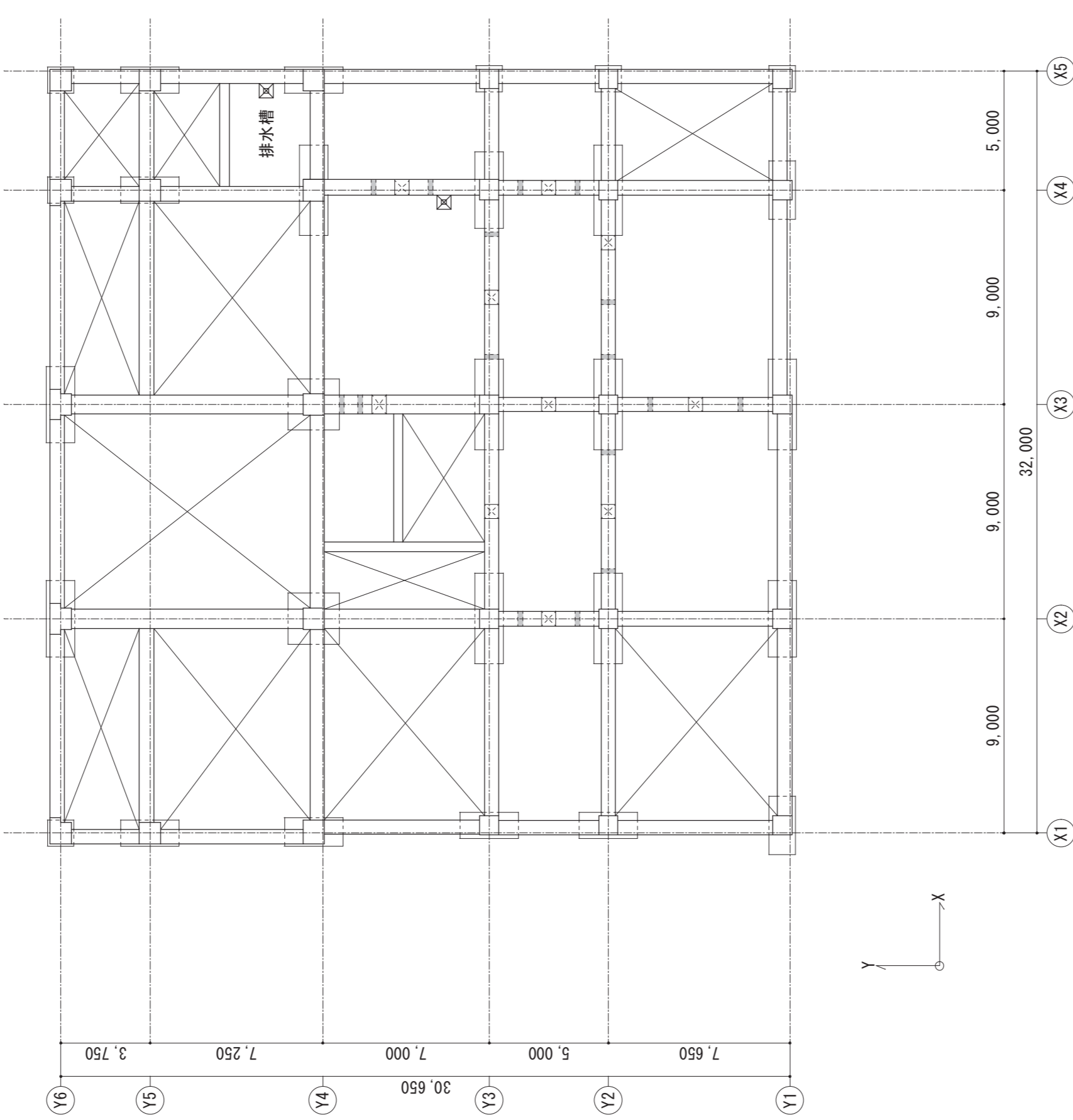


4. e-pile nextテーパー管の規格

テーパー管		テーパー管		テーパー管	
上節径 (mm)	下節径 (mm)	高さ (mm)	材質	上節径 (mm)	下節径 (mm)
139.8	114.3	101	SM490A	406.4	201
165.2	139.8	201	SM490A	457.2	355.6
190.7	165.2	101	SM490A	508.0	406.4
216.3	190.7	201	SM490A	558.8	457.2
241.8	216.3	101	SM490A	609.6	508.0
267.4	241.8	201	SM490A	660.4	558.8
292.9	267.4	101	SM490A	711.2	609.6
318.5	292.9	201	SM490A	762.0	660.4
344.0	318.5	101	SM490A	812.8	711.2
369.6	344.0	201	SM490A	863.6	762.0
395.1	369.6	101	SM490A	914.4	812.8
420.7	395.1	201	SM490A	965.2	863.6
446.2	420.7	101	SM490A	1016.0	914.4
471.8	446.2	201	SM490A	1066.8	965.2
500.0	471.8	101	SM490A	1117.6	1016.0
525.6	500.0	201	SM490A	1168.4	1066.8
551.2	525.6	101	SM490A	1219.2	1117.6
576.8	551.2	201	SM490A	1270.0	1168.4
602.4	576.8	101	SM490A	1320.8	1219.2
628.0	602.4	201	SM490A	1371.6	1270.0
653.6	628.0	101	SM490A	1422.4	1320.8
679.2	653.6	201	SM490A	1473.2	1371.6
704.8	679.2	101	SM490A	1524.0	1422.4
730.4	704.8	201	SM490A	1574.8	1473.2
756.0	730.4	101	SM490A	1625.6	1524.0
781.6	756.0	201	SM490A	1676.4	1574.8
807.2	781.6	101	SM490A	1727.2	1625.6
832.8	807.2	201	SM490A	1778.0	1676.4
858.4	832.8	101	SM490A	1828.8	1727.2
884.0	858.4	201	SM490A	1879.6	1778.0
909.6	884.0	101	SM490A	1930.4	1828.8
935.2	909.6	201	SM490A	1981.2	1879.6
960.8	935.2	101	SM490A	2032.0	1930.4
986.4	960.8	201	SM490A	2082.8	1981.2
1012.0	986.4	101	SM490A	2133.6	2032.0
1037.6	1012.0	201	SM490A	2184.4	2082.8
1063.2	1037.6	101	SM490A	2235.2	2133.6
1088.8	1063.2	201	SM490A	2286.0	2184.4
1114.4	1088.8	101	SM490A	2336.8	2235.2
1140.0	1114.4	201	SM490A	2387.6	2286.0
1165.6	1140.0	101	SM490A	2438.4	2336.8
1191.2	1165.6	201	SM490A	2489.2	2387.6
1216.8	1191.2	101	SM490A	2540.0	2438.4
1242.4	1216.8	201	SM490A	2590.8	2489.2
1268.0	1242.4	101	SM490A	2641.6	2540.0
1293.6	1268.0	201	SM490A	2692.4	2590.8
1319.2	1293.6	101	SM490A	2743.2	2641.6
1344.8	1319.2	201	SM490A	2794.0	2692.4
1370.4	1344.8	101	SM490A	2844.8	2743.2
1396.0	1370.4	201	SM490A	2895.6	2794.0
1421.6	1396.0	101	SM490A	2946.4	2844.8
1447.2	1421.6	201	SM490A	2997.2	2895.6
1472.8	1447.2	101	SM490A	3048.0	2946.4
1498.4	1472.8	201	SM490A	3098.8	2997.2
1524.0	1498.4	101	SM490A	3149.6	3048.0
1549.6	1524.0	201	SM490A	3200.4	3098.8
1575.2	1549.6	101	SM490A	3251.2	3149.6
1600.8	1575.2	201	SM490A	3302.0	3200.4
1626.4	1600.8	101	SM490A	3352.8	3251.2
1652.0	1626.4	201	SM490A	3403.6	3302.0
1677.6	1652.0	101	SM490A	3454.4	3352.8
1703.2	1677.6	201	SM490A	3505.2	3403.6
1728.8	1703.2	101	SM490A	3556.	



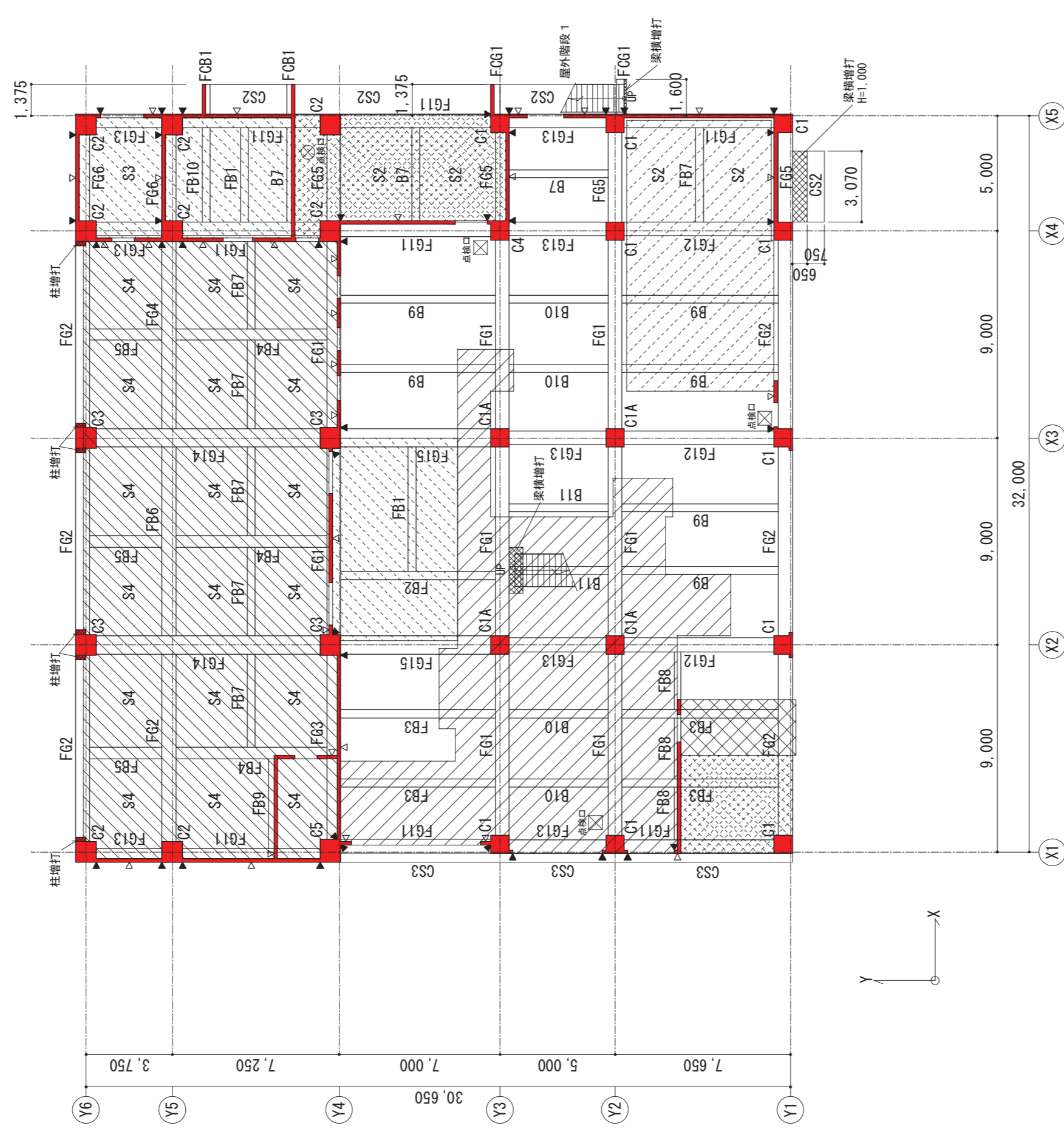
杭伏図 S=1/200
 特記なき限り
 1. 杭種：先端羽根付鋼管杭
 2. 工法：回転工法 (e-pile next工法：大臣認定工法 相当)
 3. 支持層：細砂層
 4. 基礎下端レベルはGL-2.850とする。
 5. 杭施工に先立ち試験型により支持層を確認する。
 6. 杭芯ずれが100mmを超えた場合は工事監理者に報告の上、関係各所と協議すること



ピット伏図 S=1/200
 特記なき限り
 1. 耐圧板はFS1とする。
 2. 耐圧板はFS1とする。
 3. ピットレベルは下階による。
 4. は人通り600φを示す。
 5. は通水管200φ半割及び埋込管100φを示す。
 6. は蓋溝 600×600×H600を示す。

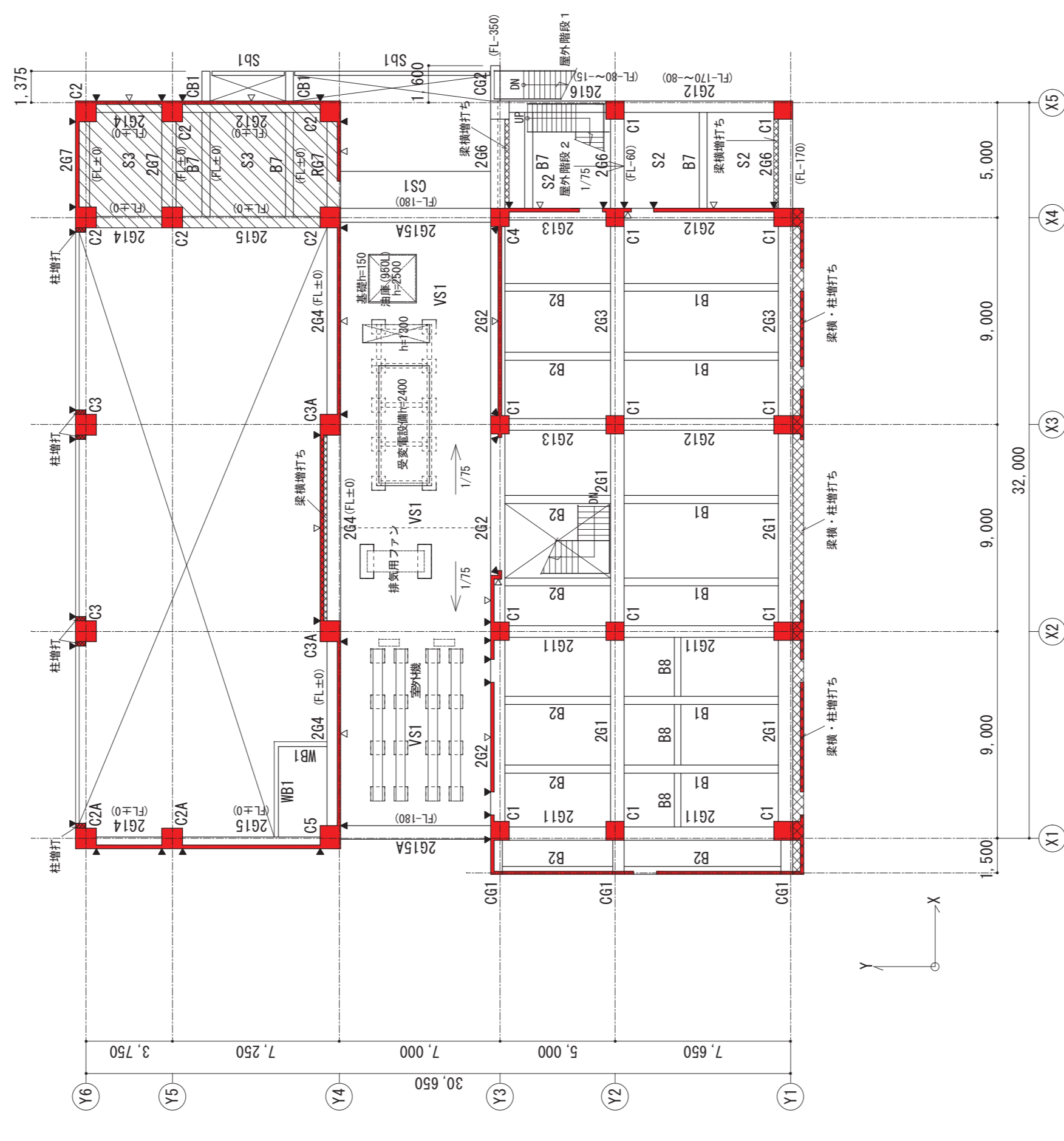
杭リスト

符号	杭頭位置 GL-(mm)	杭種	上杭		中1杭		中2杭		中3杭		下杭		杭先端	杭頭部	杭頭部強筋	合計(m)	杭本数合計	長期許容支持力
			長さ(m)	種類	長さ(m)	種類	長さ(m)	種類	長さ(m)	種類	長さ(m)	種類						
P1A	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.45	STK490 t=7.9mm	2.00	STK490 t=7.9mm	4.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	26.65	6	1200kN
P1B	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	3.00	STK490 t=7.9mm	2.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	25.55	6	1200kN
P2B	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	2.00	STK490 t=7.9mm	3.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	25.55	5	1045kN
P3	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	2.00	STK490 t=7.9mm	18.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	28.55	2	1105kN
P3A	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.45	STK490 t=7.9mm	2.00	STK490 t=7.9mm	4.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	26.65	11	1105kN
P3B	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	2.00	STK490 t=7.9mm	3.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	25.55	3	1105kN
P4	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	2.00	STK490 t=7.9mm	18.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	26.65	2	993kN
P4A	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.45	STK490 t=7.9mm	1.00	STK490 t=7.9mm	5.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	26.65	6	993kN
P4B	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	1.00	STK490 t=7.9mm	4.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	25.55	3	993kN
P5	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	2.00	STK490 t=7.9mm	18.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	26.65	5	888kN
P5A	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.45	STK490 t=7.9mm	1.00	STK490 t=7.9mm	5.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	26.65	8	888kN
P5B	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	1.00	STK490 t=7.9mm	4.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	—	25.55	7	888kN
P5BT	2,450	SEAH-HU590 t=12.7mm	2.35	STK490 t=7.9mm	1.00	STK490 t=7.9mm	4.00	STK490 t=7.9mm	12.0	STK490 t=7.9mm	6.00	STK490 t=12.7mm	0.20	SS400 t=40.0mm	4-D16 L=500mm	25.55	1	888kN
杭本数合計																		
65																		



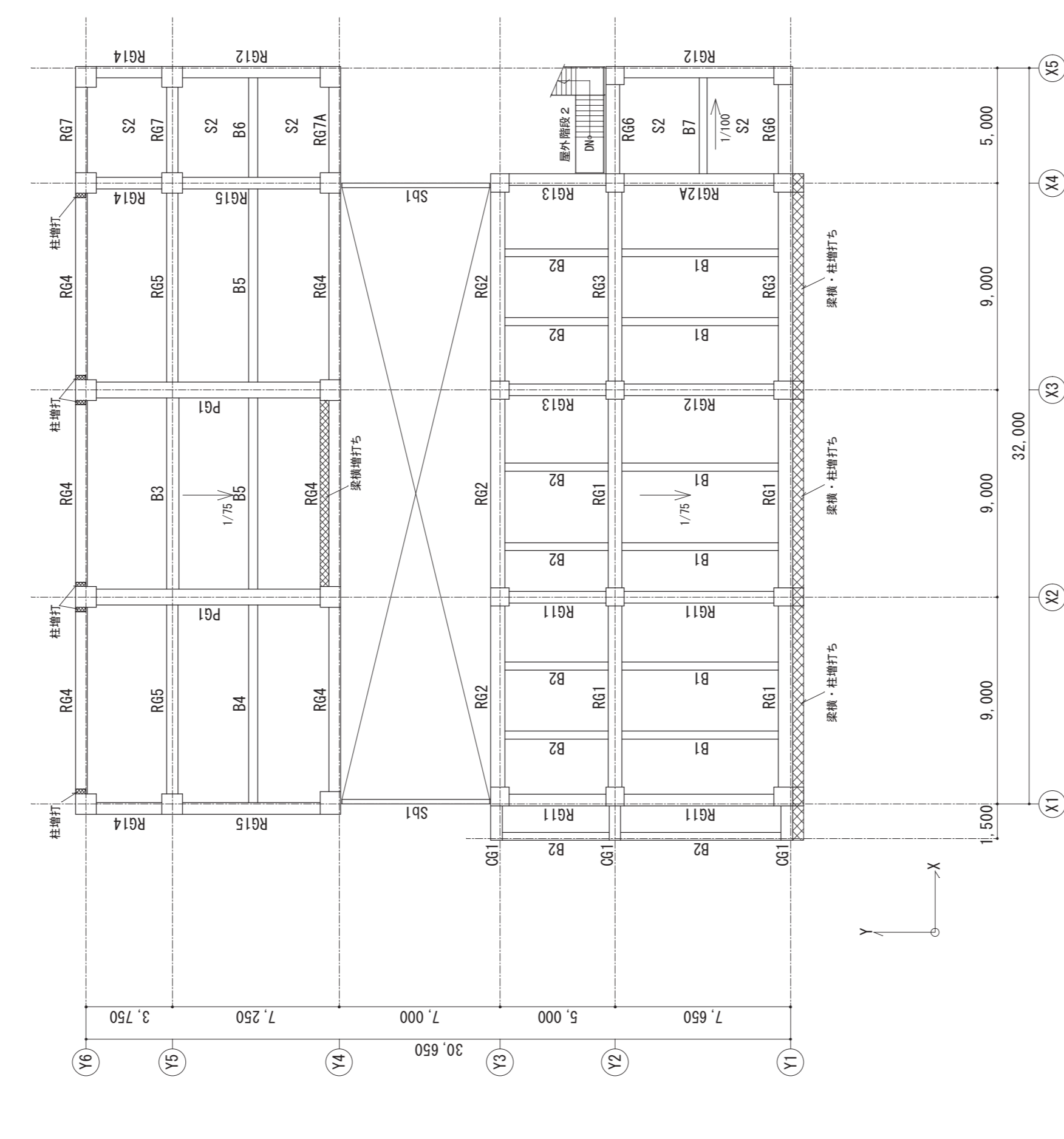
1階伏図 S=1/200

- 特記なき限り
- 壁はW15とする。
 - スラブはS1とする。
 - ▼印は軸組スリット位置を示す。
 - ▽印は軸組スリット位置を示す。
 - 斜線は梁増打を示す。
 - 点線は柱増打を示す。
- 【墨印】：FL-150 : FL±0
 FL-250 : FL±0
 FL-100 : FL-30
 FL-150



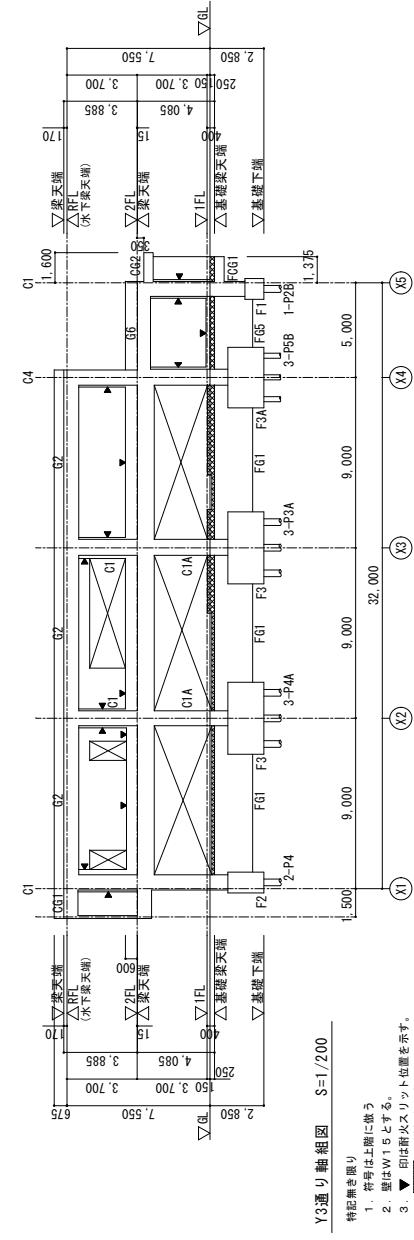
2階伏図 S=1/200

- 特記なき限り
- 壁はW15とする。
 - スラブはS1とする。
 - ▼印は軸組スリット位置を示す。
 - ▽印は軸組スリット位置を示す。
 - 斜線は梁増打を示す。
 - 点線は柱増打を示す。
 - （ ）印は階高は上段以外の段差を示す。
 - スラブ天端レベルは下記による。
- 【墨印】：FL-150 : FL±0
 1/75 : 梁増打を示す。



R階伏図 S=1/200

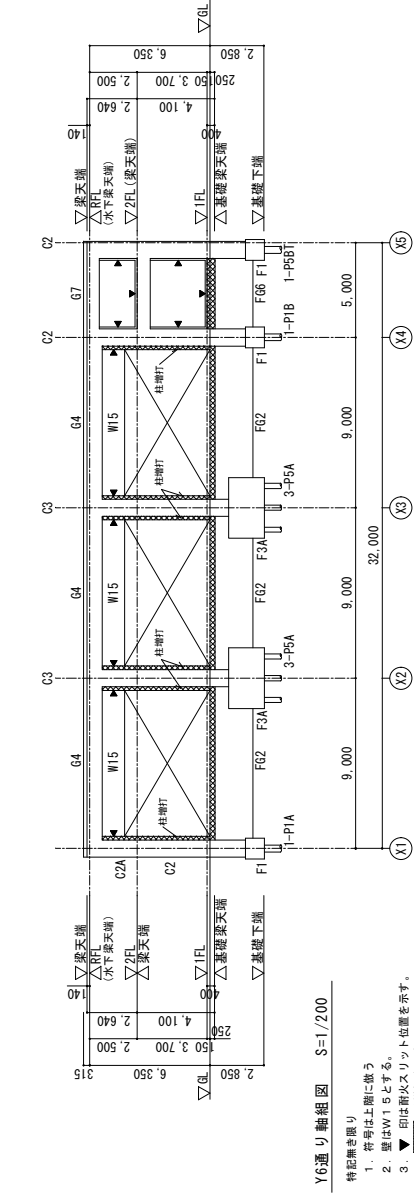
- 特記なき限り
- スラブはS1とする。
 - 梁天端レベルは軸組図による。
 - スラブ天端レベルは任意図による。
 - 1/100 : 梁増打を示す。



Y3通り軸組図 S=1/200

特記無き限り

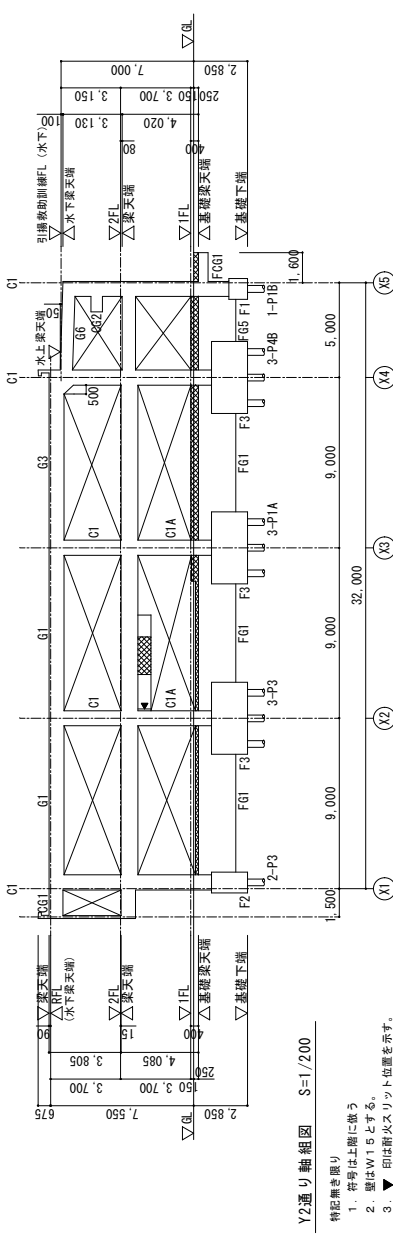
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする。
 3. ▼印は耐火スリット位置を示す。
 4. ■印は増打を示す。
- (特記無き増打厚は床幅とする)



Y6通り軸組図 S=1/200

特記無き限り

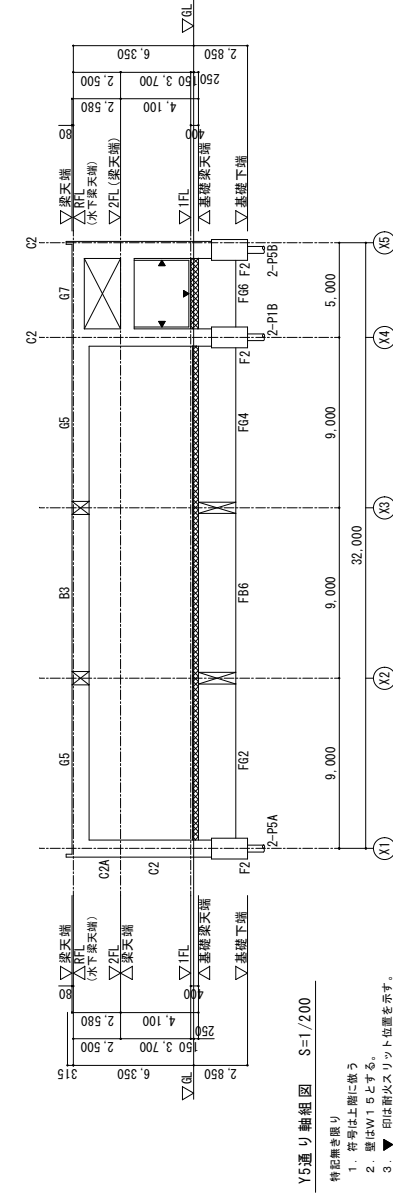
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする。
 3. ▼印は耐火スリット位置を示す。
 4. ■印は増打を示す。
- (特記無き増打厚は床幅とする)



Y2通り軸組図 S=1/200

特記無き限り

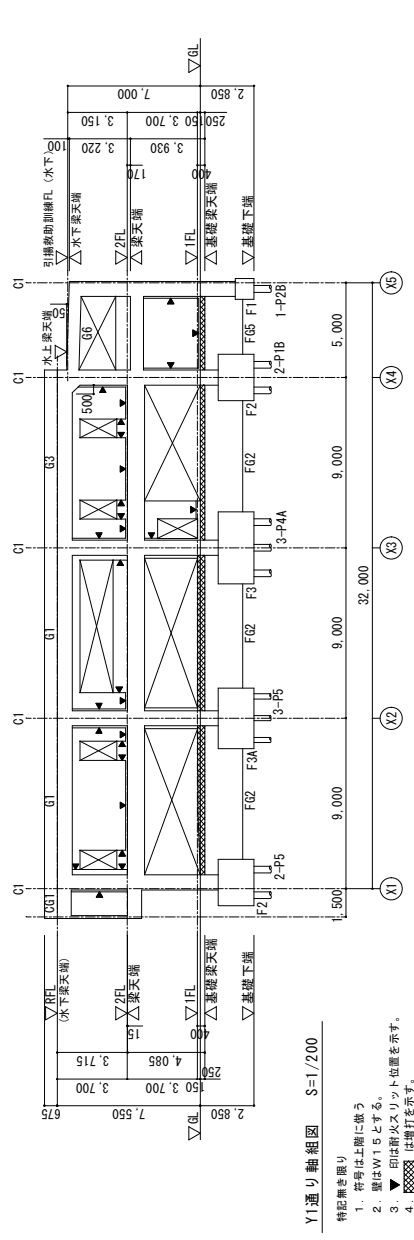
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする。
 3. ▼印は耐火スリット位置を示す。
 4. ■印は増打を示す。
- (特記無き増打厚は床幅とする)



Y5通り軸組図 S=1/200

特記無き限り

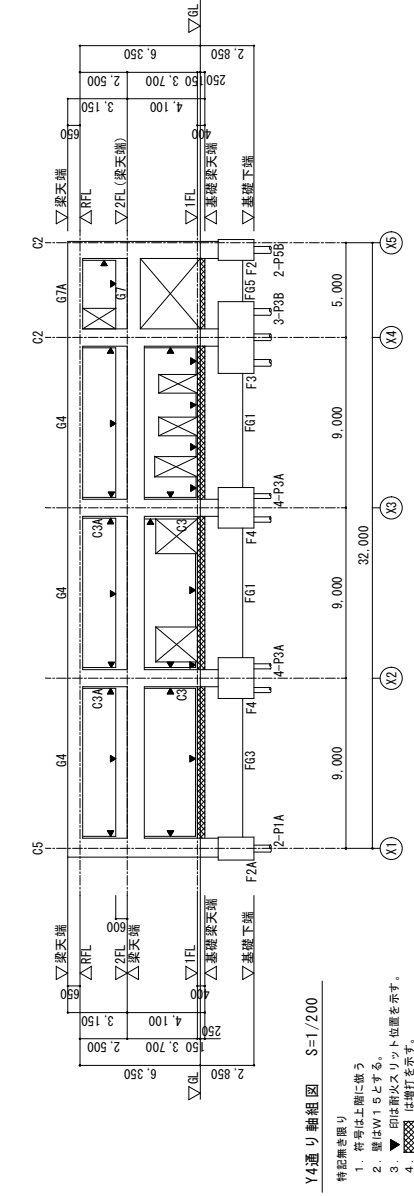
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする。
 3. ▼印は耐火スリット位置を示す。
 4. ■印は増打を示す。
- (特記無き増打厚は床幅とする)



Y1通り軸組図 S=1/200

特記無き限り

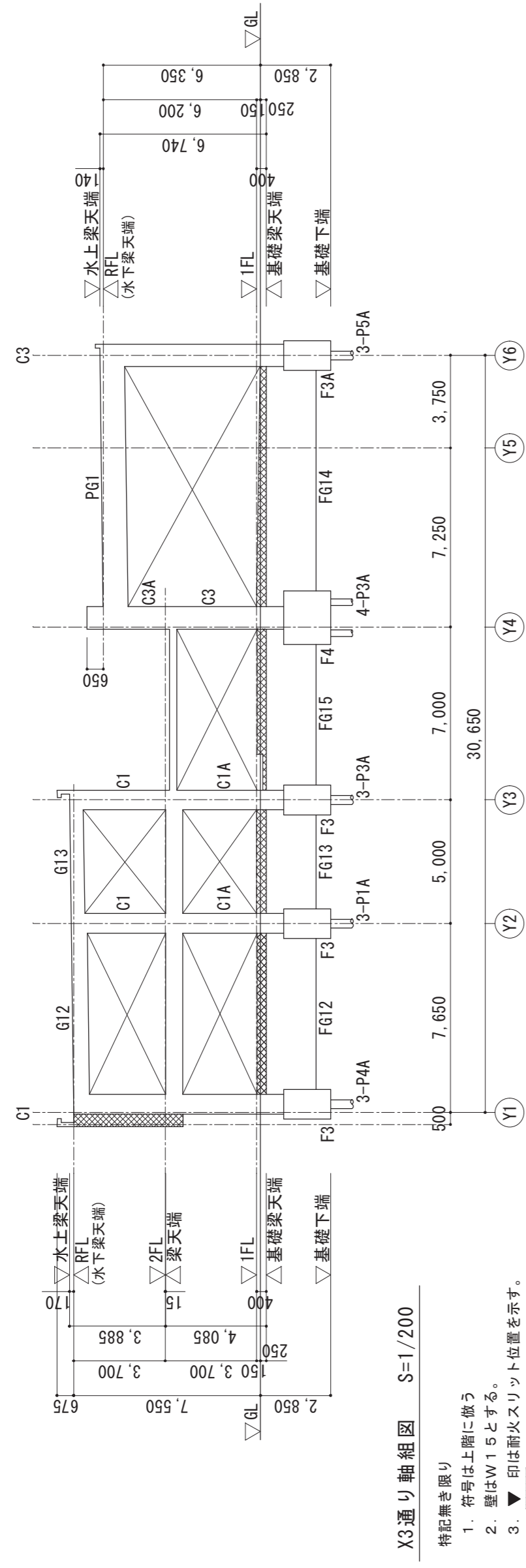
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする。
 3. ▼印は耐火スリット位置を示す。
 4. ■印は増打を示す。
- (特記無き増打厚は床幅とする)



Y4通り軸組図 S=1/200

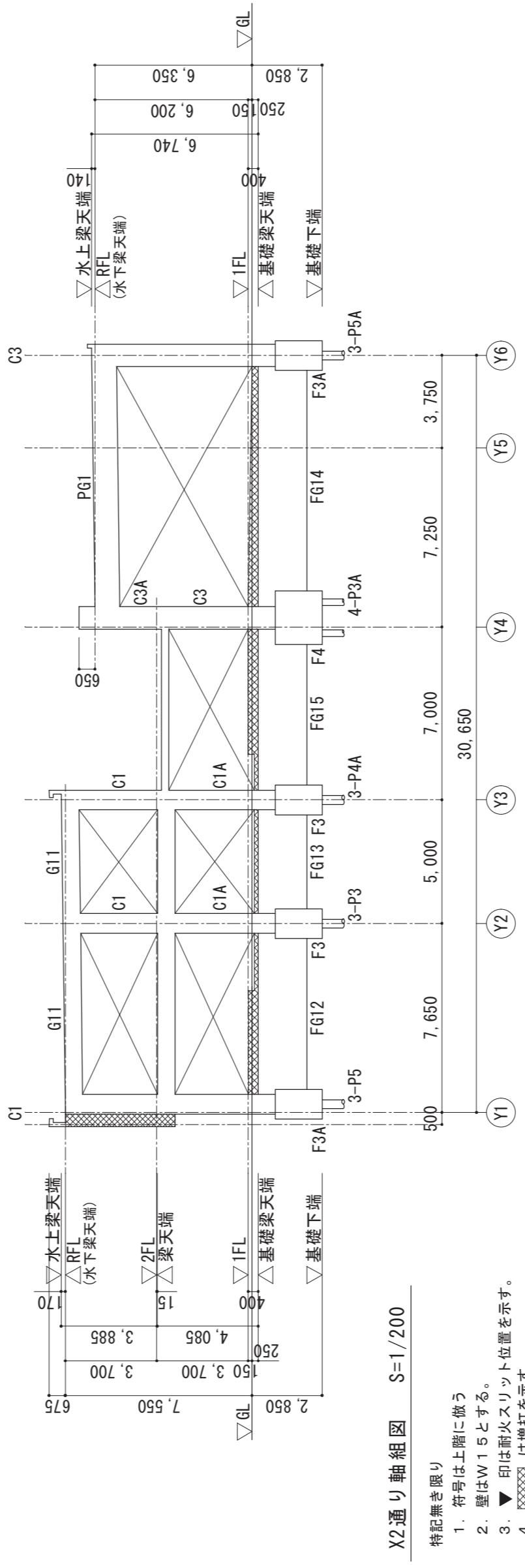
特記無き限り

1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする。
 3. ▼印は耐火スリット位置を示す。
 4. ■印は増打を示す。
- (特記無き増打厚は床幅とする)



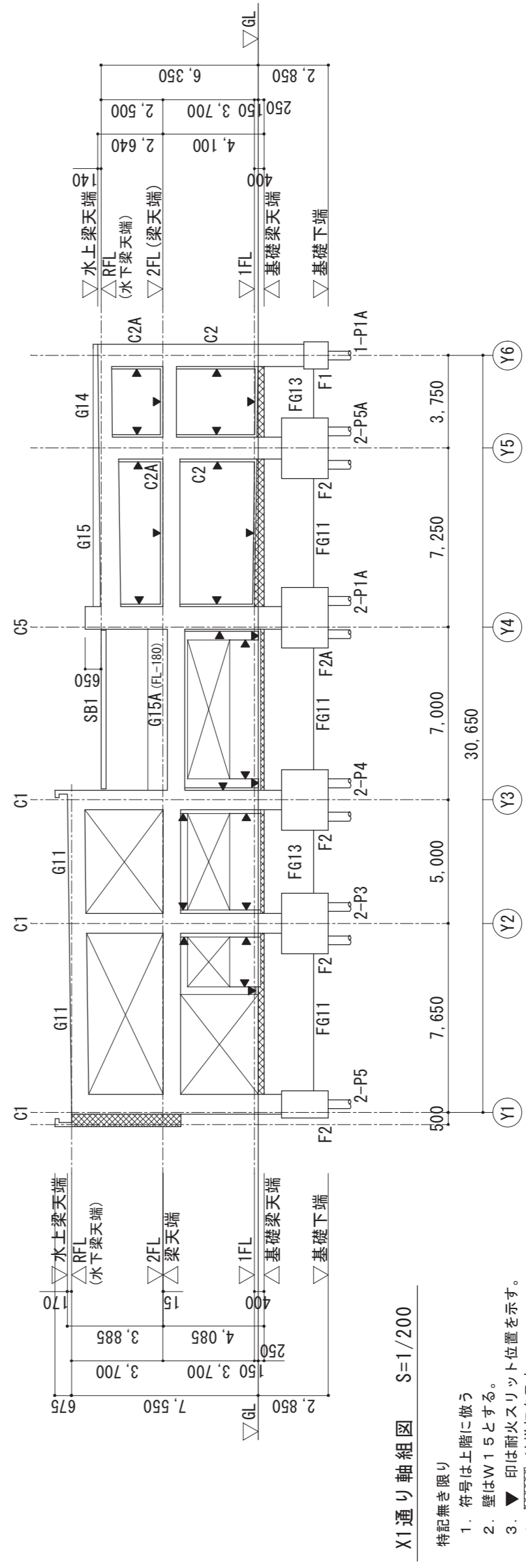
X3通り軸組図 S=1/200

- 特記無き限り
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする
 3. ▼印は耐久スリット位置を示す
 4. ◻印は増打を示す
- (特記無き増打算は梁幅とする)



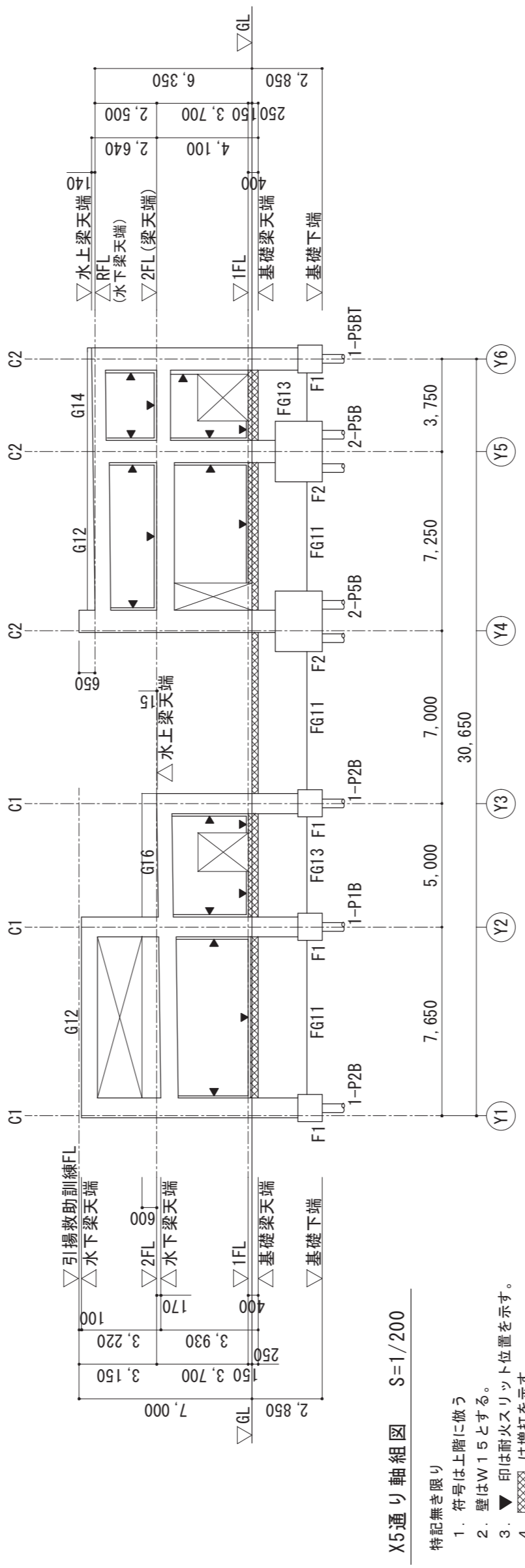
X2通り軸組図 S=1/200

- 特記無き限り
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする
 3. ▼印は耐久スリット位置を示す
 4. ◻印は増打を示す
- (特記無き増打算は梁幅とする)



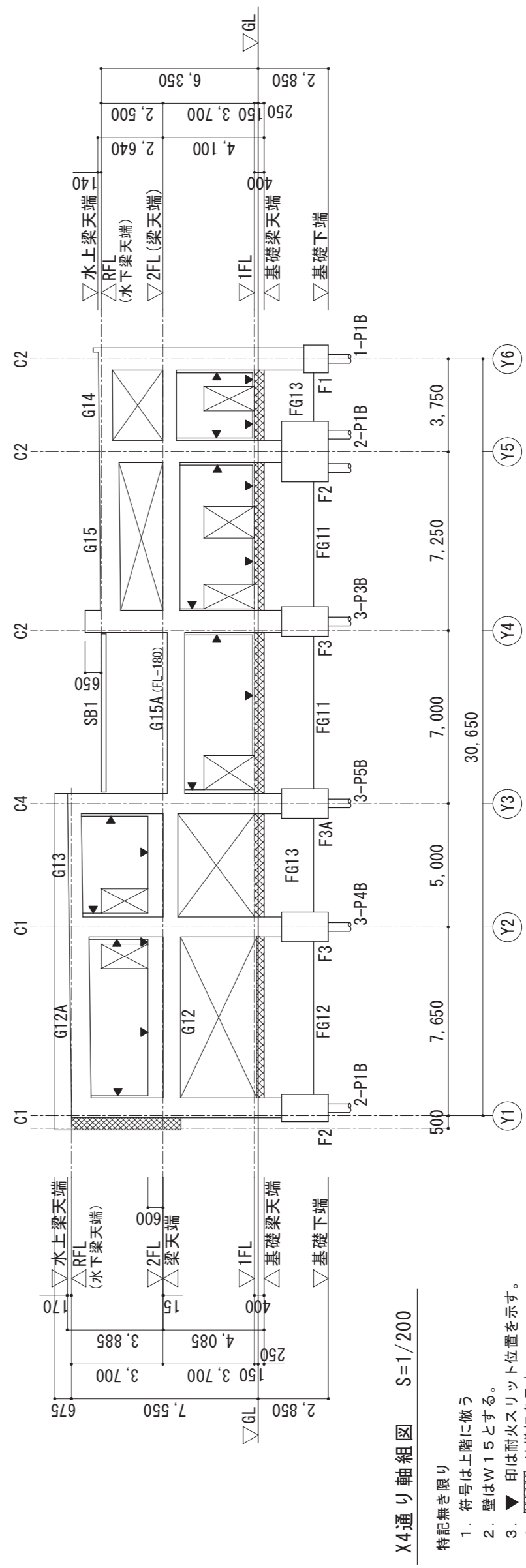
X1通り軸組図 S=1/200

- 特記無き限り
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする
 3. ▼印は耐久スリット位置を示す
 4. ◻印は増打を示す
 5. ()内は梁レベルを示す



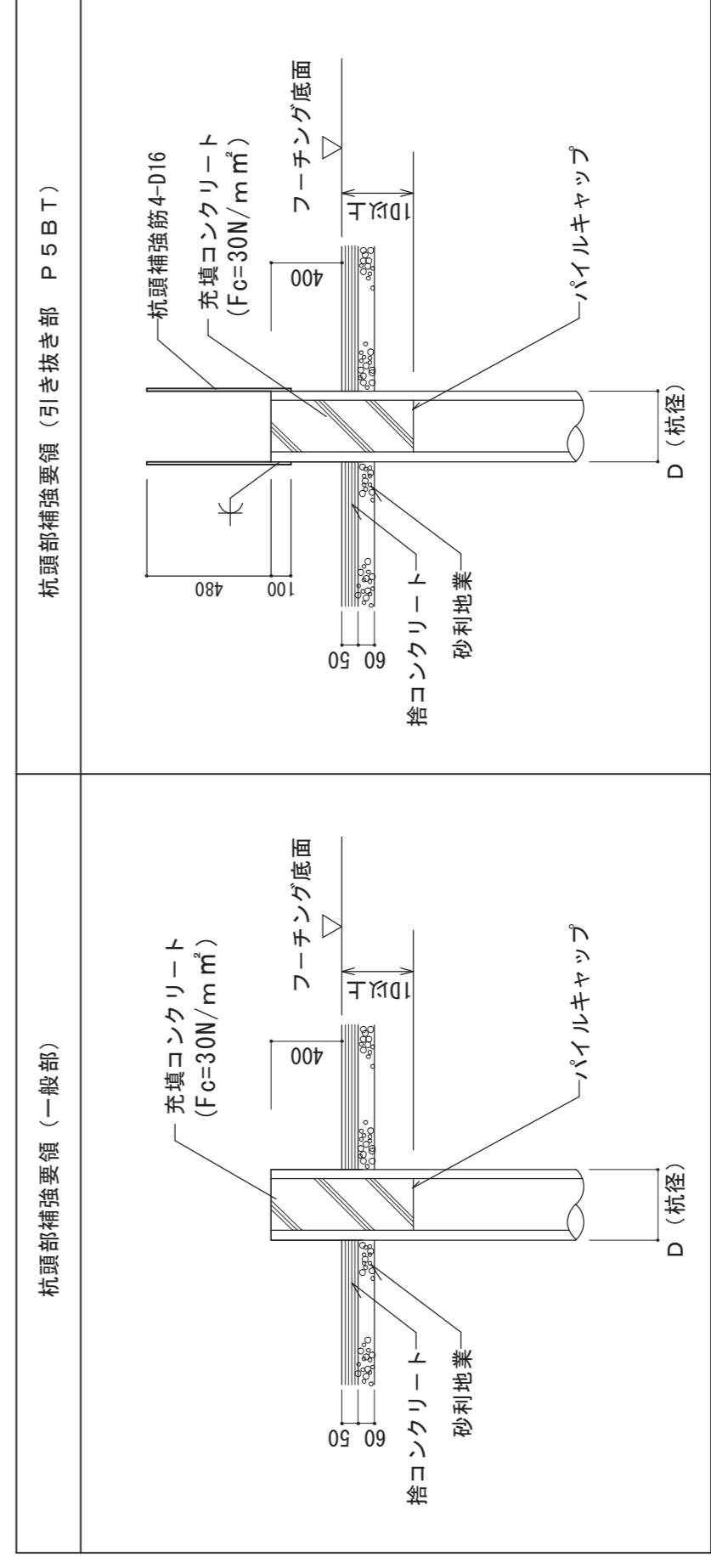
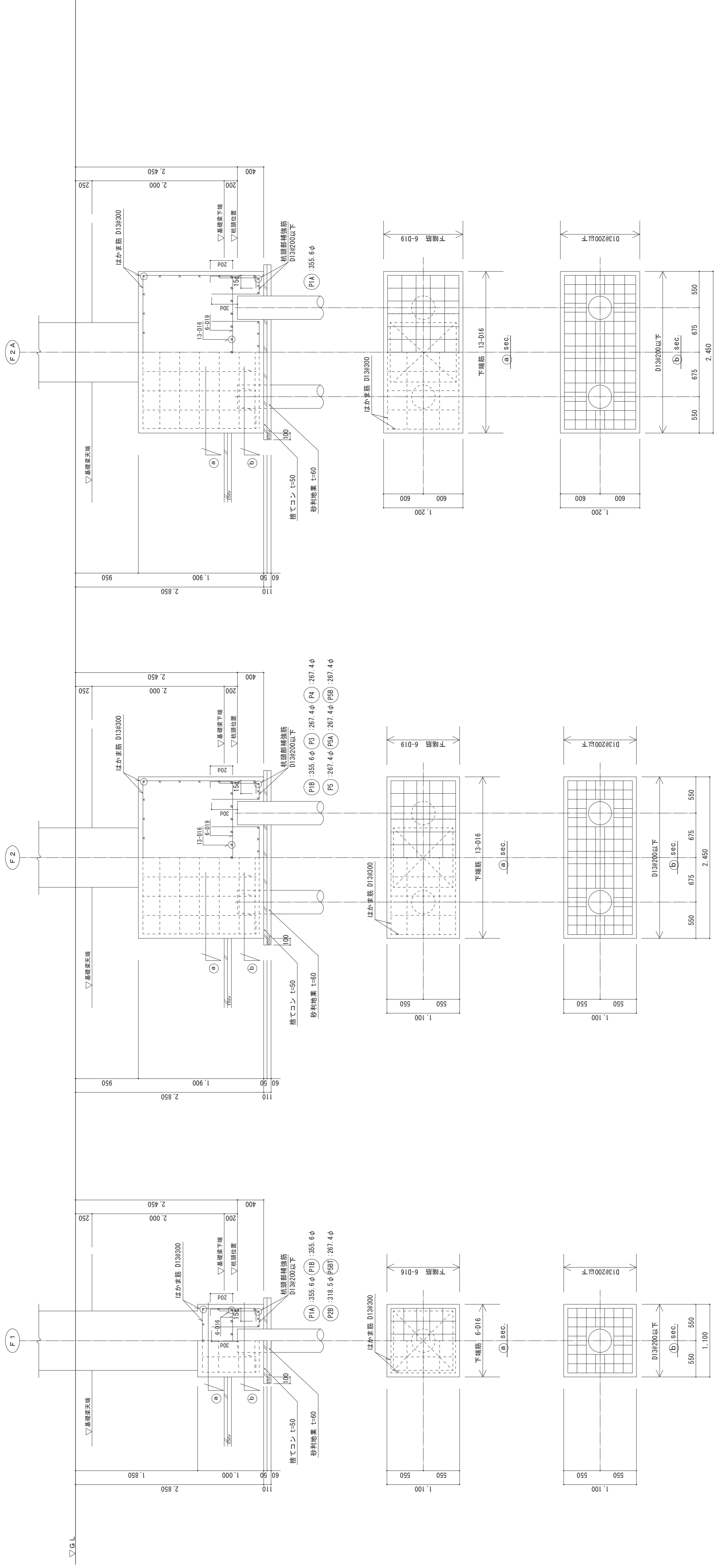
X5通り軸組図 S=1/200

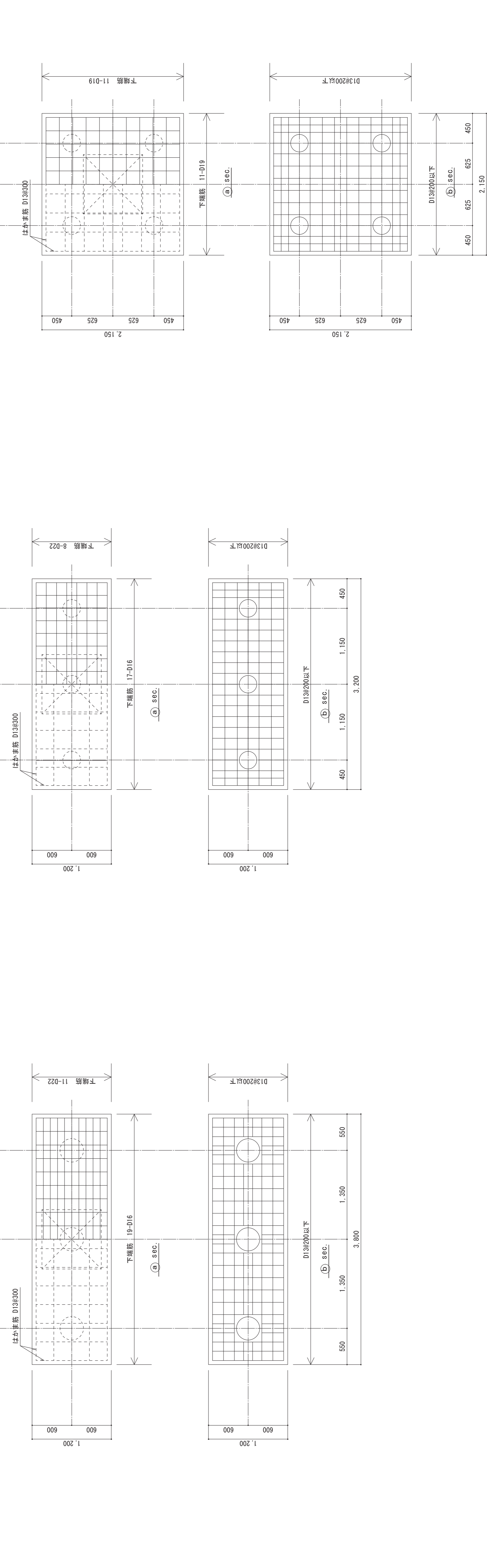
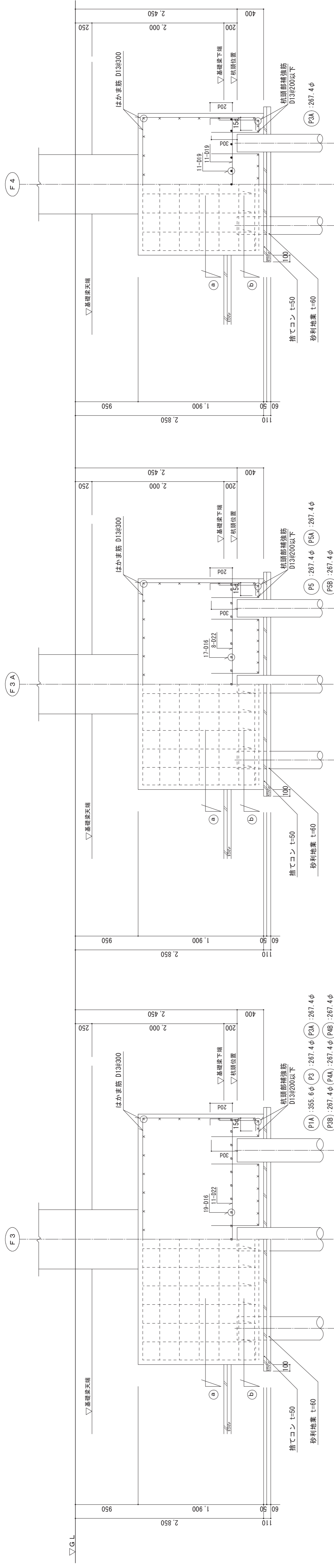
- 特記無き限り
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする
 3. ▼印は耐久スリット位置を示す
 4. ◻印は増打を示す
- (特記無き増打算は梁幅とする)



X4通り軸組図 S=1/200

- 特記無き限り
1. 符号は上欄に依う
 2. 型はW15とする
 3. ▼印は耐久スリット位置を示す
 4. ◻印は増打を示す
 5. ()内は梁レベルを示す





楠山・枝川特定業務共同企業体

一級建築士事務所 楠山設計
 株式会社 枝川建築設計事務所
 東京都千代田区神田小川町3-20
 一級建築士事務所 茨城県知事登録第A1521号
 株式会社 枝川建築設計事務所
 茨城県土浦市並木4-1-36

意匠設計

一級建築士登録第301497号
 高橋 徹

構造設計

一級建築士登録第271669号
 飯屋 耕一

設備設計

一級建築士登録第301497号
 高橋 徹

TITLE

(新) 荒川沖消防署新築建築主体工事

SUBTITLE
 基礎リスト (2)

DATE

DATE

DATE

DATE

DATE

DWG NO.

構造 S - 018

SCALE

A1 : 1/30
 A3 : 1/60

基礎梁リスト S=1/30 特記無き限り

1. 巾止め筋はD10@1000以内とする。 2. 主筋の配筋は上下共にX方向を左側、Y方向を上側とする。 3. lは鉄筋の柱面からのカットオフ長さの最小値を示す。

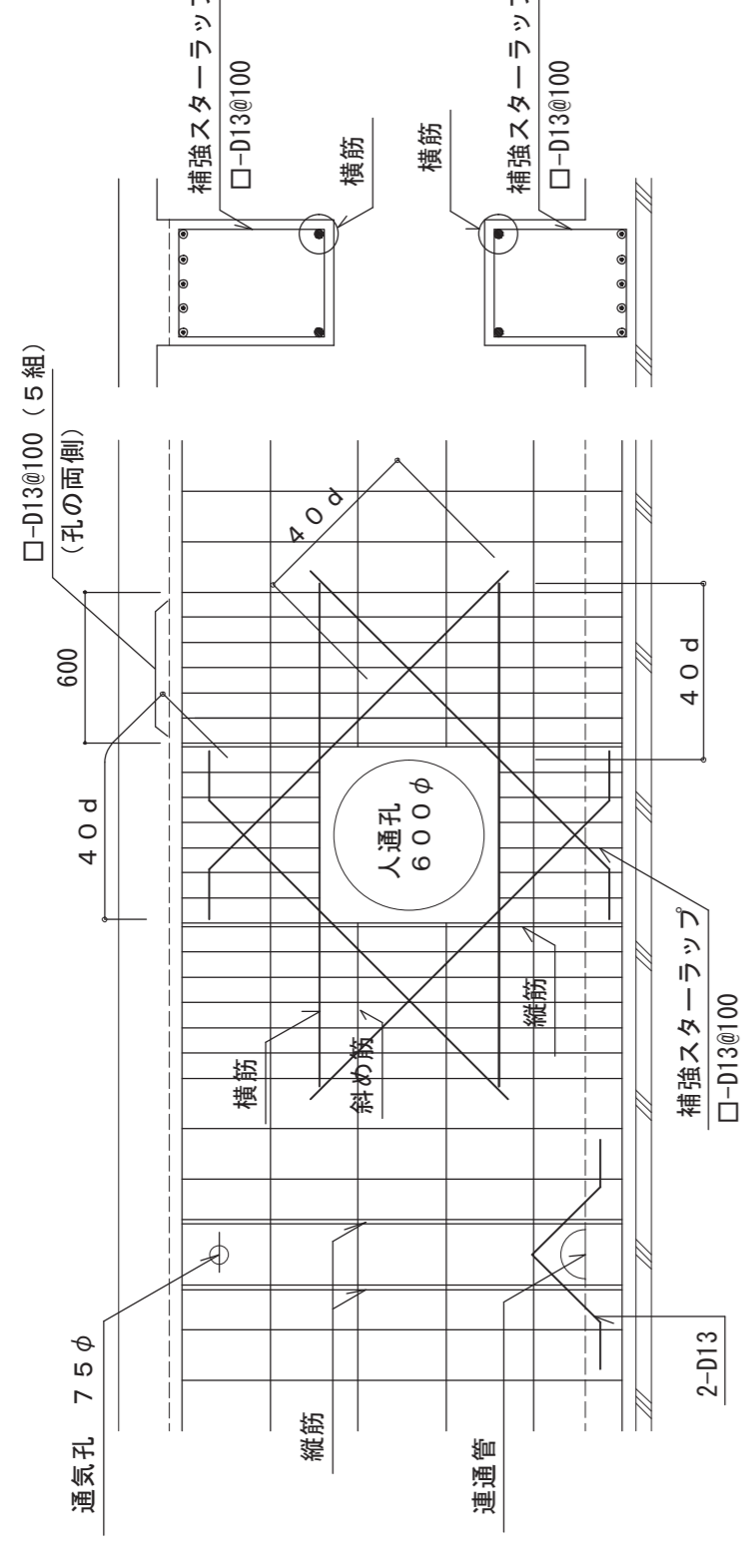
符号	FG1		FG2		FG3		FG4		FG5		FG6	
	全断面	X1端部・中央	X2端部	X3端部	中央・Y4端部	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面												
上端筋	9-D25	6-D25	9-D25	6-D25	8-D25	5-D25	7-D25	6-D25	5-D25	5-D25	7-D25	5-D25
下端筋	6-D25	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25
S.T.P	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200
腹筋	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13
符号	FG11		FG12		FG13		FG14		FG15		FG15	
	全断面	Y1端部・中央	Y2端部	Y4端部	中央部	Y6端部	Y3端部	中央・Y4端部	Y3端部	中央・Y4端部	Y3端部	中央・Y4端部
断面												
上端筋	6-D25	7-D25	6-D25	13-D25	11-D25	8-D25	6-D25	13-D25	6-D25	6-D25	13-D25	6-D25
下端筋	6-D25	6-D25	8-D25	8-D25	13-D25	13-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25
S.T.P	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100
腹筋	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13

基礎小梁リスト S=1/30 特記無き限り

1. 巾止め筋はD10@1000以内とする。

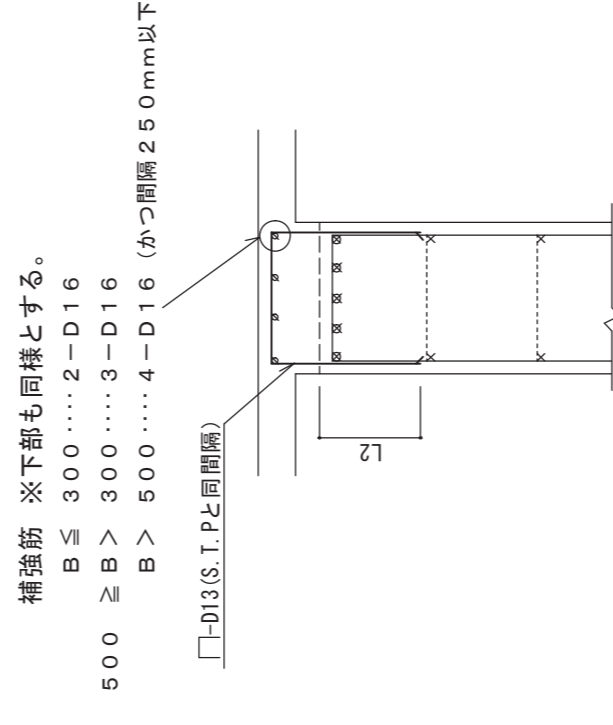
符号	FB1		FB2		FB3		FB4		FB5		FB6		FB7		FB8		FB9		FB10		FCG1		FCB1		
	全断面	端部	中央	Y1・Y4端部	Y2・Y3端部	中央	Y4端部	中央	Y5端部	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断面																									
上端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	8-D22	8-D22	5-D25	5-D25	4-D22	4-D22	4-D22	3-D16	3-D16	3-D22	3-D22	3-D22	2-D25	3-D22	3-D22	3-D22	
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	6-D25	6-D25	4-D22	4-D22	4-D22	3-D16	3-D16	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	
S.T.P	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@150	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200
腹筋	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	8-D13	8-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10

人通り孔増強要領図



符号	縦筋	斜め筋	補強筋	補強S.T.P
FG11, FG12, FG13	2-D16	2-D16	2-□-D13	□-D13@100
FG15	2-D19	2-D19	2-□-D13	□-D13@100

基礎梁増し打ち要領図



楠山・枝川特定業務共同企業体

一級建築士事務所 東京都知事登録第4539号 茨城県知事登録第A1521号
株式会社 楠山設計 有限会社 枝川建築設計事務所
東京都千代田区神田小川町3-2-0 茨城県土浦市並木4-1-3-6

意匠設計

一級建築士登録第 301497 号
高橋 徹

構造設計

一級建築士登録第 271689 号
佐藤 耕一

設備設計

一級建築士登録第 301497 号
高橋 徹

(新) 荒川沖消防署新築建築主体工事

TITLE
SUBTITLE
基礎梁・基礎小梁リスト

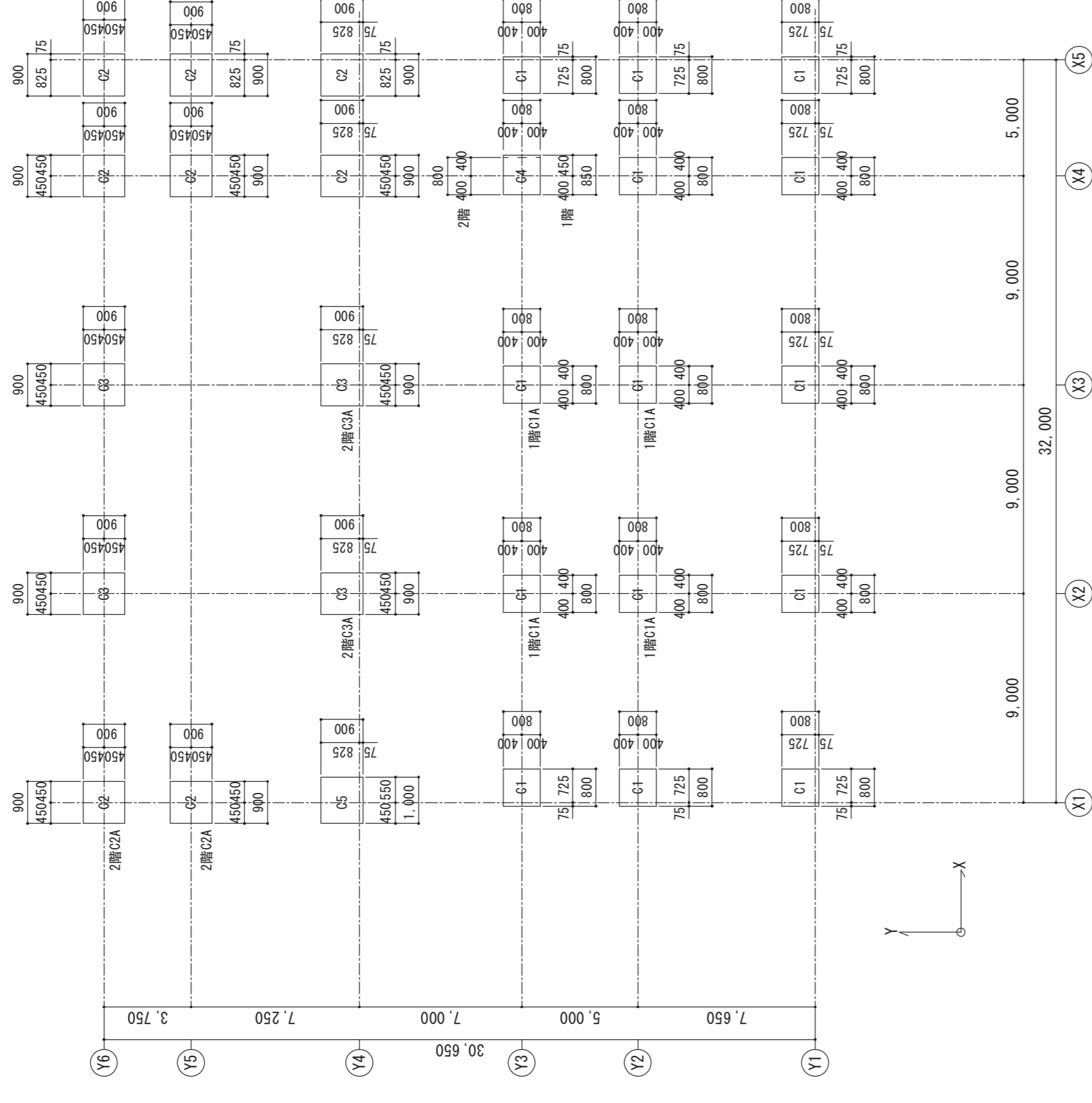
SCALE
A1: 1/30
A3: 1/60

DWG NO.
構造 S - 019

特記無き限り

1. 仕口部HOO Pの間隔は100mm以下とする。(中子筋は不要とする。)

階位置	符号	C1A	C2	C2A	C3
2 全断面	断面				
	主筋 HOO P 備考	20-D25 □-D13-φ100	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。	24-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。
1 全断面	断面				
	主筋 HOO P 備考	20-D25 □-D13-φ100	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。	24-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。
階位置	符号	C4		C5	
	断面				
主筋 HOO P 備考	20-D25 □-D13-φ100	20-D25 □-D13-φ100	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。
	1 柱頭	断面			
主筋 HOO P 備考		20-D25 □-D13-φ100	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。	20-D25 □-D13-φ100 仕口部は□-D13-φ75とする。



KEY PLAN

楠山・枝川特定業務共同企業体

一級建築士事務所 東京都知事登録第4539号
株式会社 楠山設計
東京都千代田区神田小川町3-20

一級建築士事務所 茨城県知事登録第A1521号
株式会社 枝川建築設計事務所
茨城県土浦市並木4-1-36

意匠設計

一級建築士事務所 301497号
高橋 徹
飯屋園 耕一

構造設計

一級建築士事務所 271669号
飯屋園 耕一

設備設計

一級建築士事務所 301497号
高橋 徹

TITLE (新) 荒川沖消防署新築建築主体工事

SUBTITLE 柱リスト

SCALE A1: 1/30
A3: 1/60

DWG NO. 構造 S - 020

1. 巾止め筋はD10@1000以内とする。2. 主筋の配筋は上下共にX方向を左側、Y方向を上側とする。

階	符号	位置	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G7A
R	断面	端部								
		中央								
2	断面	端部								
		中央								
2	断面	端部								
		中央								
2	断面	端部								
		中央								
2	断面	端部								
		中央								

階	符号	位置	G11	G12	G12A	G13	G14	G15	G15A	G16
R	断面	端部								
		中央								
2	断面	端部								
		中央								
2	断面	端部								
		中央								

楠山・枝川特定業務共同企業体

一級建築士事務所 東京都港区登録第4539号
株式会社 楠山設計
東京都千代田区神田小川町3-20

一級建築士事務所 茨城県取手市登録第A1521号
株式会社 枝川建築設計事務所
茨城県土浦市並木4-1-36

意匠設計

一級建築士登録第 301497 号
高橋 徹

構造設計

一級建築士登録第 271669 号
飯屋 耕一

設備設計

一級建築士登録第 301497 号
高橋 徹

(新) 荒川沖消防署新築建築主体工事

大梁リスト

SCALE
A1: 1/30
A3: 1/60

DWG NO.
構造 S - 021

DATE

TITLE

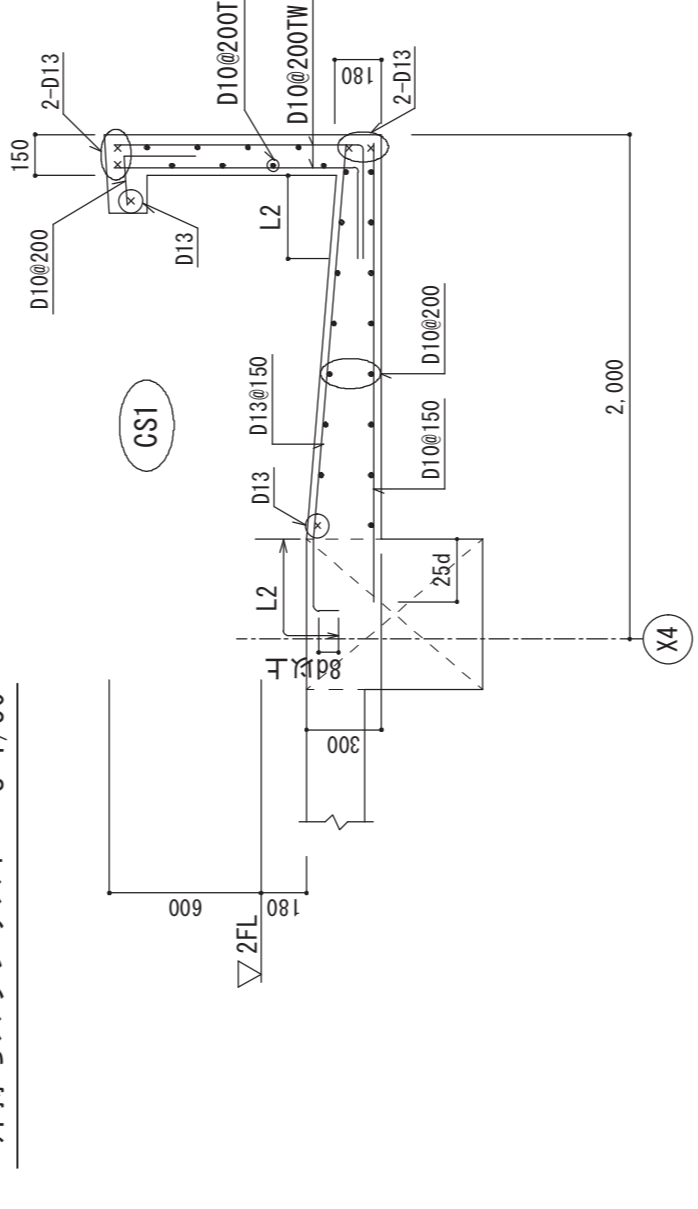
特記無き限り
1. 巾止め筋はD10@1000以内とする。

符号	B1		B2		B3		B4		B5		B6	
	Y1端部	中央	Y2端部	中央・他端部	全断面	X1端部	中央	X2端部	左端部	中央	右端部	全断面
位置	Y1端部	中央	Y2端部	中央・他端部	全断面	X1端部	中央	X2端部	左端部	中央	右端部	全断面
断面												
上端筋	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	6-D22	3-D22	5-D22	4-D22
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
S.T.P	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#150 2-D10	□-D10-#150 2-D10	□-D10-#150 2-D10	□-D10-#150 2-D10
符号	B7		B8		B10		B11		WB1		CG1	
位置	全断面		Y1・Y4端部		全断面		Y2端部		中央・Y3端部		全断面	
断面												
上端筋	3-D22	3-D16	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D16	3-D22
下端筋	4-D22	3-D16	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D16	3-D22
S.T.P	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10	□-D10-#200 2-D10

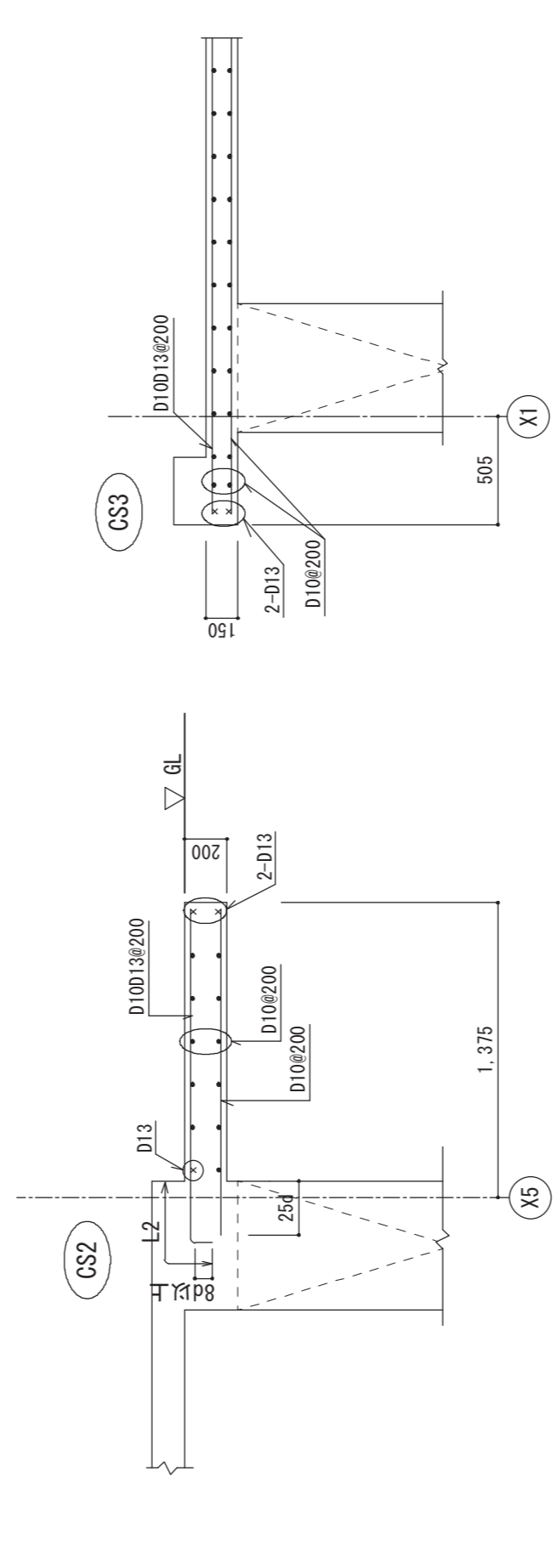
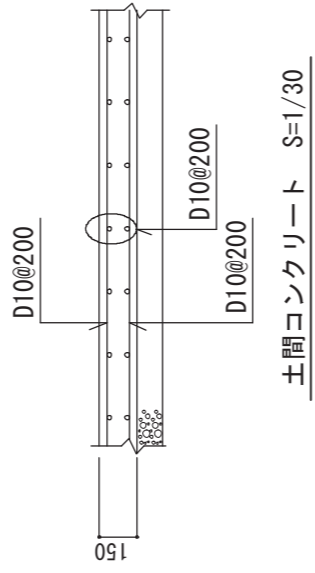
スラブラリスト

片持ちスラブラリスト S=1/30

符号	厚さ	位置	短辺方向				長辺方向				備考	
			A部	B部	C部	D部	A部	B部	C部	D部		
S1	150	上端筋	D10 013 # 200	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	
S2	150	下端筋	D10 013 # 200	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	
S3	150	上端筋	D10 013 # 150	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	
S4	180	上端筋	D10 013 # 150	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	
FS1	250	上端筋	D13 # 200	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	ヒットスラブ



鉄骨部材リスト			鉄骨部材リスト		
符号	材質	位置	部材	接続ボルト	備考
屋外階段サヤ桁	SS400	全断面	PL-22x200	2-M16 (S101)	B.PL-22x280x152 A.Boit 2-M16 L=25d (ヤマ材付)
屋外階段サヤ桁	SS400	全断面	PL-16x300	2-M16 (F17分付材)	B.PL-16x340x146 A.Boit 2-M16 L=25d (ヤマ材付)
Sb1	SS400	全断面	H-200x200x8x12	2-M16 (F17分付材)	A.Boit 2-M16 L=25d (ヤマ材付)

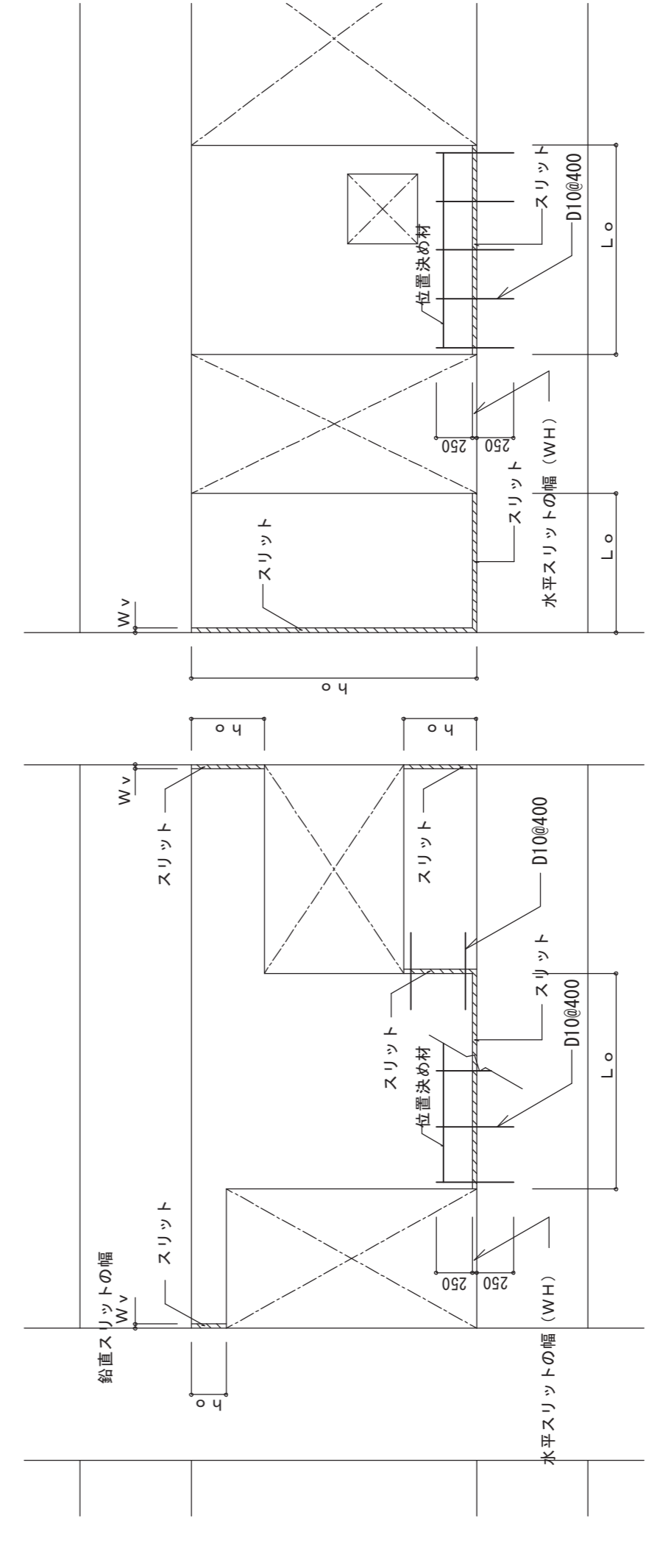


壁リスト S=1/30

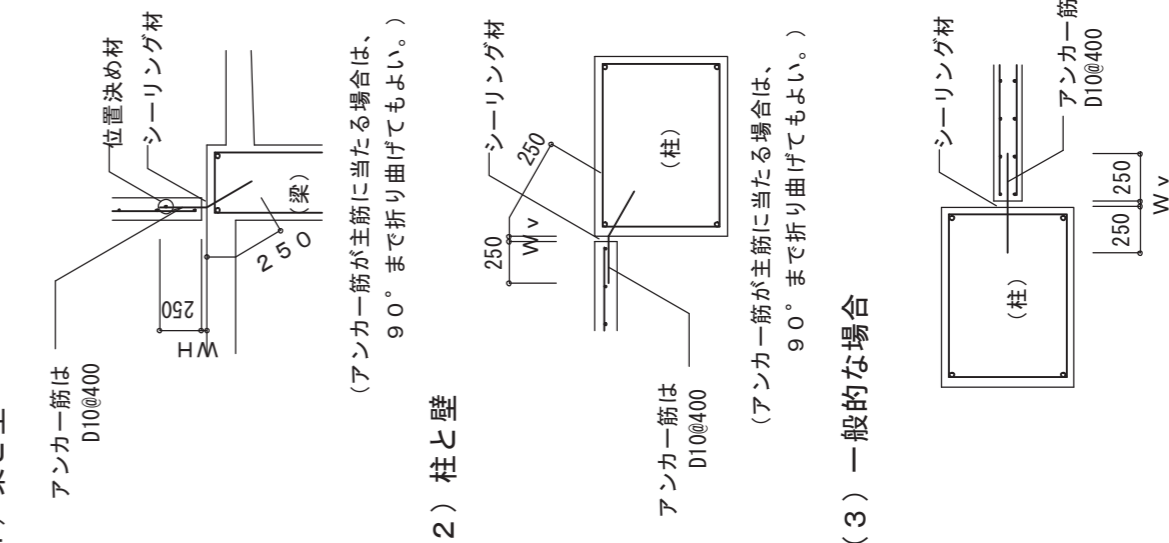
特記無き限り
1. 巾止め筋 D10@1000以内 2. 配筋は壁除を外側とする。

符号	断面	位置	断面
W15		耐震壁開口部補強筋	
主筋	D10#200 付'ア'ル		
縦筋	D10#200 付'ア'ル		
開口横筋	2-D13		
補強筋	2-D13		
端部補強筋	2-D13		

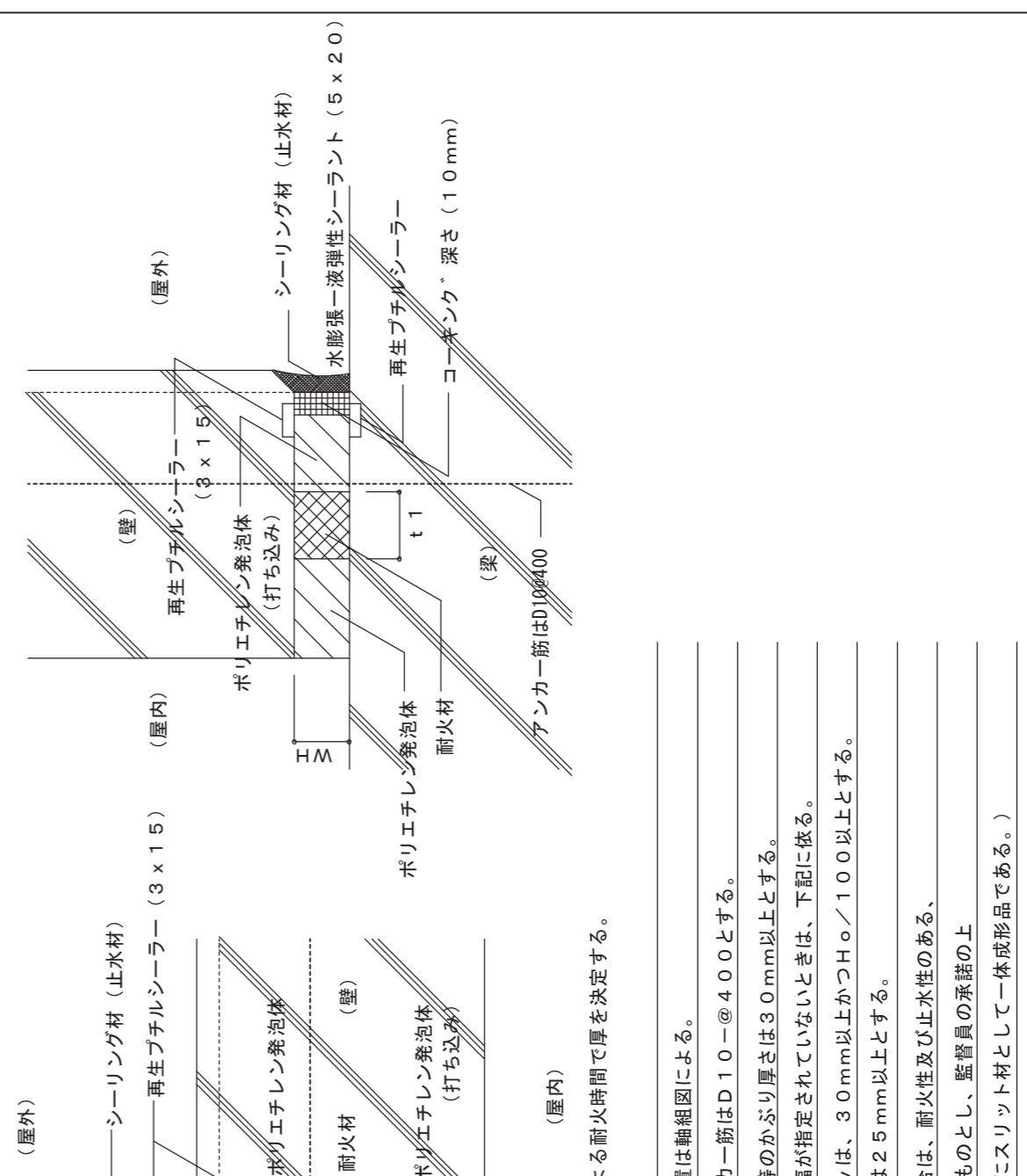
(1) スリット配置図



(2) スリット形状



(3) スリット詳細例



楠山・枝川特定業務共同企業体

一級建築士事務所 東京高野建築事務所
株式会社 楠山設計
東京都千代田区神田小川町3-20

一級建築士事務所 茨城県知事登録第A1521号
有限会社 枝川建築設計事務所
茨城県土浦市並木4-1-36

意匠設計

一級建築士登録第 301497 号
高橋 敬

構造設計

一級建築士登録第 271669 号
飯屋 剛一

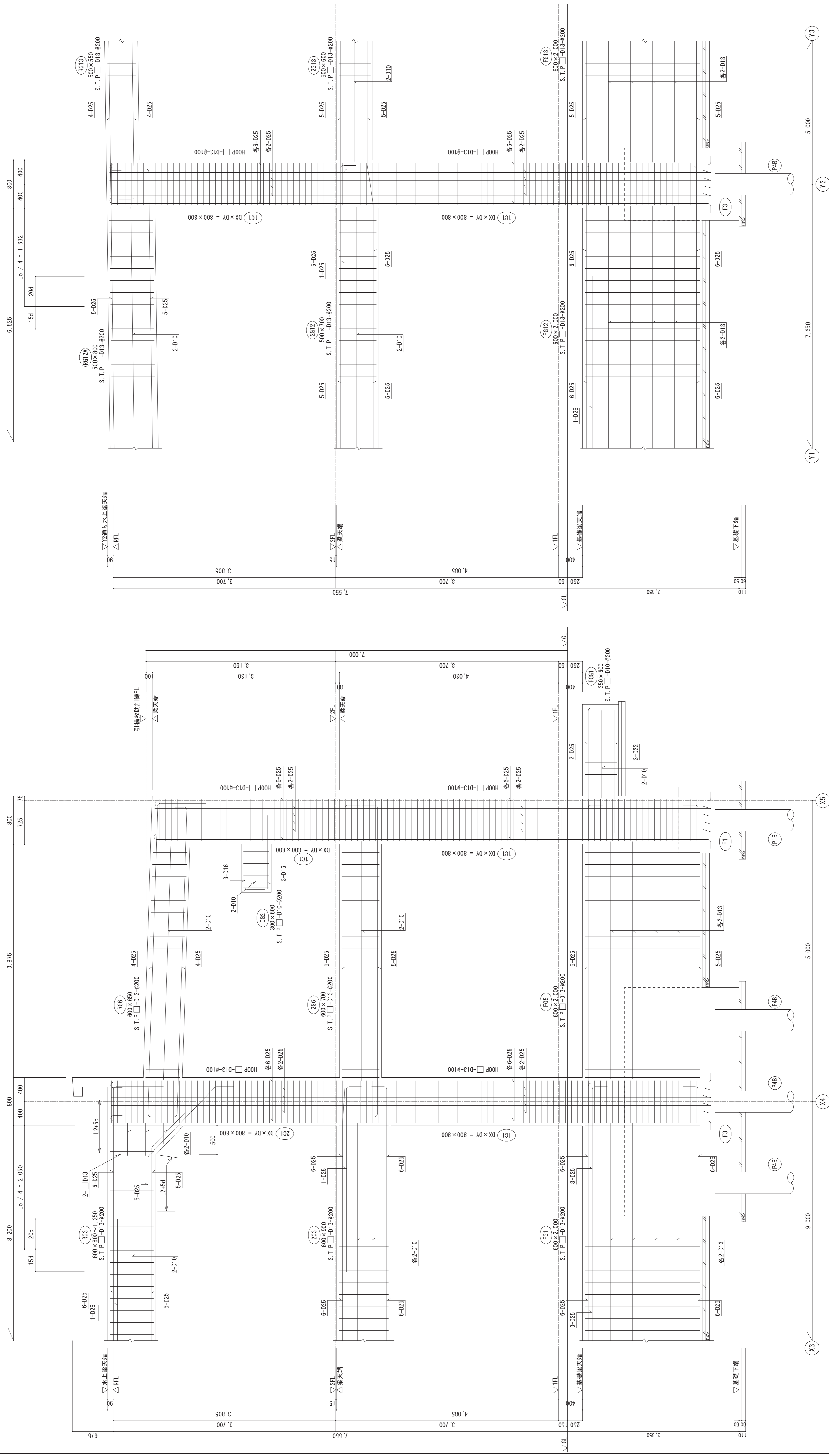
設備設計

一級建築士登録第 301497 号
高橋 敬

(新) 荒川沖消防署新築建築主体工事

小梁・スラブ・壁リスト

DATE 2023.05
TITLE
SUBTITLE
SCALE A1: 1/30 A3: 1/60
DWG NO. 構造 S-022

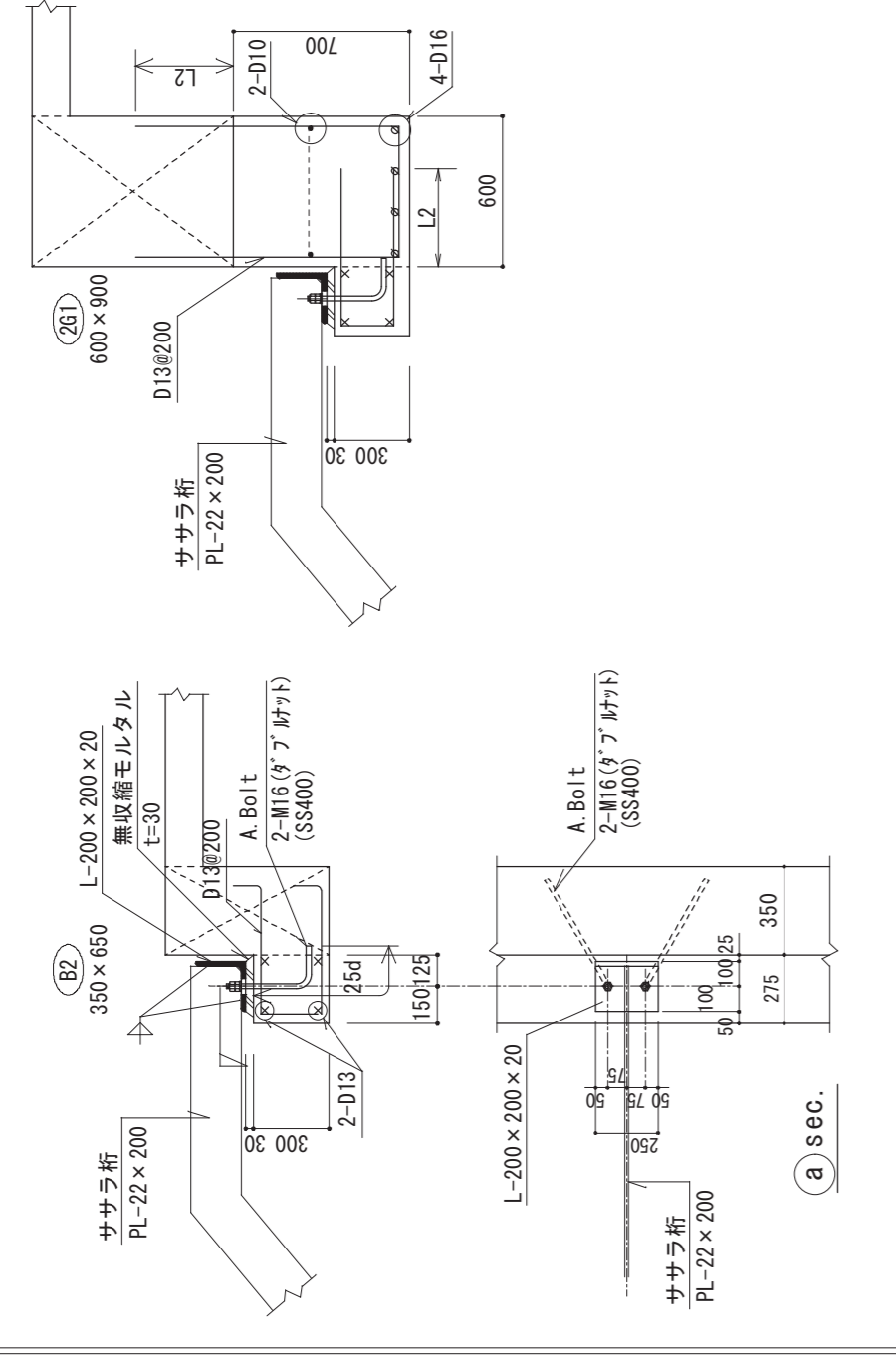


Y2通リ梁筋配筋詳細図 S-1/30

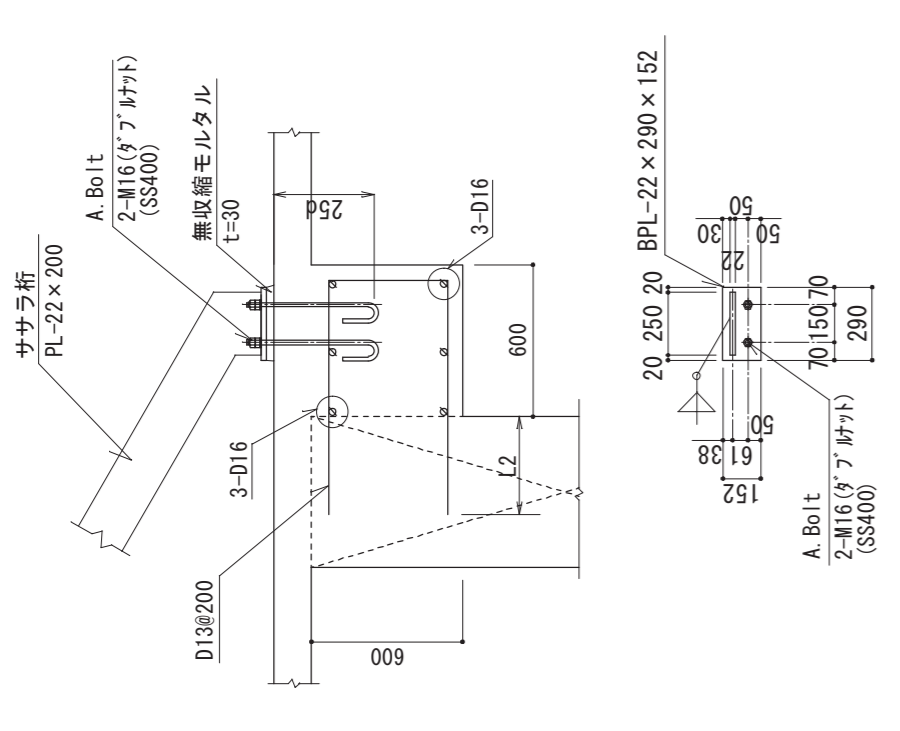
Y2通リ梁筋配筋詳細図 S-1/30

一級建築士事務所 株式会社 東京都千代田区神田小川町3-20 株式会社 株式会社 茨城県知事登録第1521号 茨城県知事登録第4539号 茨城県知事登録第4539号 株式会社 株式会社 茨城県知事登録第4539号 茨城県知事登録第4539号 茨城県知事登録第4539号	楠山・枝川特定業務共同企業体 一級建築士事務所 有限会社 株式会社 茨城県知事登録第301497号 茨城県知事登録第301497号 茨城県知事登録第301497号	意匠設計 一級建築士登録第 271689 号 依 原 耕 一	構造設計 一級建築士登録第 301497 号 高 橋 徹	設備設計 一級建築士登録第 301497 号 高 橋 徹	TITLE (新) 荒川沖消防署新築建築主体工事	SUBTITLE 梁筋配筋詳細図	SCALE A1 : 1/30 A3 : 1/60	DWG NO. 構造 S - 023
					DATE			

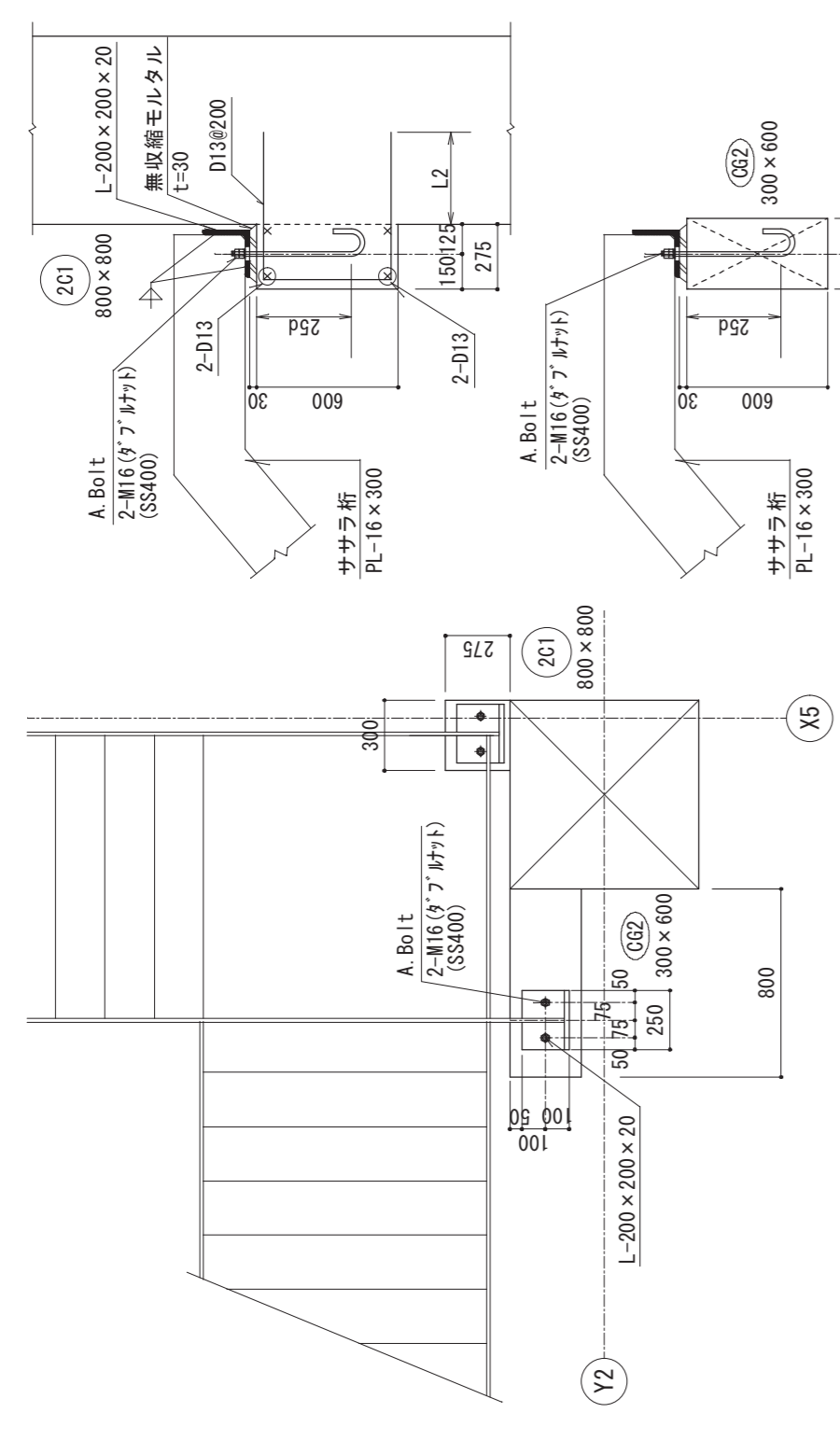
屋内階段 接合詳細図 S-1/30



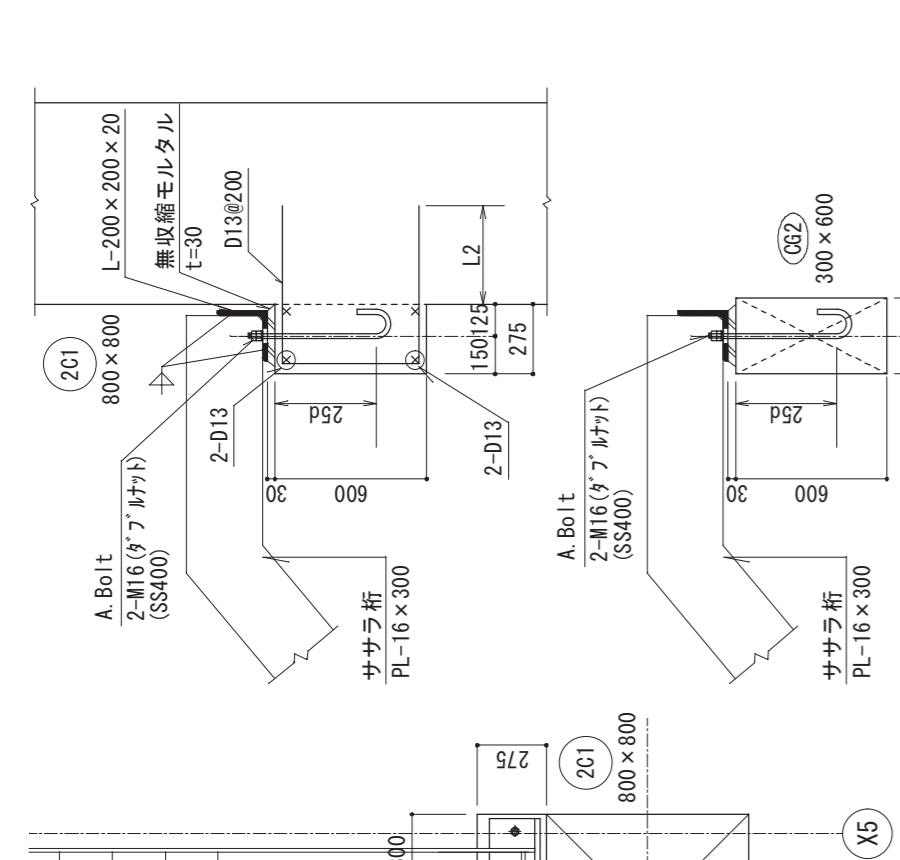
ササテ取付要領図



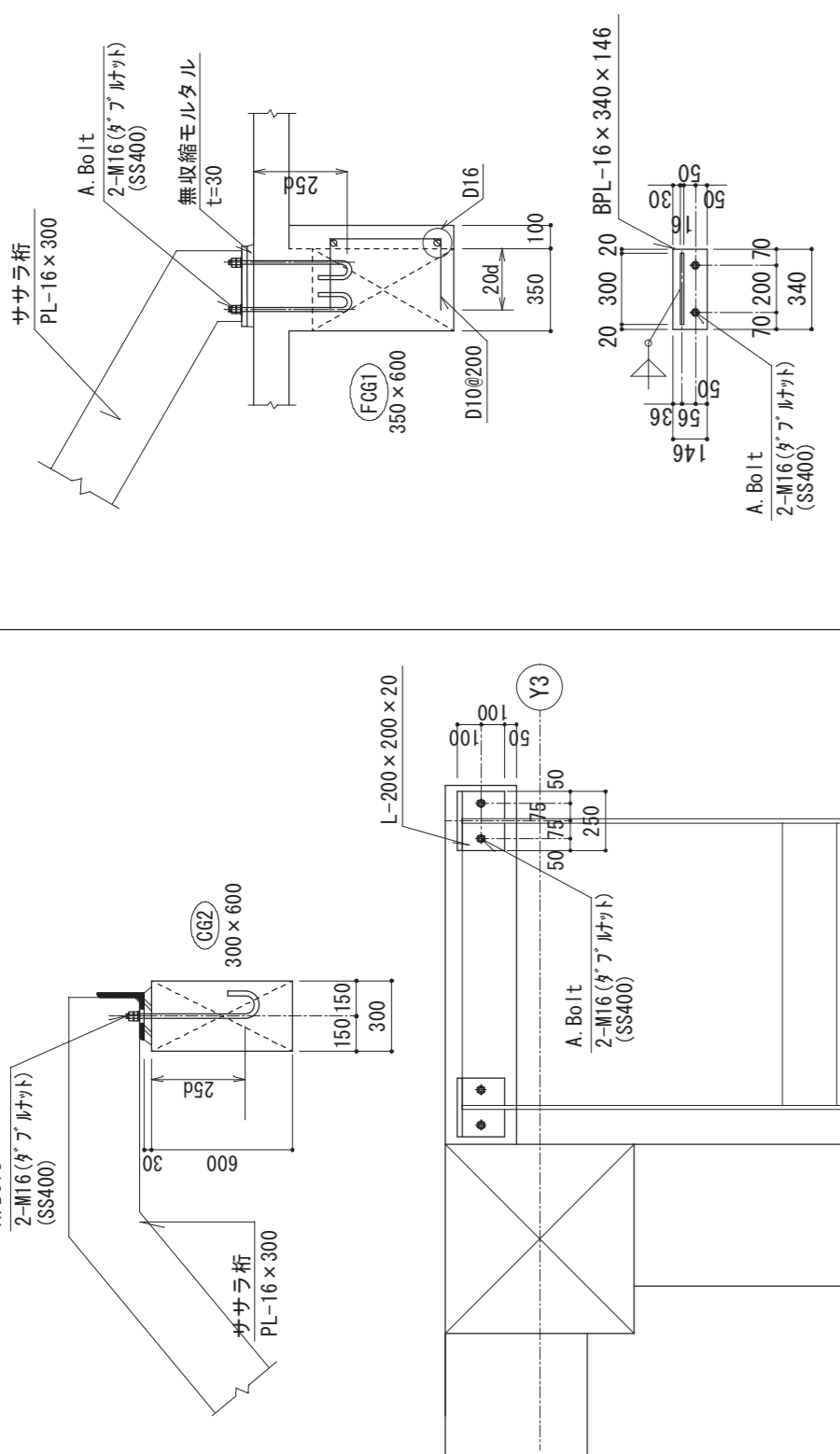
屋内階段 2 接合詳細図 S-1/30



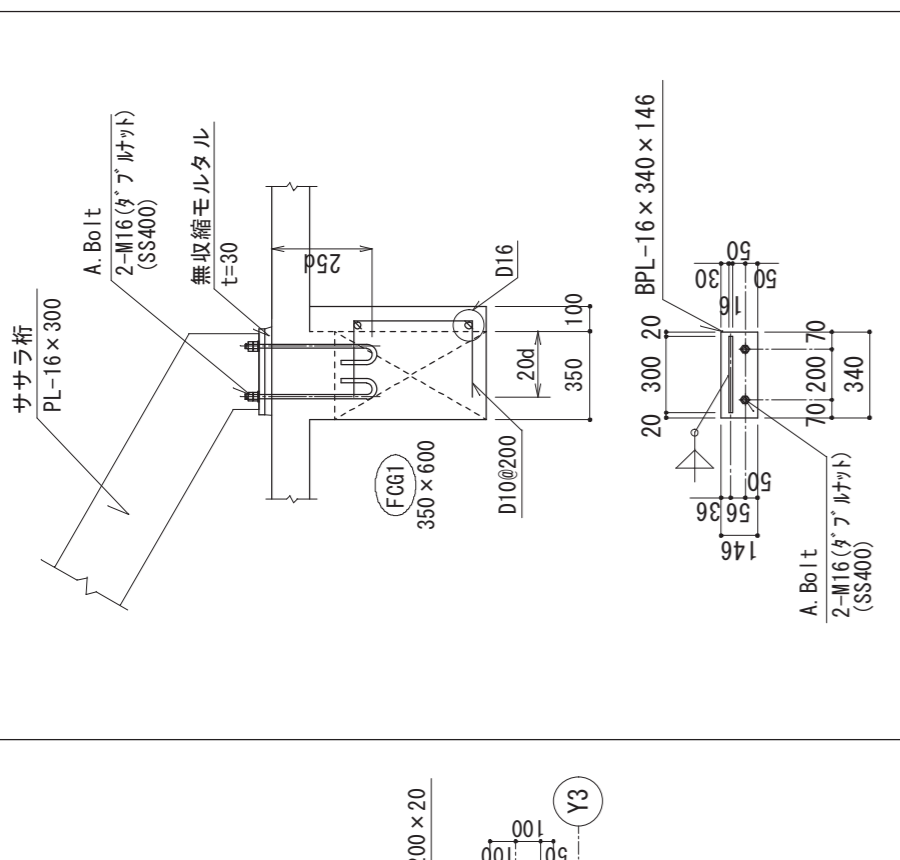
ササテ取付要領図



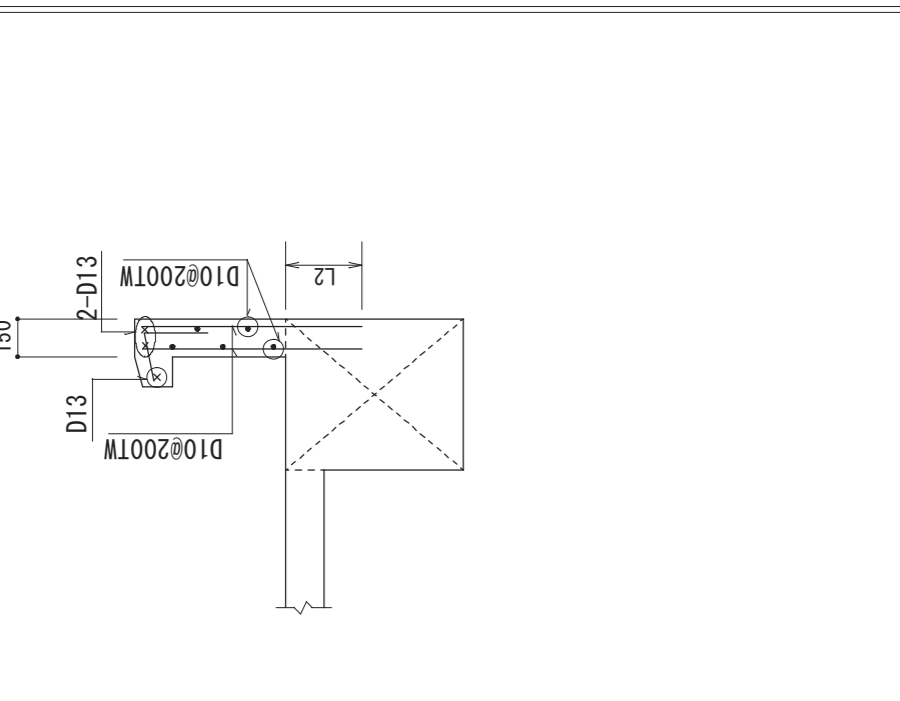
屋外階段 1 接合詳細図 S-1/30



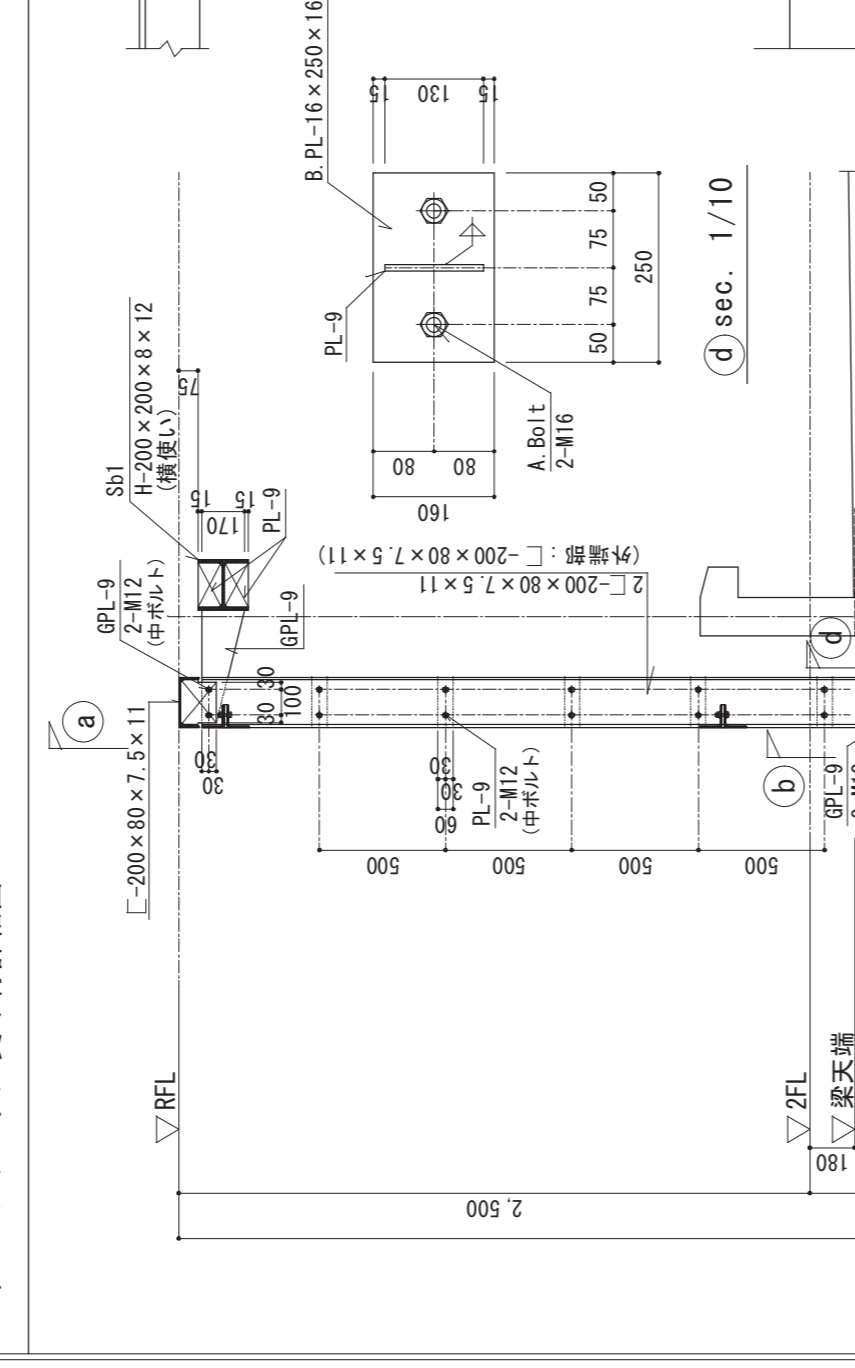
ササテ取付要領図



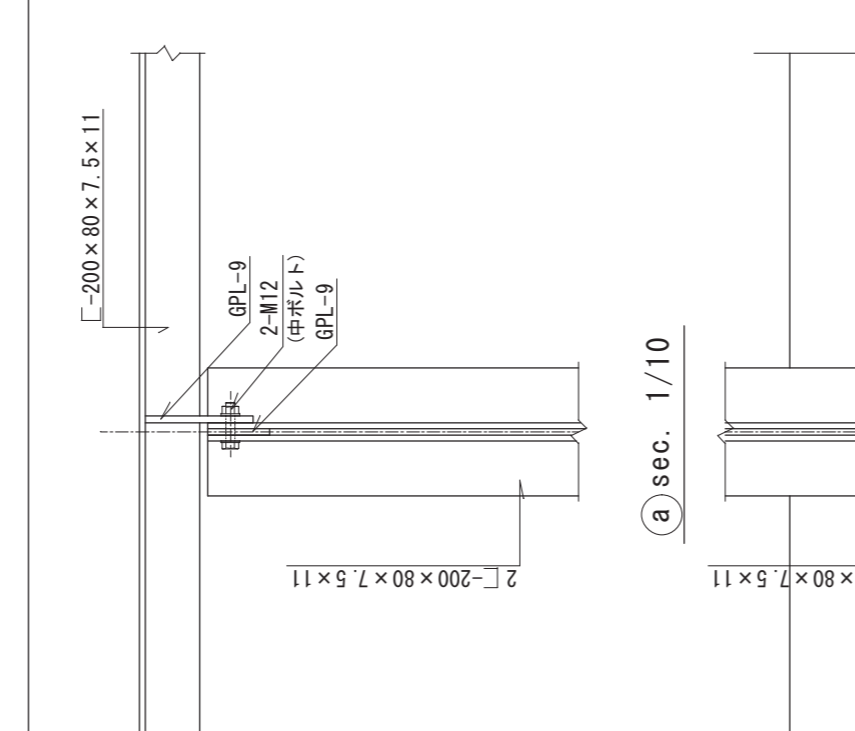
パラベット配筋要領図 S-1/30



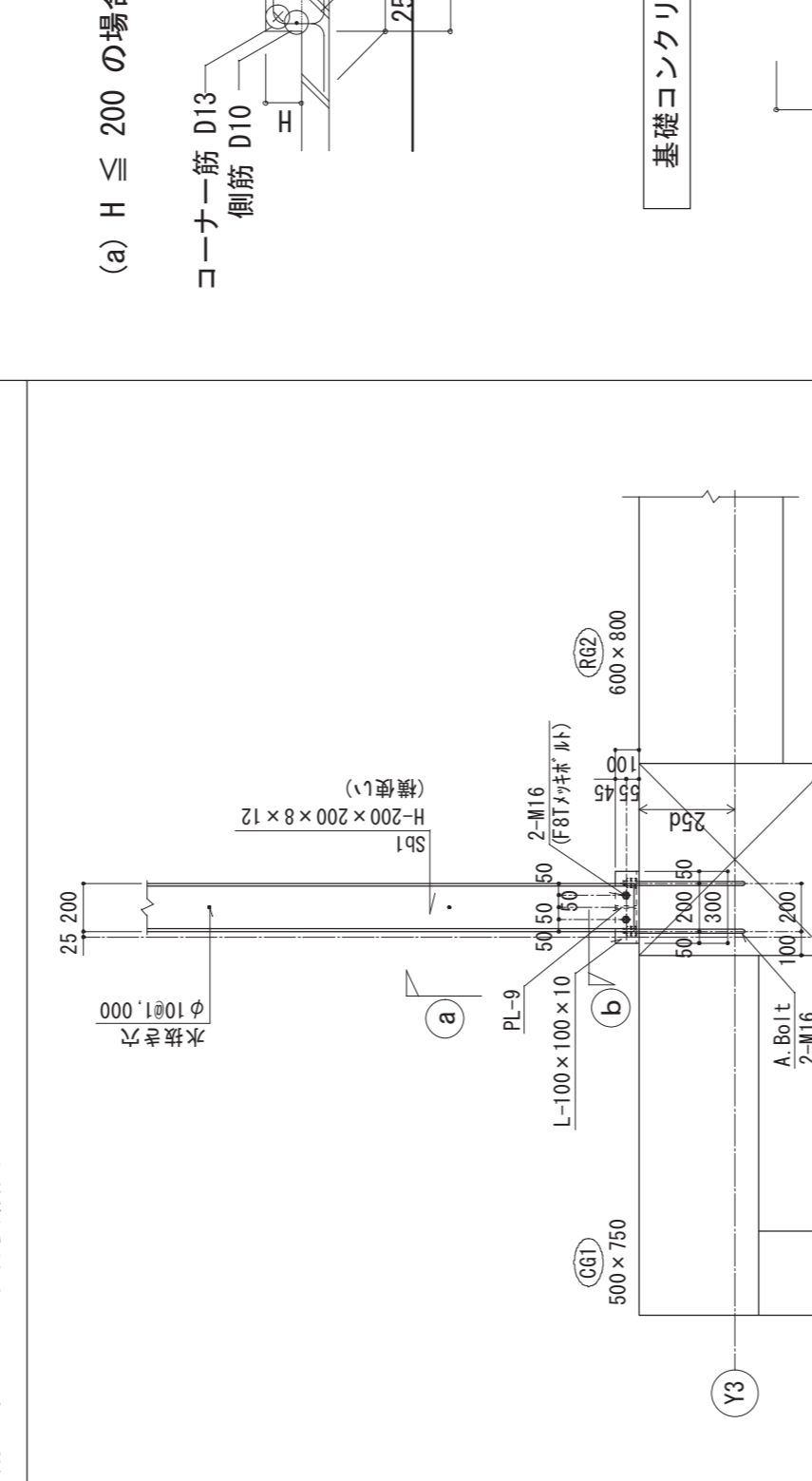
エキスパンドメタル受付材詳細図 S-1/30, S-1/10



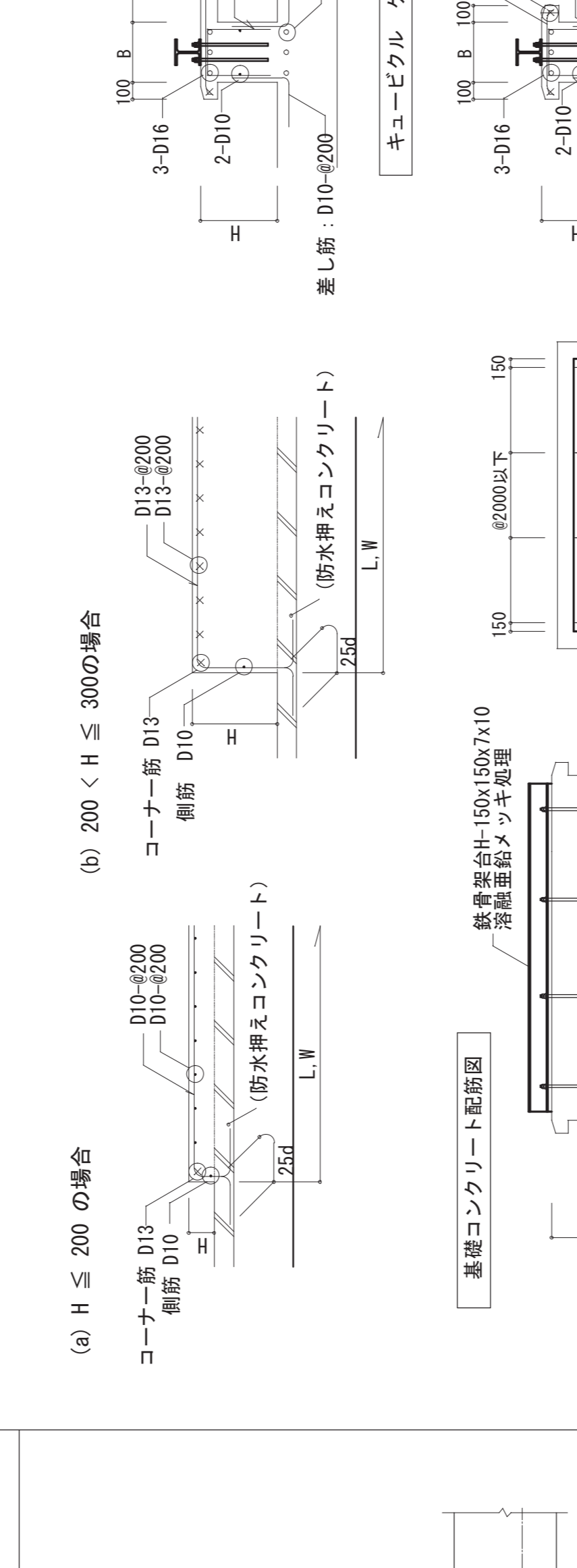
エキスパンドメタル受付材詳細図



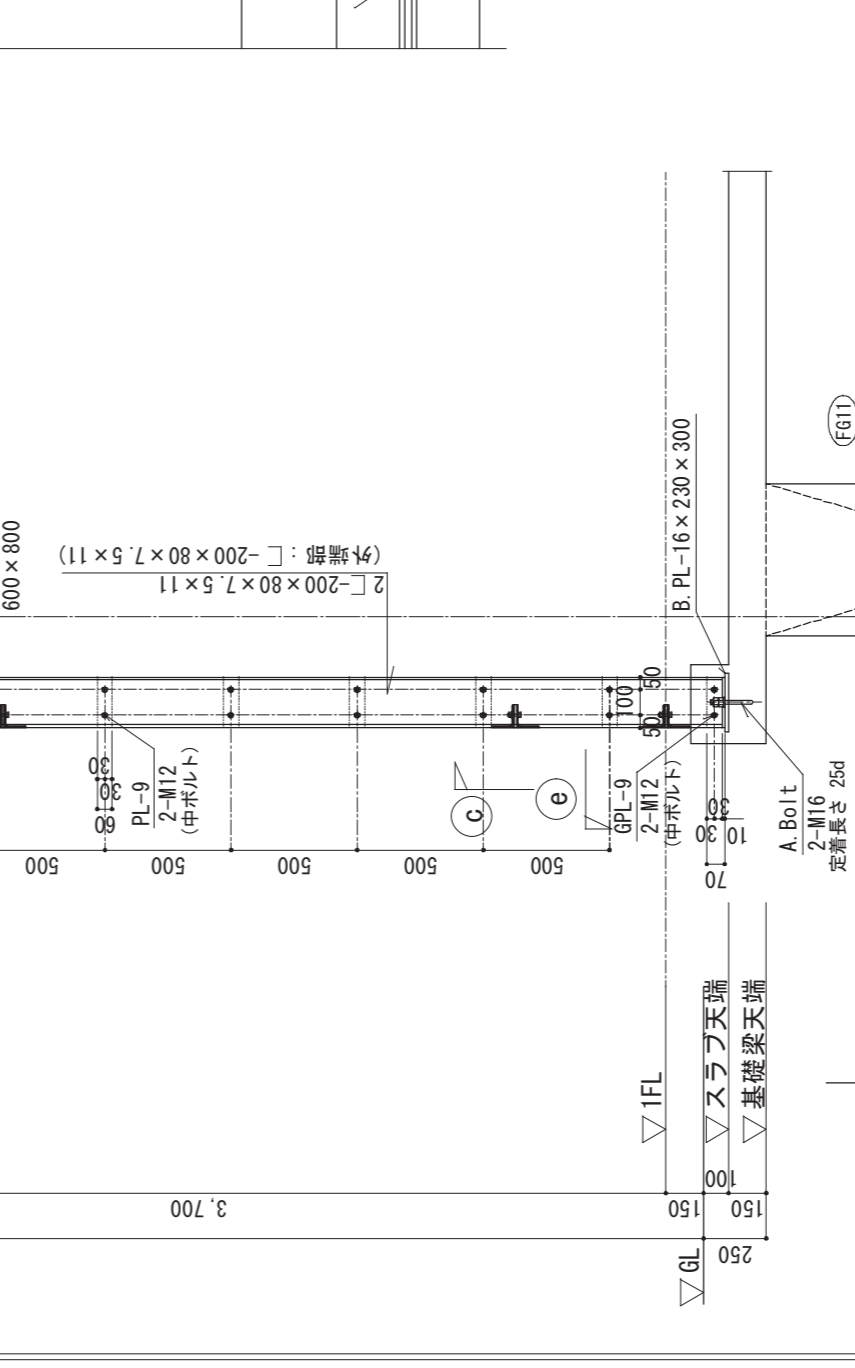
前風梁 S b 1 取付要領図



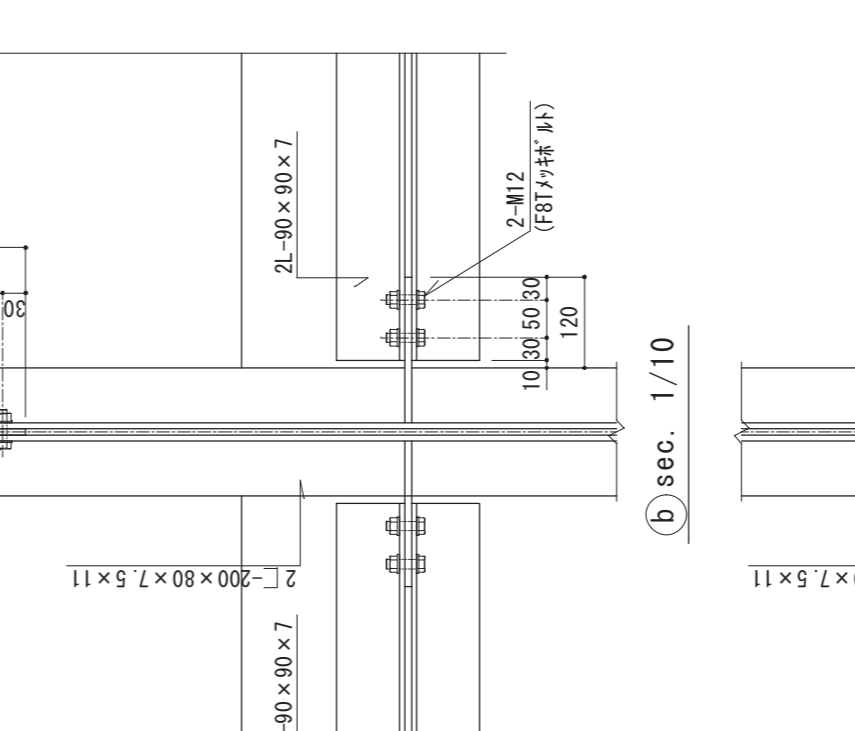
設備基礎配筋要領図



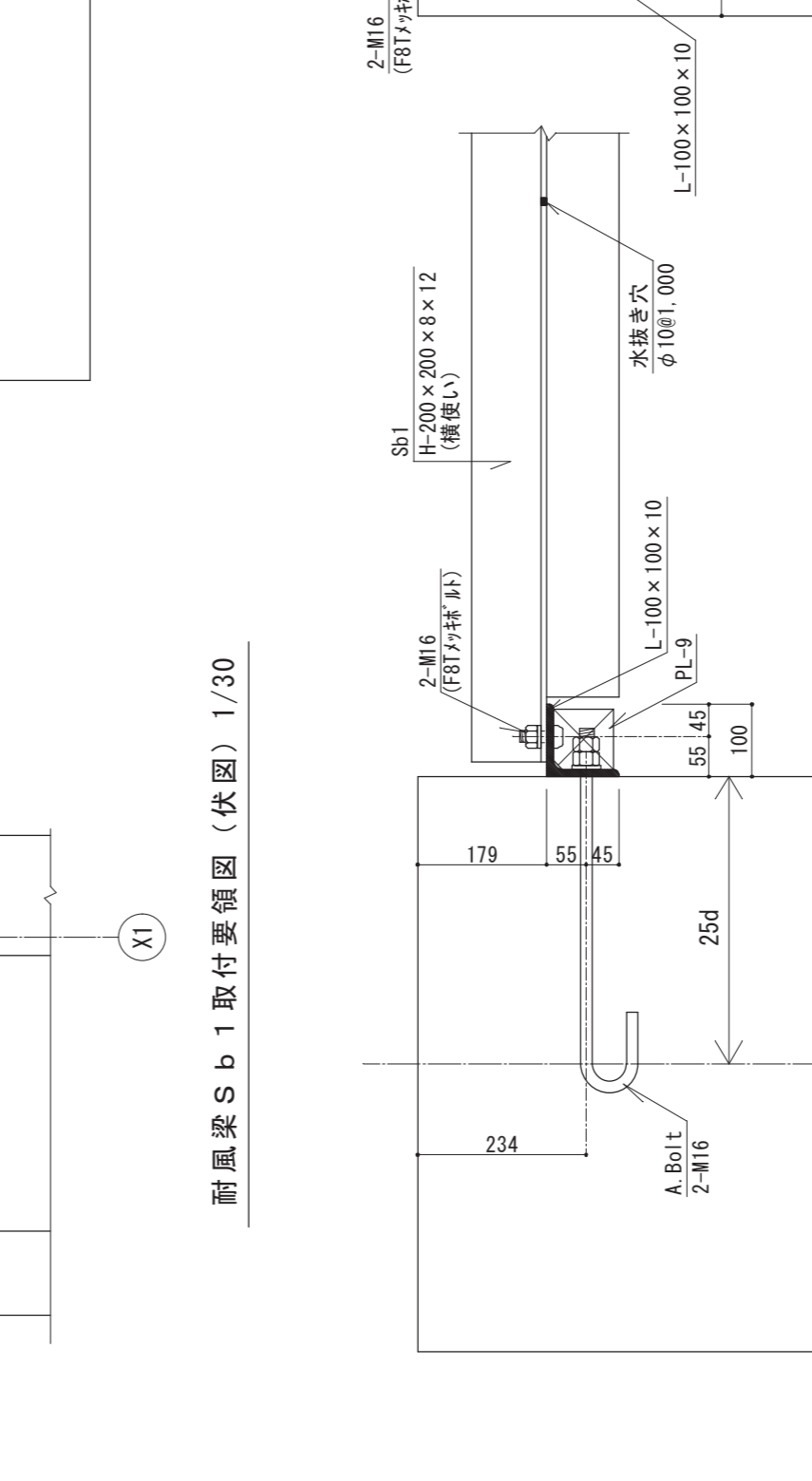
エキスパンドメタル受付材詳細図 1/30



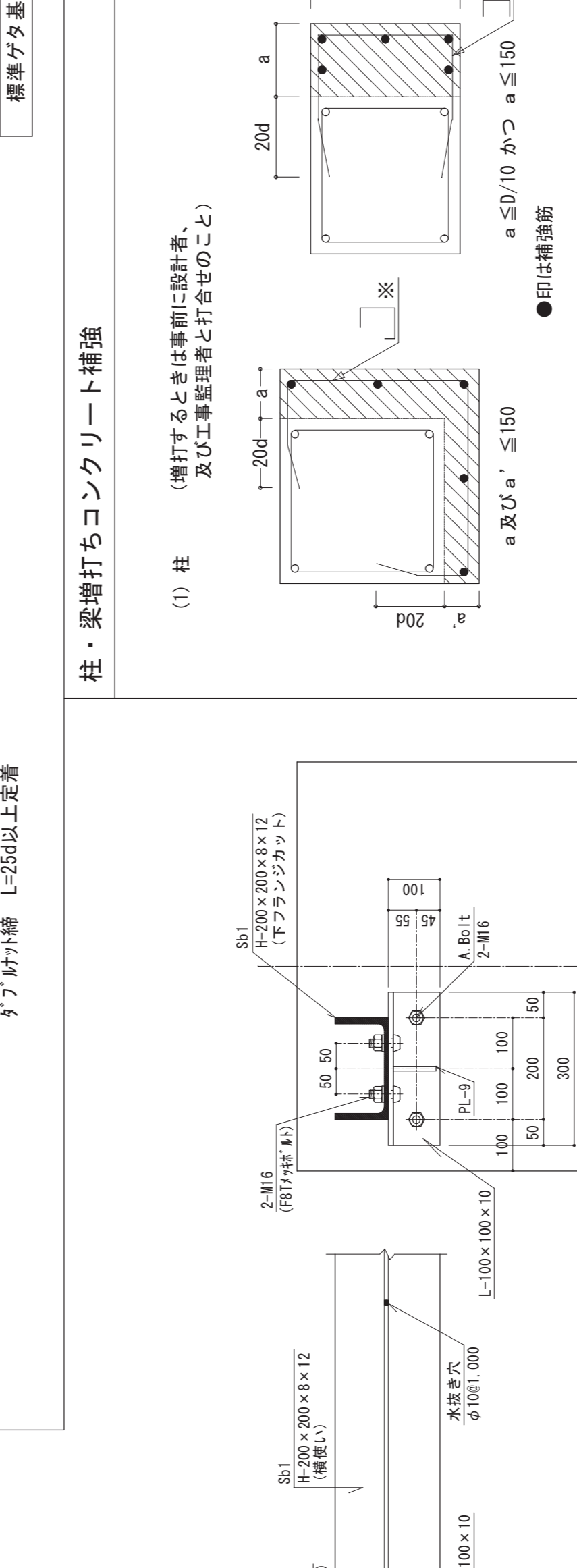
前風梁 S b 1 取付要領図 (伏図) 1/30



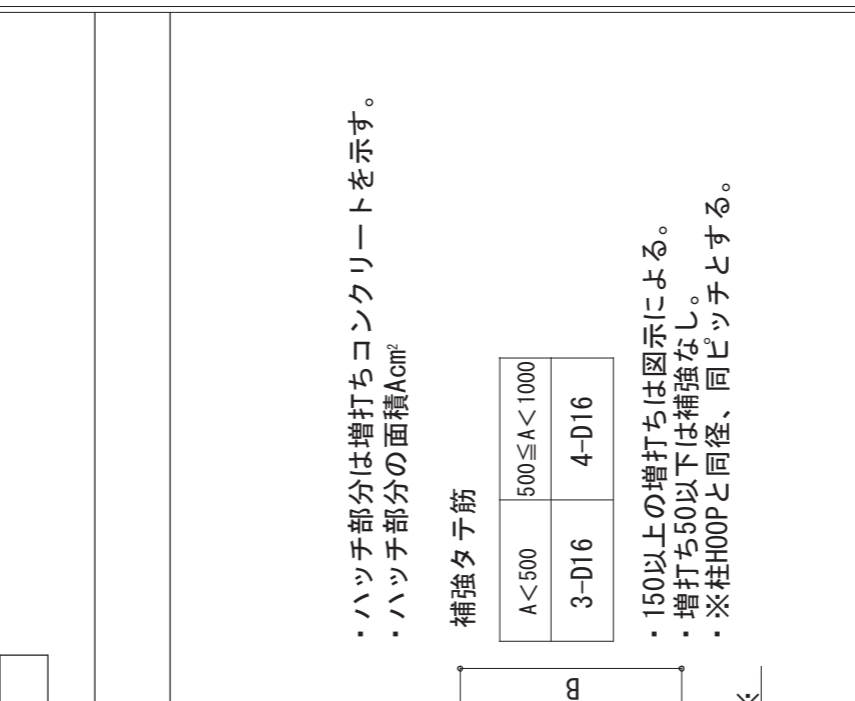
柱・梁増打ちコンクリート補強



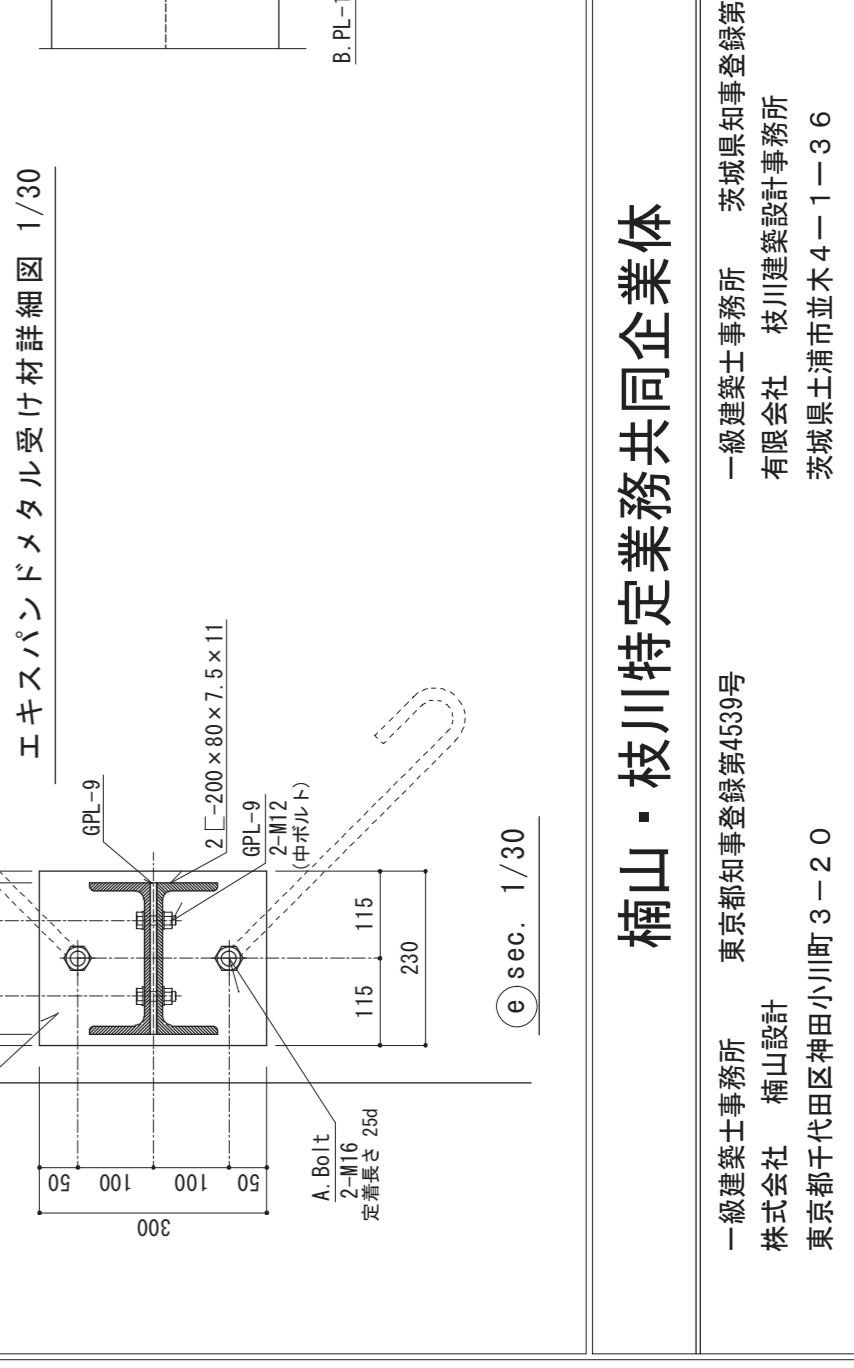
柱 (増打ちするときは事前に設計者、及び工事監督者と打合せのこと)



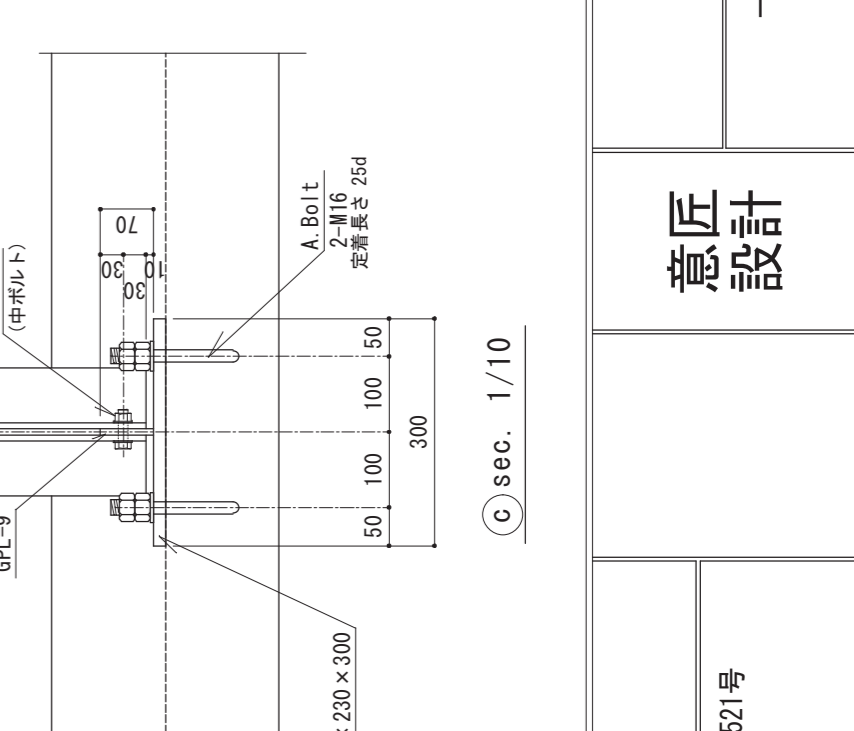
(2) 梁



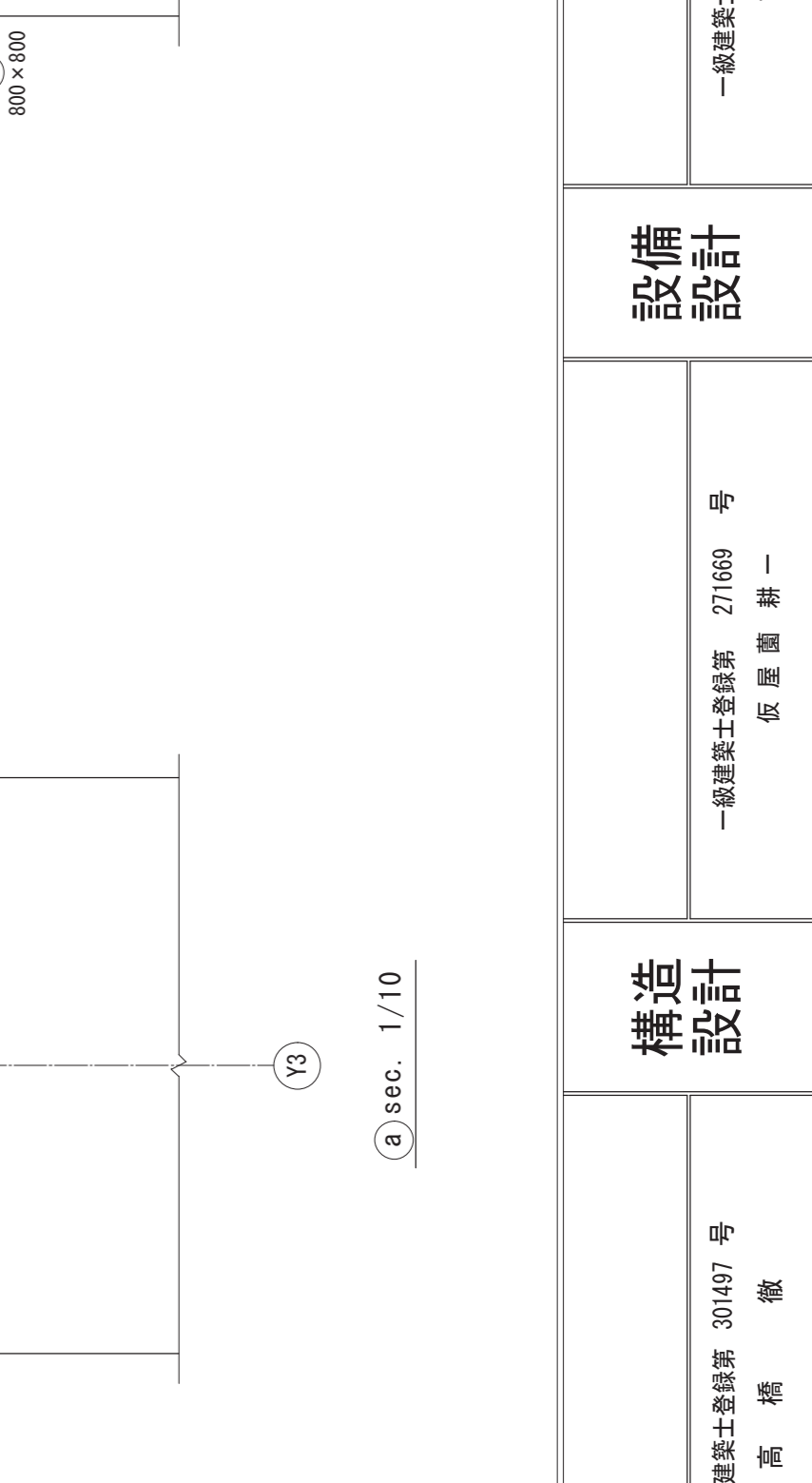
エキスパンドメタル受付材詳細図 1/30



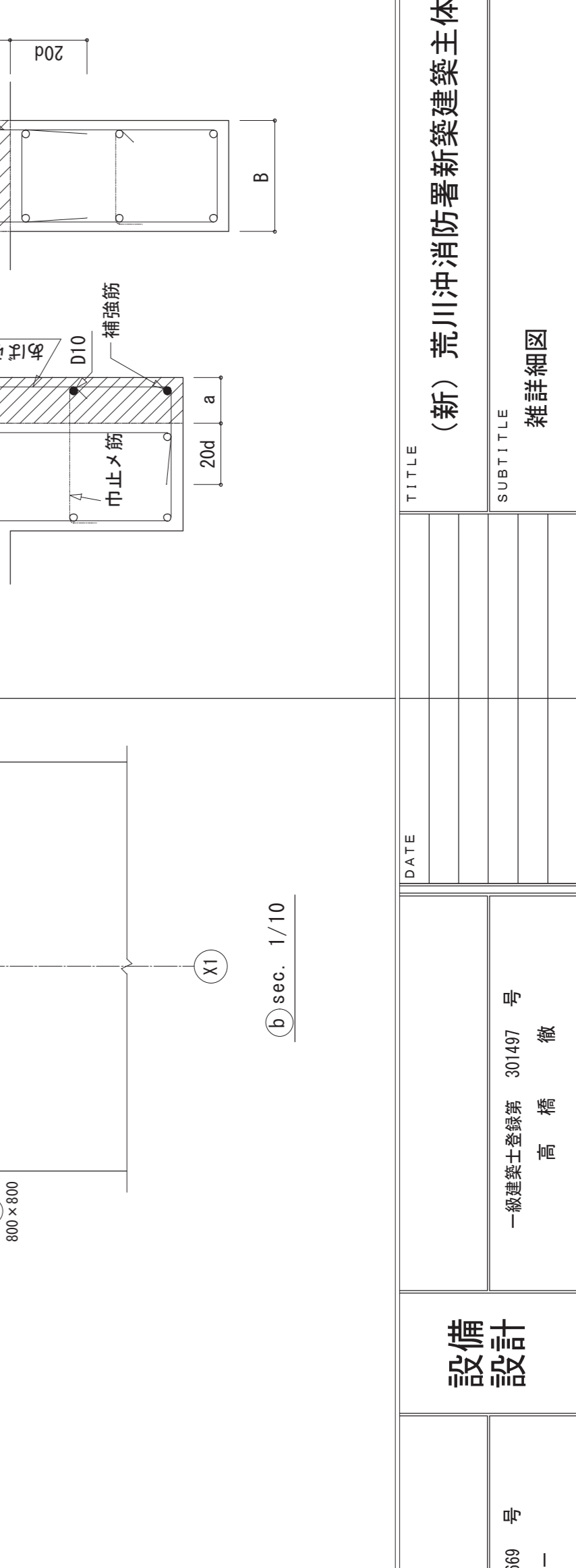
前風梁 S b 1 取付要領図 (伏図) 1/30



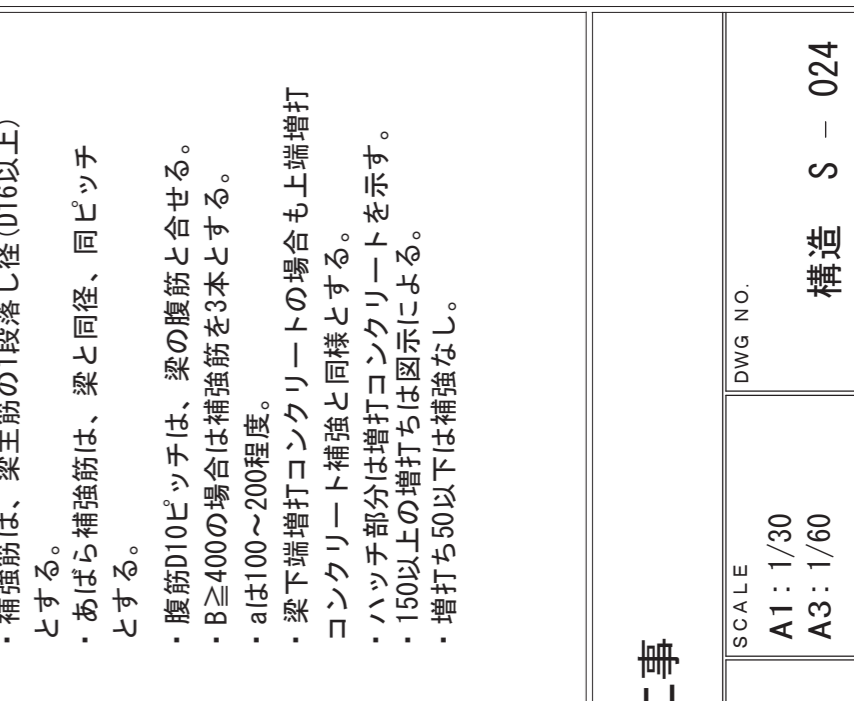
柱・梁増打ちコンクリート補強



柱 (増打ちするときは事前に設計者、及び工事監督者と打合せのこと)



(2) 梁



場所打ち一体式PC工事特記仕様書

1. 総 則

適用範囲
本仕様書は、本工事のうち、場所打ち一体式プレストレストコンクリート（PC）、プレストレスト鉄筋コンクリート（PRC）造（以下、PC と総称）について適用する。
本仕様書または設計図書に指示されていない事項は下記によること。また、これらに非示されていない事項は、監理者の指示による。

- 建築基準法、同施行令
- 国土院・建築研究所監修「プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例」（2009年版）
- 日本建築学会「プレストレストコンクリート設計施工標準・同解説」（2022年版）
- 日本建築学会「プレストレスト鉄筋コンクリート（旧種PC）構造設計・施工指針・同解説」（2003年版）
- 日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事」（2022年版）

構造方式
本構造の方式は、鉄筋コンクリート（以下、RC）部材にPC鋼材を組み合わせた場所打ち一体式PC造である。
プレストレスト導入はポストラংশョン方式であり、その方式については“6. 緊張”の項に示す。

PC工事施工業者
オリエンタル白石株式会社、株式会社建研、ピーエス・コンストラクション株式会社

ただし、施工の範囲は、PC鋼材の配置、緊張、グラウトまでの材工一式とする。

施工計画
施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画書を監理者に提出して承認を受ける。

2. 材 料

鉄 筋
鉄筋は、J I S G 3 1 1 2（鉄筋コンクリート用棒鋼）の規格に適合するものを使用する。
PC 鋼 材
PC鋼材は、J I S G 3 5 3 6（PC鋼線及びPC鋼より線）またはJ I S G 3 1 0 9（PC鋼棒）に適合し、有害な腐の無いものを使用しなければならぬ。

種 類	PC鋼より線
記 号	SWPR7BL
呼 び 名	6－12・7φ
断 面 積	592.2 mm ²
引 張 荷 重	1,098 kN
降 伏 荷 重	936 kN
伸 び	3.5 %以上

- セメントは、J I S R 5 2 1 0（ポルトランドセメント）に規定する普通ポルトランドセメントを原則とする。
- その他のセメントを使用する場合は、監理者の指示を受けること。

混 和 材 料
コンクリート中に表面活性剤等の混和材料を用いる場合は、その品質、使用量について監理者の指示を受けること。

3. 型 枠

組立て・取外し

- コンクリートは、打込みの際にセメントペーストが漏れることのないように留意すること。
- 柱・梁等の型枠については、十分な耐力を持つように留意しなければならぬ。
- PC造部分の型枠組立て順序については、PC鋼材の配置に影響されて決定されることが多いので注意しなければならぬ。
- 型枠の締付けは、フォームタイ、及びボルト等により、十分強固にしなければならぬ。
- PC造着具が取り付く柱型枠の締め付け金物、バタ角、単管等は、PC鋼材位置を避けて配置する。
- 事前にセハレーターの配置計画を行い、PC鋼材（ソース）に当たらないようにする。
- PC造部分の支保工は、構つなぎ、筋交い等を十分に入れ、耐力に対して安全な構造としなければならぬ。
- 型枠存置期間は、J A S S 5によるものとする。

4. 配筋・配線

- 鉄筋は正確に配置し、コンクリート打設の際にくずれぬよう、強固に組み立てなければならぬ。
- 小梁下端筋やスラブ筋とPC鋼材が交錯する場合は、PC鋼材を優先とする。

P C 鋼 材

- PC鋼材（ソース）は、支持金物等により、正確かつ強固に取り付けること。
- 梁筋の定着量は、型枠の内面に正確かつ強固かつ強固に取り付けること。
- PC鋼材を露出に放置して、錆等で損傷させてはならない。
- グラウト用孔、及び排気孔は、十分に注意して取り扱い、コンクリート打設時に損傷することのないよう細心の注意をす。
- PC鋼材の加工・組み立てを行なう場合、加熱または溶接を行ってはならない。
- PC鋼材定着具の露出部分は、プレストレスト導入後すやかにモルタル等で完全に保護しなければならぬ。
- PC鋼材の配置後、コンクリート打設に先立ち、監理者の検査を受けなければならぬ。

5. コンクリート

品 質
1) コンクリートの品質は、下記とする。
使用箇所
R100
設計強度
N/mm²
30
プレストレスト導入時強度
N/mm²
27

- コンクリート強度試験用試体の採取、及び養生は下記による。
この試体はプレストレスト導入時強度取用として、別途採取すること。
ただし、他の供試体で強度を確認できた場合は、試験を省略することができる。

現場養生	プレ導入前	予備	合計
	3本	3本	6本
・プレストレスト導入時強度の確認は、現場養生（現場水中養生、または、現場封かん養生）によること。			
・プレストレスト導入時強度試験は、一般構造物に記載された方法と同じとする。			

- PC鋼材、鉄筋、型枠、及び定着具が、移動したり振動したりしないよう注意する。
- PC鋼材のソース内には、セメントペーストが入ってはならない。
- ソースには、ハイブレーターが連続稼働しないように細心の注意を払うこと。
- PC鋼材定着部の割裂構造物は、コンクリート打設前に完全に配置しなければならぬ。
- コンクリートの打込みは、打設場所にできる限り近づけて垂直に打ち込み、“片押し打ち”は避けなければならない。
- 原則として、PC造部分におけるコンクリートの打継ぎは、行なってはならない。ただし、やむを得ない場合は打ち継ぎ位置について監理者と協議の上、レイタンス処理など十分に行なった後、コンクリート打設を行うこと。
- PC造部分以外に低強度のコンクリートを打設する際は、そのコンクリートがPC造部分内にこぼれないよう留意する。

6. 緊 張

準 備
緊張装置は、事前にキャリブレーションを行ない、常に正常な状態にあるよう管理し、コンクリートが所定の強度（プレストレスト導入時強度）に達したことを確認のうえ、監理者の指示によりプレストレスト導入作業を行うこと。

- プレストレスト導入順序は、PC梁に対して局所的に完了せず、構造全体にわたって進めなければならない。
原則として、下記の要領でプレストレストを導入すること。
最初に各通り①を緊張（片引後）
次に、各通り②を緊張（片引後）
緊張方向はKEYPLAN参照。

呼 び 名	6－12・7φ SWPR7BL	施工時緊張力	750 kN

- 現場におけるPC鋼材の施工時緊張力は、下記による。
1) 現場におけるPC鋼材の施工時緊張力は、下記による。

呼 び 名	6－12・7φ SWPR7BL	施工時緊張力	750 kN

- 緊張の管理は、緊張装置の圧力計（マノメーター）、及び事前に計算によって求めたPC鋼材の伸び量とよって入念に行なうこと。

7. グ ラ ウ ト

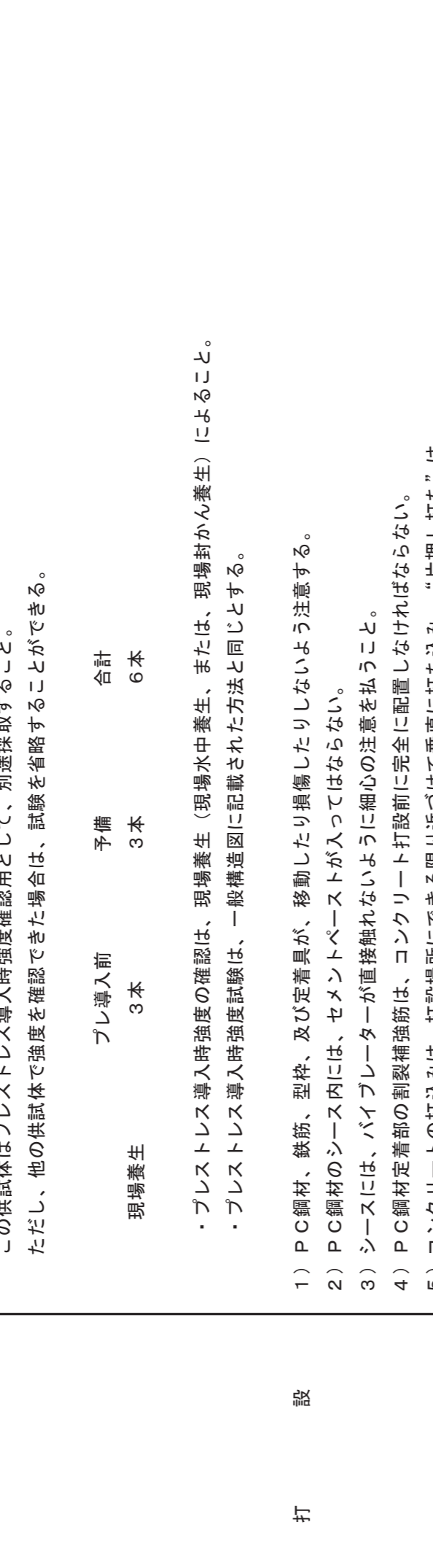
- グラウトの使用材料は、超低粘性プレミックスタイプ（太平洋ハイソジェクター又は、同等品）とし、4項圧縮強度は30N/mm²以上とする。
- 水粉体比は、メーカー推奨範囲とし、メーカーの示す目標コンステンションを確保すること。
（備考例：温度20℃の場合）
・水 45.0 kg
・ハイエジェクター（プレミックスタイプ） 125.0 kg
- その他の材料を使用する場合は、監理者と協議のうえ、決定すること。

グラウト作業は、下記の要領で行なうこと。

- 排出口から一様なグラウトが排出されるまで、注入口よりグラウト注入を続ける。
- 排出口から一様なグラウトが排出されたのを確認した後、排出口を閉じ、グラウトポンプの圧力がある程度上げて注入口を閉じる。
- グラウトが凍結する恐れのある時期は、原則として作業を行わない。

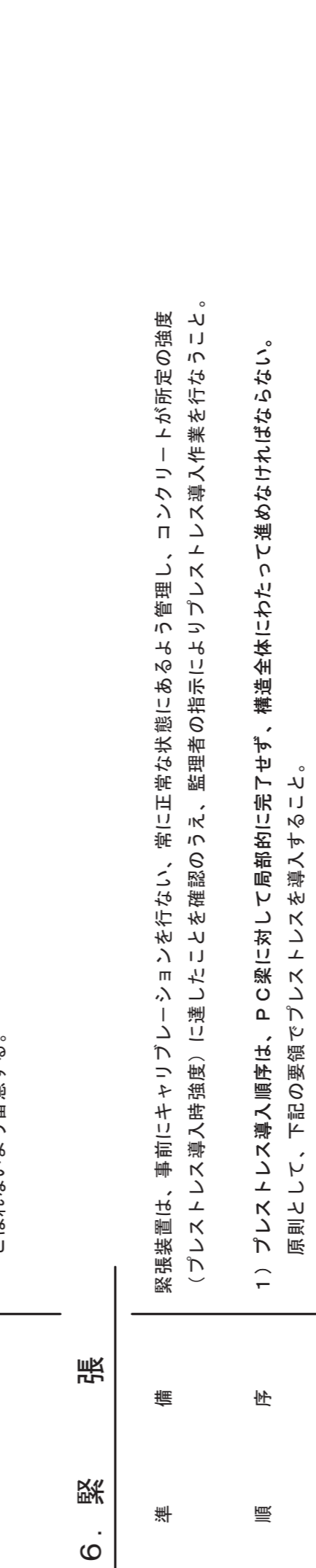
8. 支 保 工

計 画
PC梁は、通常の梁に比べて負担重量が大きいため、変形、耐力等を十分に検討し計画すること。
取 り 外 し
1) PC梁の支保工取外しは、監理者の承諾を得て行うが、プレストレストの導入が完了するまでは絶対に取外しできないこと。
2) 多層の建築物では、原則として、必ず2層分の支保工を使用し、コンクリート打設荷重をプレストレスト導入が完了している2層で支持すること。（下記参考）



9. そ の 他

小 梁 配 筋
PC梁に亘る小梁について、下端筋がシースにあたる場合は、原則として下图のように配筋すること。



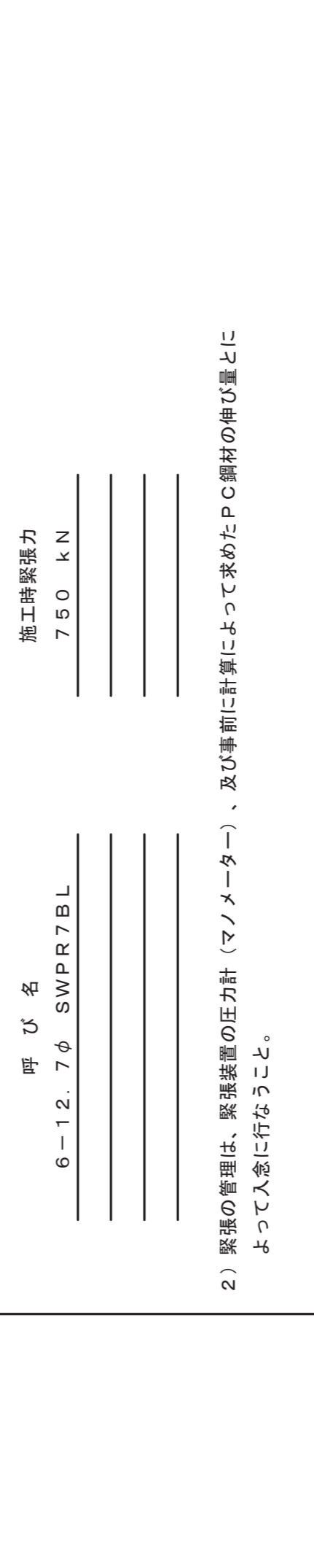
スラ ブ 開 口
PC梁 貫 通 孔

スラブ補筋配置位置には、原則としてスラブ開口を設けないこと。

- PC梁に貫通孔を設ける場合には、事前に監理者と協議の上、計画すること。なお、梁貫通孔断面ではPC梁端にならない検討を行い、貫通孔補強筋を適宜配置すること。

- 貫通孔補強筋に既製品を使用する場合は、第三者機関による技術評価を取得したPC造に適用可能な補強工法を使用すること。
例) ダイアレンPC工法（コーヨー建設株式会社）

PC鋼材定着具の穴理めについて、工事範囲は下記の通りとする。



- グラウトの使用材料は、超低粘性プレミックスタイプ（太平洋ハイソジェクター又は、同等品）とし、4項圧縮強度は30N/mm²以上とする。
- 水粉体比は、メーカー推奨範囲とし、メーカーの示す目標コンステンションを確保すること。
（備考例：温度20℃の場合）
・水 45.0 kg
・ハイエジェクター（プレミックスタイプ） 125.0 kg
- その他の材料を使用する場合は、監理者と協議のうえ、決定すること。

呼 び 名	6－12・7φ SWPR7BL	施工時緊張力	750 kN

定着端部の処理

楠山・枝川特定業務共同企業体

一級建築士事務所 東京都知事登録第4539号 一級建築士事務所 茨城県知事登録第A1521号
株式会社 楠山設計 有限会社 枝川建築設計事務所
東京都千代田区神田小川町3-20 茨城県土浦市並木4-1-36

意匠設計

一級建築士登録第 301497 号
飯 屋 園 耕 一

構造設計

一級建築士登録第 271669 号
飯 屋 園 耕 一

設備設計

一級建築士登録第 301497 号
高 橋 徹

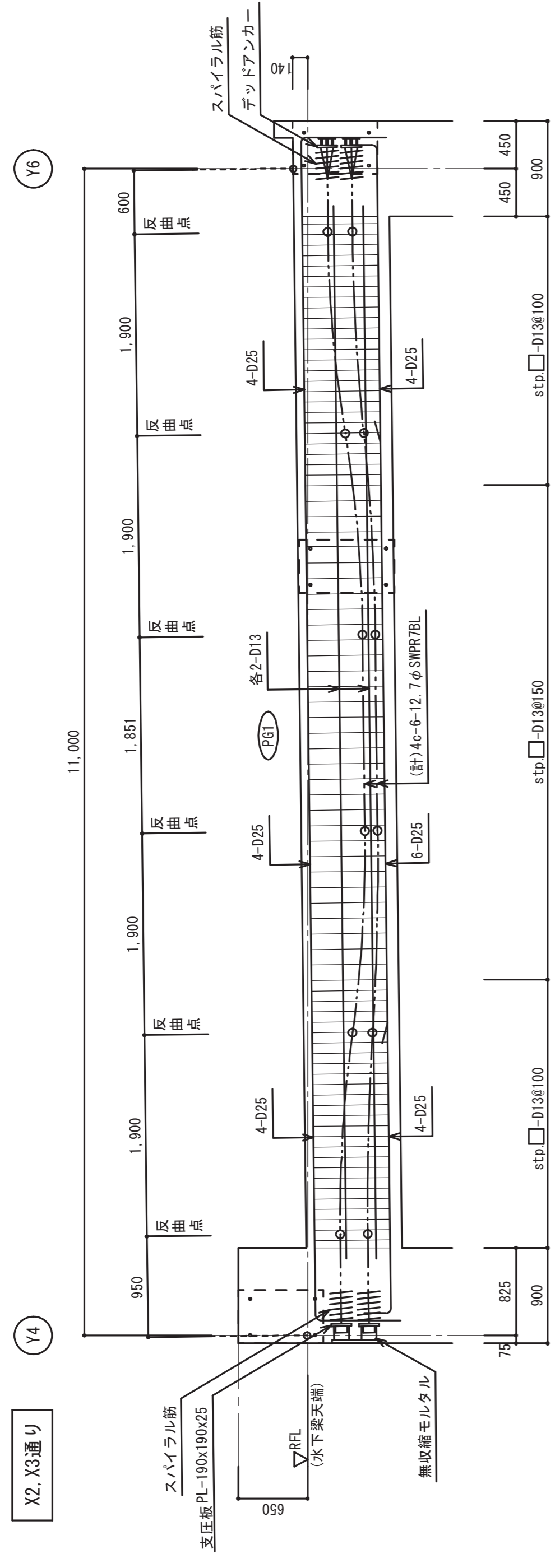
DATE	TITLE	(新) 荒川沖消防署新築建築主体工事
	SUBTITLE	PC工事特記仕様書
	SCALE	A1：－ A3：－
	DWG NO.	構造 S - 025

PRC大梁断面リスト

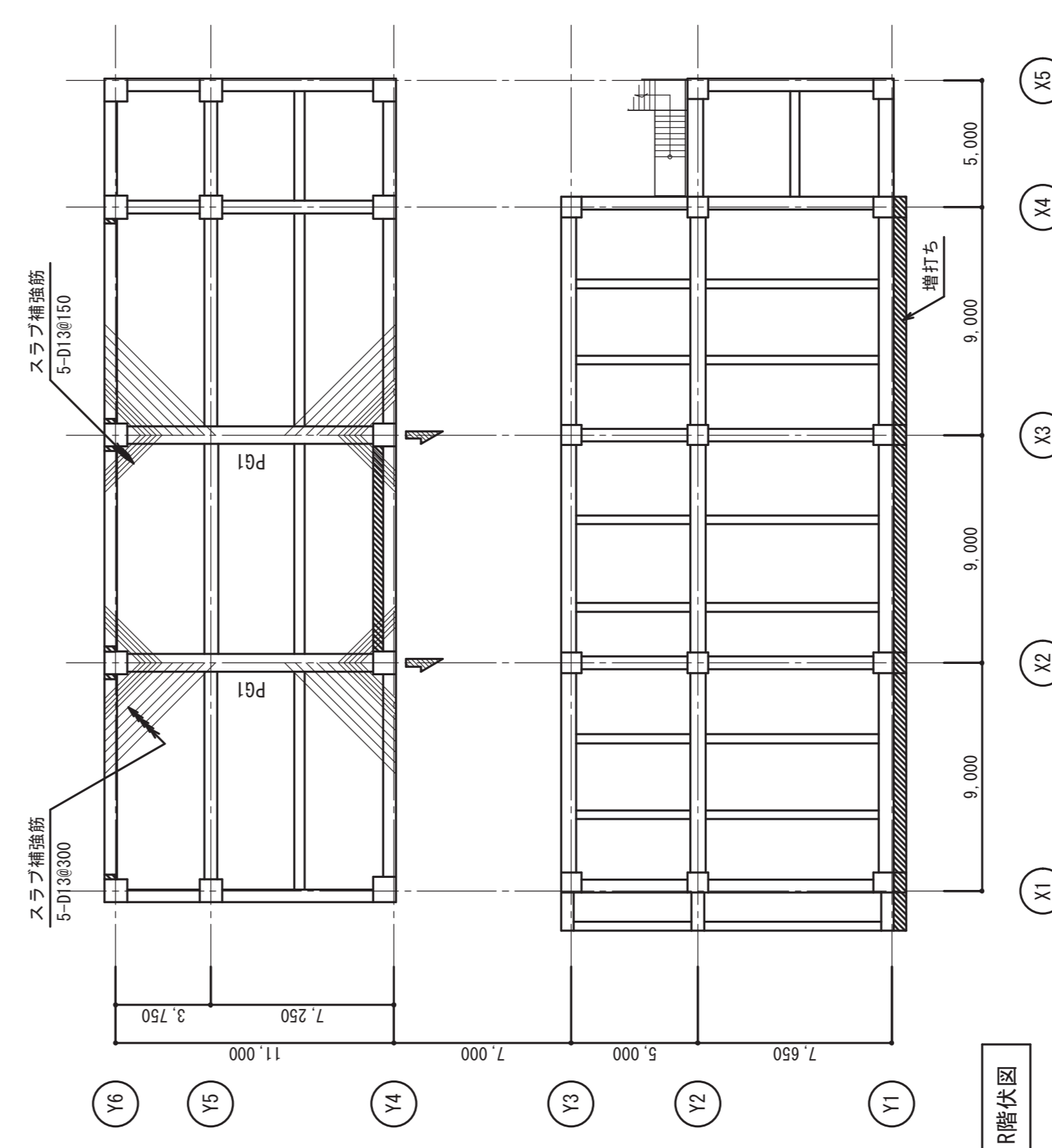
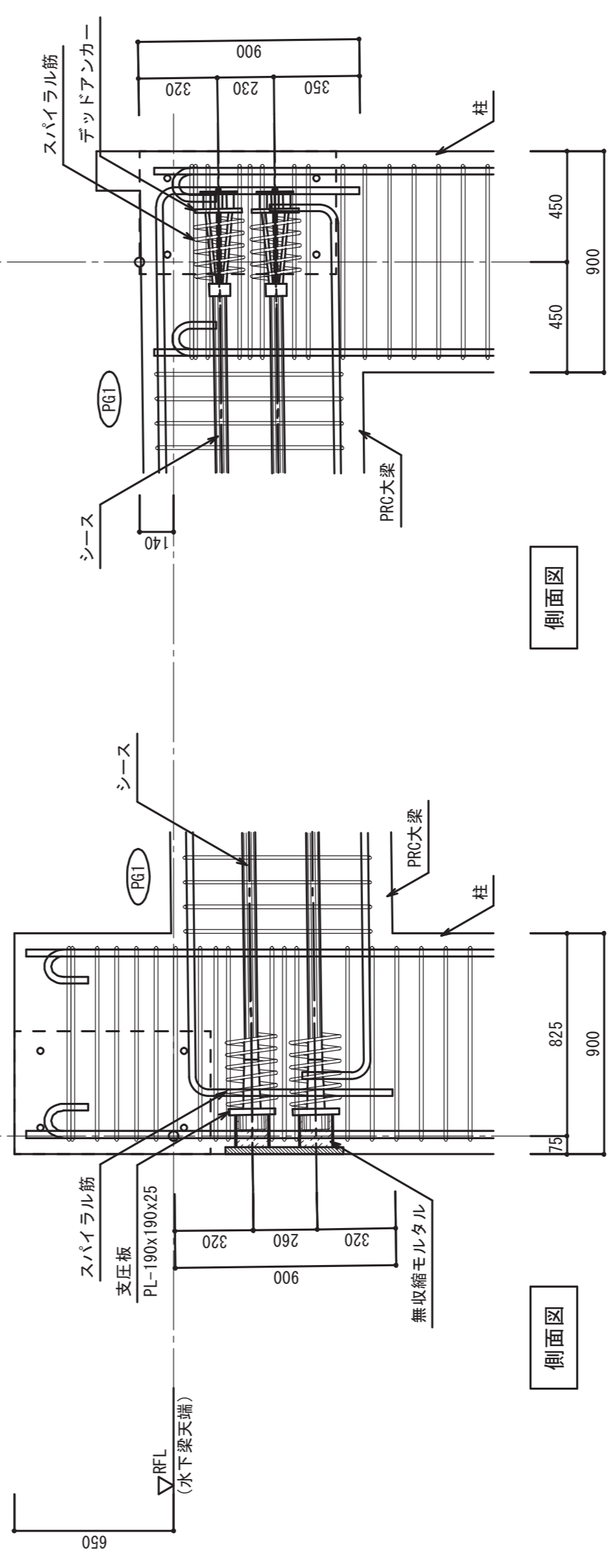
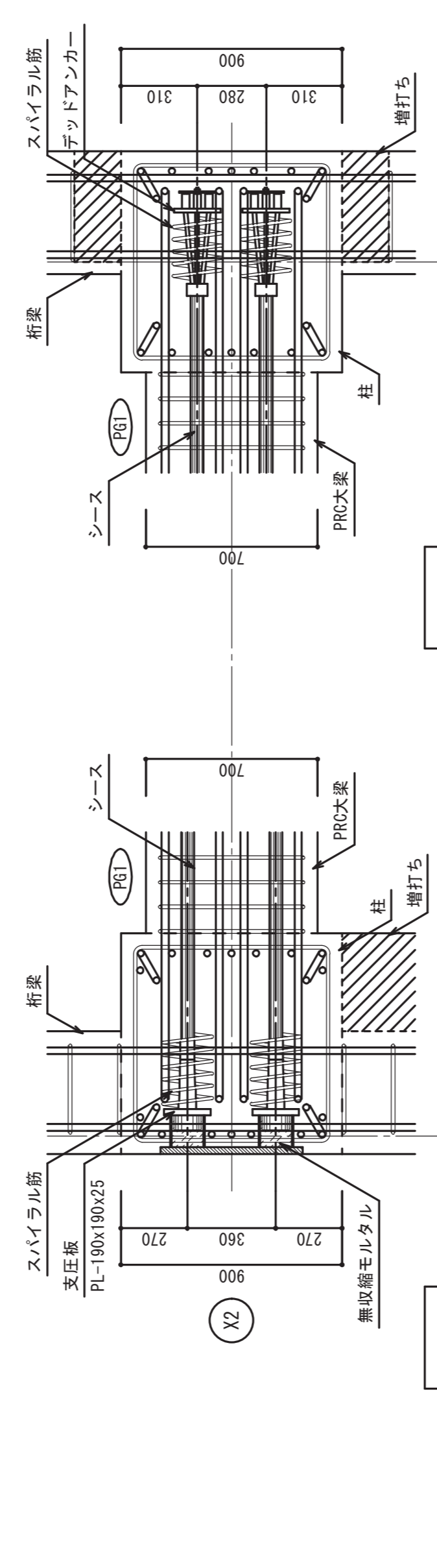
A1:1/40
A3:1/80

(注)・巾止め筋は、RC大梁に準ずる。

符号	位置	中央	Y4 端	Y6 端
断面				
PG材料		40-6-12.7φSWPR7BL		
上端筋		4-D25	4-D25	4-D25
下端筋		6-D25	4-D25	4-D25
スターラップ		□D13#100	□D13#150	□D13#100
鷹筋		4-D13		



A1:1/40
A3:1/80



KEY PLAN

A1:1/200
A3:1/400

(注)・は梁端端を示す。

スラブ補強筋要領図

A1:1/200
A3:1/200

(注)・スラブ補強筋は、スラブ上筋のレベルに合わせて配筋すること。
・スラブ補強筋は、L定着とする。

定着具納まり要領図

A1:1/200
A3:1/400

(注)・配筋は、各リストと参照のこと。
・柱主筋は、定着具及びシースの位置を避けて配筋すること。
・納まりは、シースの位置を避けて配筋すること。
・直線定着(通し筋)および機械式定着とする。
・PRC方向の柱梁接合部内のせん断補強筋は0.2%以上とする。

楠山・枝川特定業務共同企業体

一級建築士事務所 楠山設計
株式会社 枝川建設設計事務所
東京都千代田区神田小川町3-20
一級建築士事務所 茨城県知事登録第1521号
有限会社 枝川建設設計事務所
茨城県土浦市並木4-1-36

意匠設計

一級建築士登録第 301497 号
高橋 徹

構造設計

一級建築士登録第 271689 号
佐藤 耕一

設備設計

一級建築士登録第 301497 号
高橋 徹

(新) 荒川沖消防署新築建築主体工事

PRC大梁関連図

TITLE
SUBTITLE
SCALE
A1:1
A3:1
DWG NO.
構造 S-026

中空スラブ標準仕様書

- 適用範囲
 - 本仕様は鉄筋コンクリート又は鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物の中空スラブ工法に適用する。
 - 本設計図面は株式会社栗本工場の鋼製ワイディングパイプ使用（以下パイプ）を前提として設計されたものであり、他メーカーのパイプに適用することはできない。
 - 各項に対して別図などで詳細指示がある場合は、それに従うこと。

部材名称	材質	規格および材質	相当品
パイプ	亜鉛めっき鋼板	JIS-G3302 SGCC	相当品
		JIS-G3313 SECC	相当品

- 使用部材
 - パイプ及びその他の部材は（株）栗本工場の仕様とする。
 - 問い合わせ電話番号
 - 大阪（本社） 06-6538-7708
 - 名古屋 03-3450-8558
 - 名古屋 052-551-6934
 - 中国 082-247-4134
 - 北海道 011-661-6781
 - 東北 022-227-1882
 - 九州 092-451-6626

- 中空スラブの施工
 - 中空スラブの施工は下記に示す内容に準ずること。
 - 日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説」
 - 日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」
 - （社）公共建築協会「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」

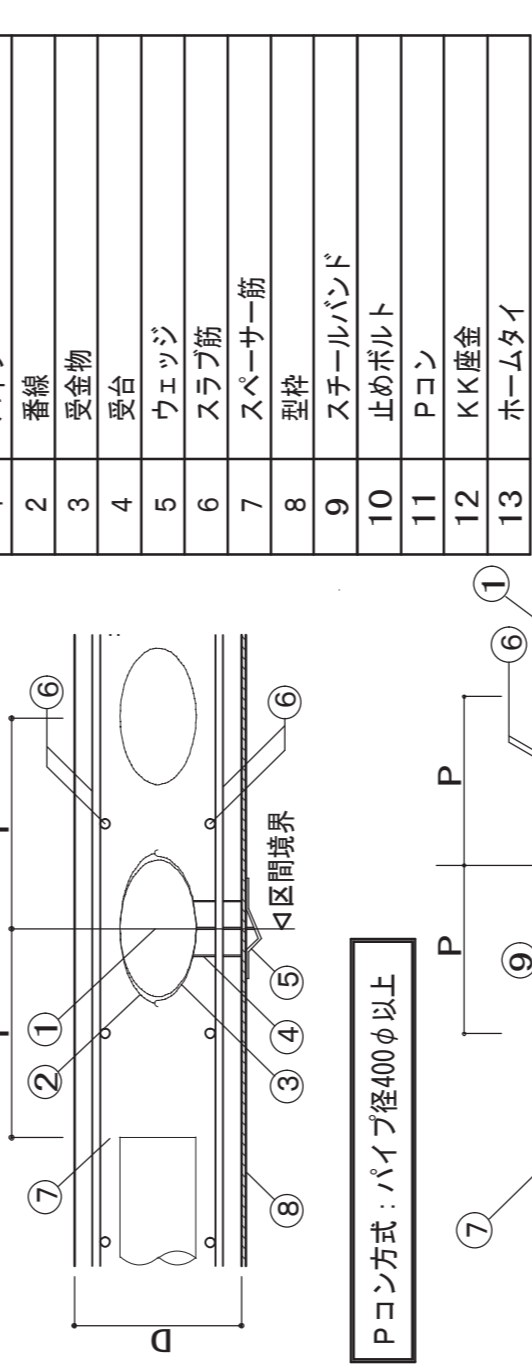
監理者の許可無くパイプ割付を変更しないこと。

- 仮設支保工
 - 打設前
 - 打設後
 - 支保工a
 - J層
 - i層
 - h層

- 打設支保工
 - （1）支保工の盛り替えは、行わないこと。
 - （2）支保工の存置期間は、設計基準強度の100%以上のコンクリートの圧縮強度が得られたことが確認されるまでとするか、構造計算により十分な安全が確認されるまでとする。（コンクリート打設後2週間以上が望ましい。）
 - （3）多層の場合には、支保工二層分で打設後のスラブを喚起し、打設後スラブ（4層）が上記の（2）を確認したうえで、支保工を除去できる。
 - （4）スラブ下の支保工を早期取り外しすると、有害なたわみの原因となるので留意のこと。
 - （5）上記以外については、JASS5（日本建築学会）に依る。
 - （6）上記記載なき支保工計画については、監理者の承諾を得ること。

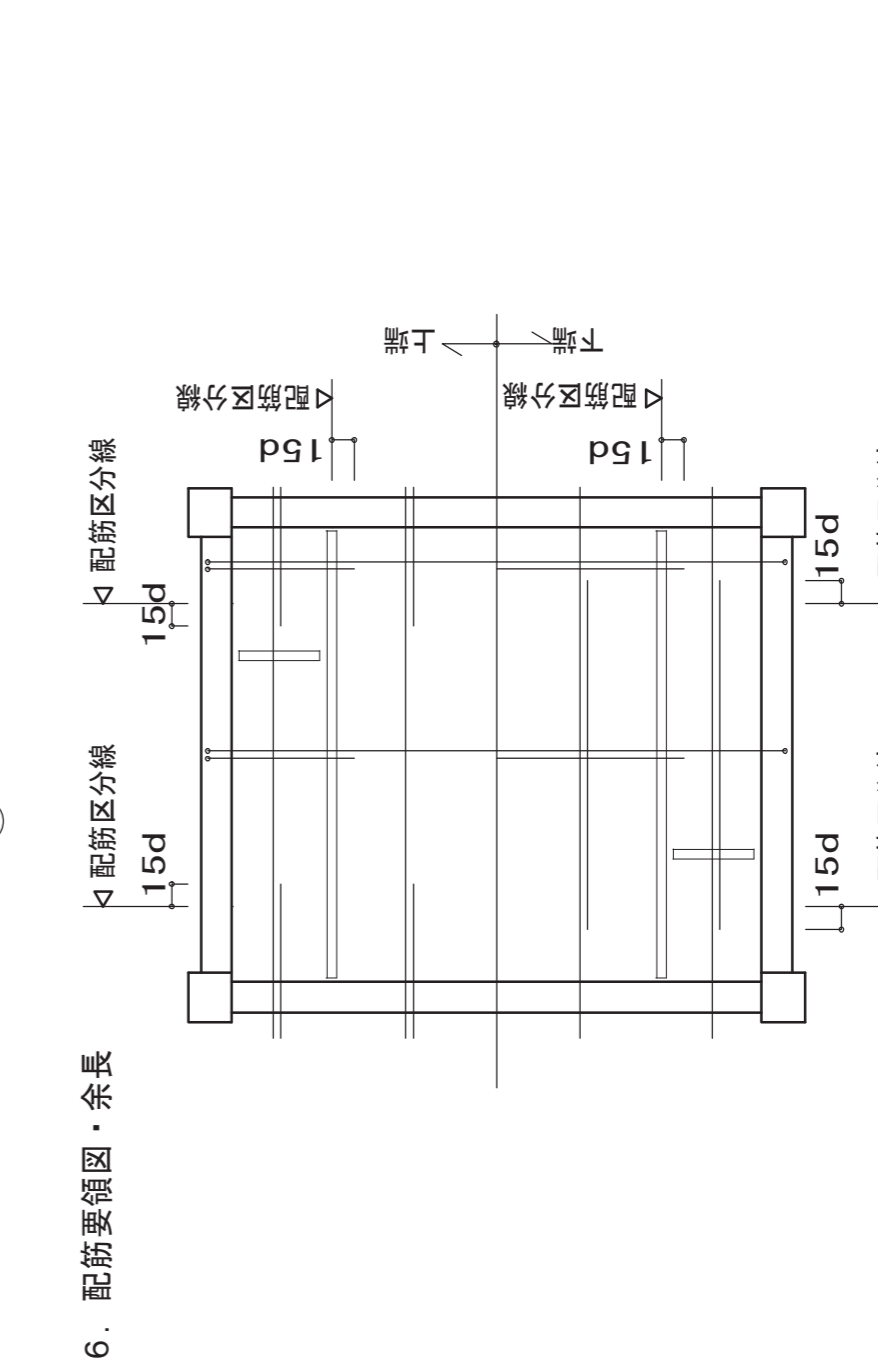
5. 中空スラブ標準構成図

ウェン方式・オーバルタイプ及びパイプ径375φ以下

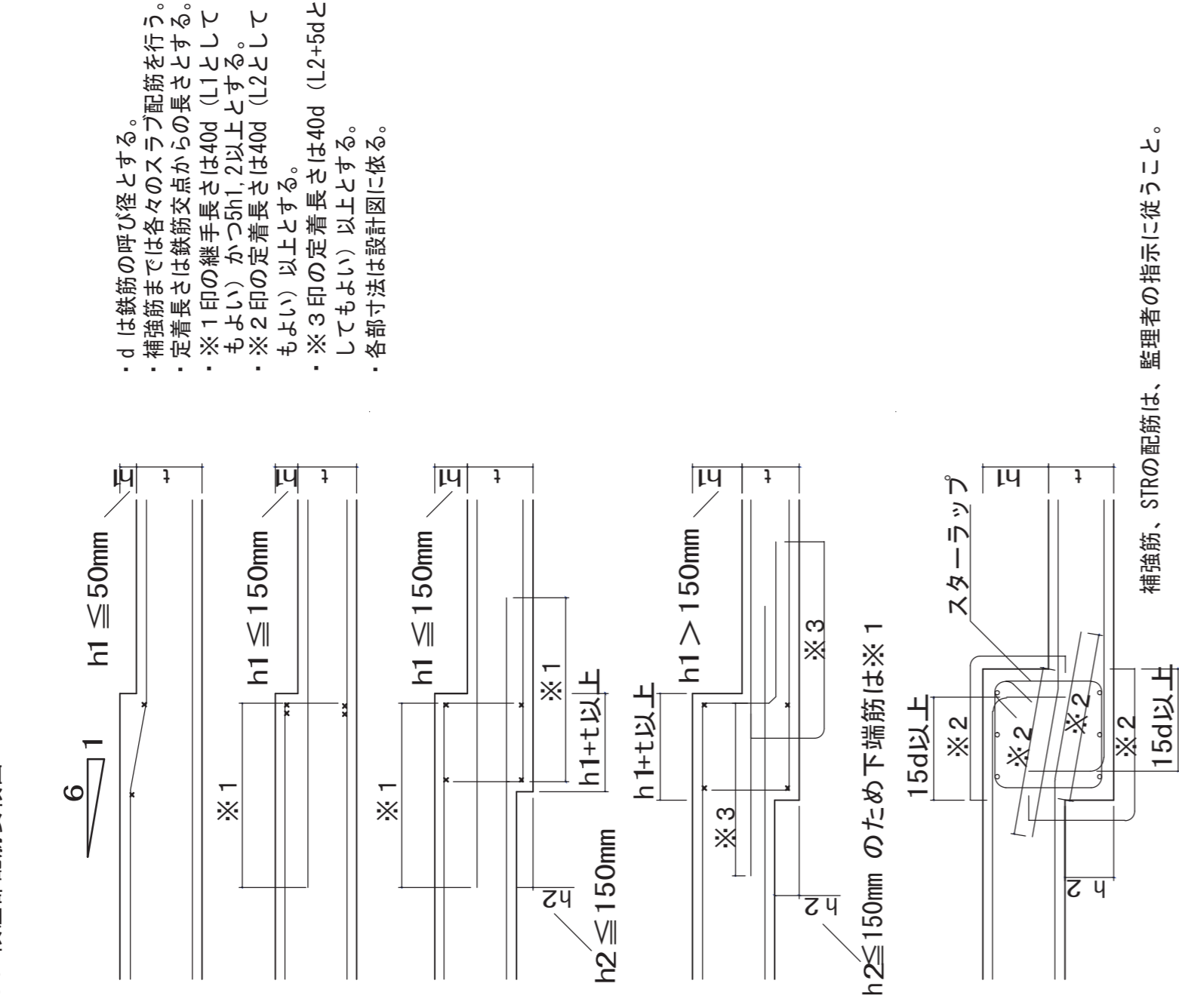


- * 左図は構成図例を示す。従って、詳細構成パイプ寸法・鉄筋の寸法・スベークーシング無スターラップの有無等は、別途スラブリスト、中空スラブ断面図等を参照のこと。

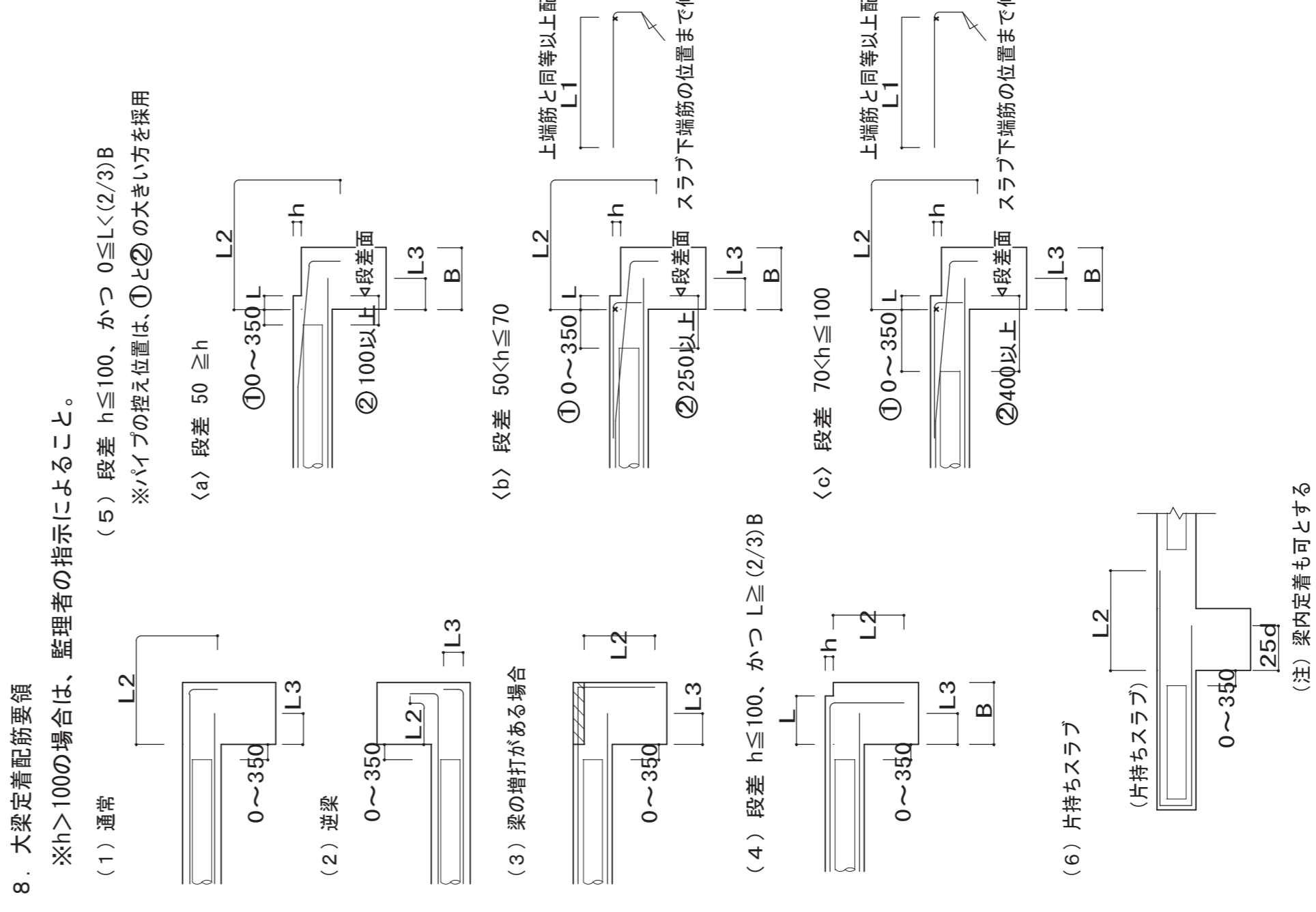
6. 配筋要領図・余長



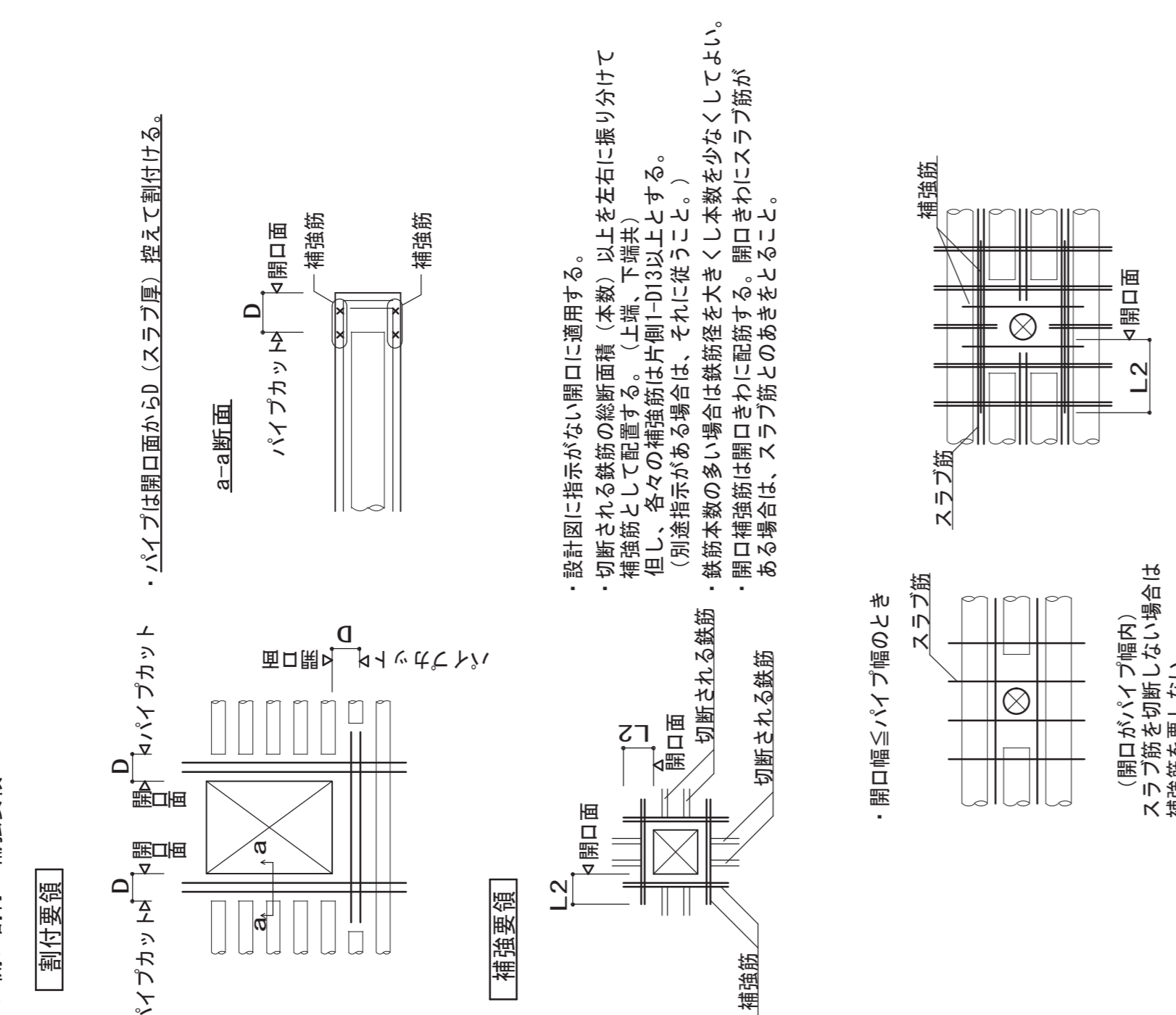
7. 段差部配筋要領図



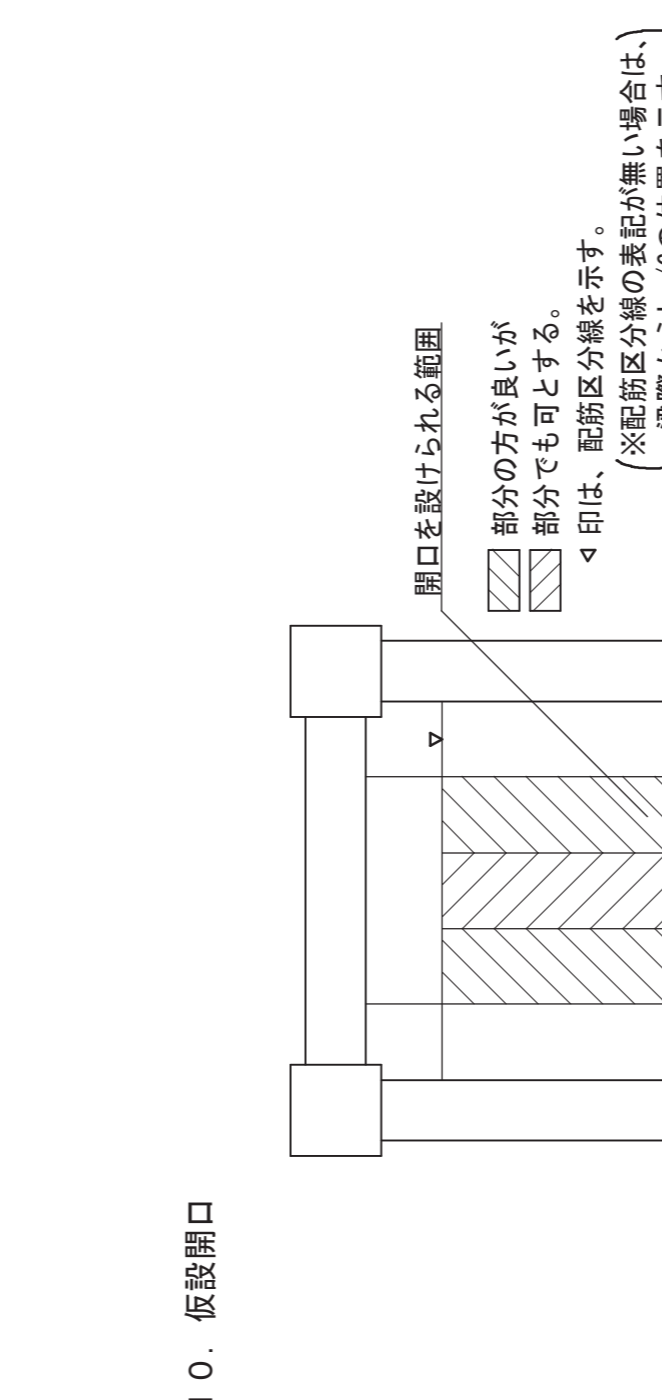
8. 大梁定着配筋要領



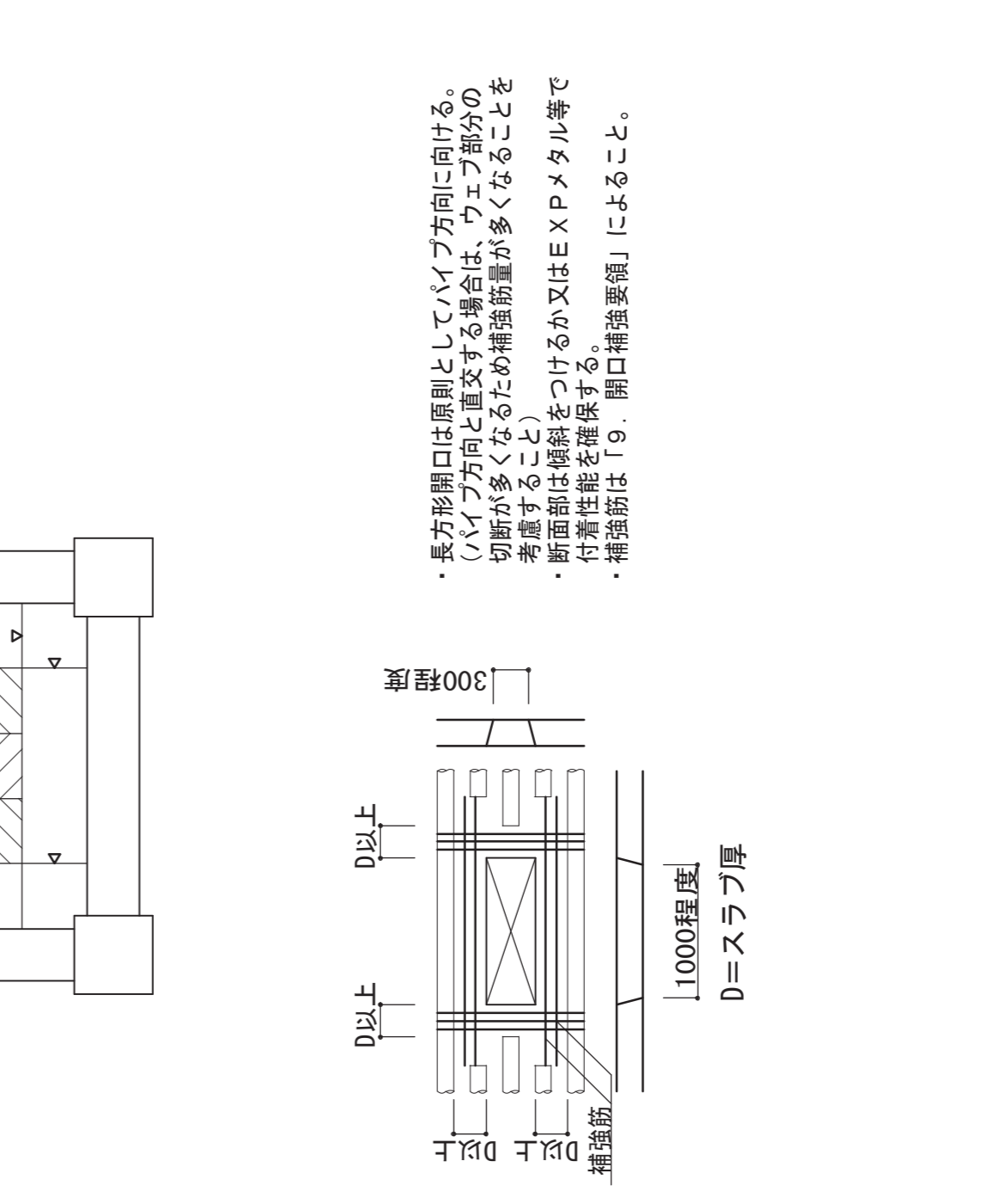
9. 開口割付・補強要領



10. 仮設開口



11. 中空スラブ内設備配管



楠山・枝川特定業務共同企業体

一般建築士事務所 東京都知事登録第4539号 茨城県知事登録第A1521号
株式会社 楠山設計 有限会社 枝川建築設計事務所
東京都千代田区神田小川町3-20 茨城県土浦市並木4-1-36

意匠設計

一般建築士登録第 301497 号
高橋 徹

構造設計

一般建築士登録第 271689 号
高橋 徹

設備設計

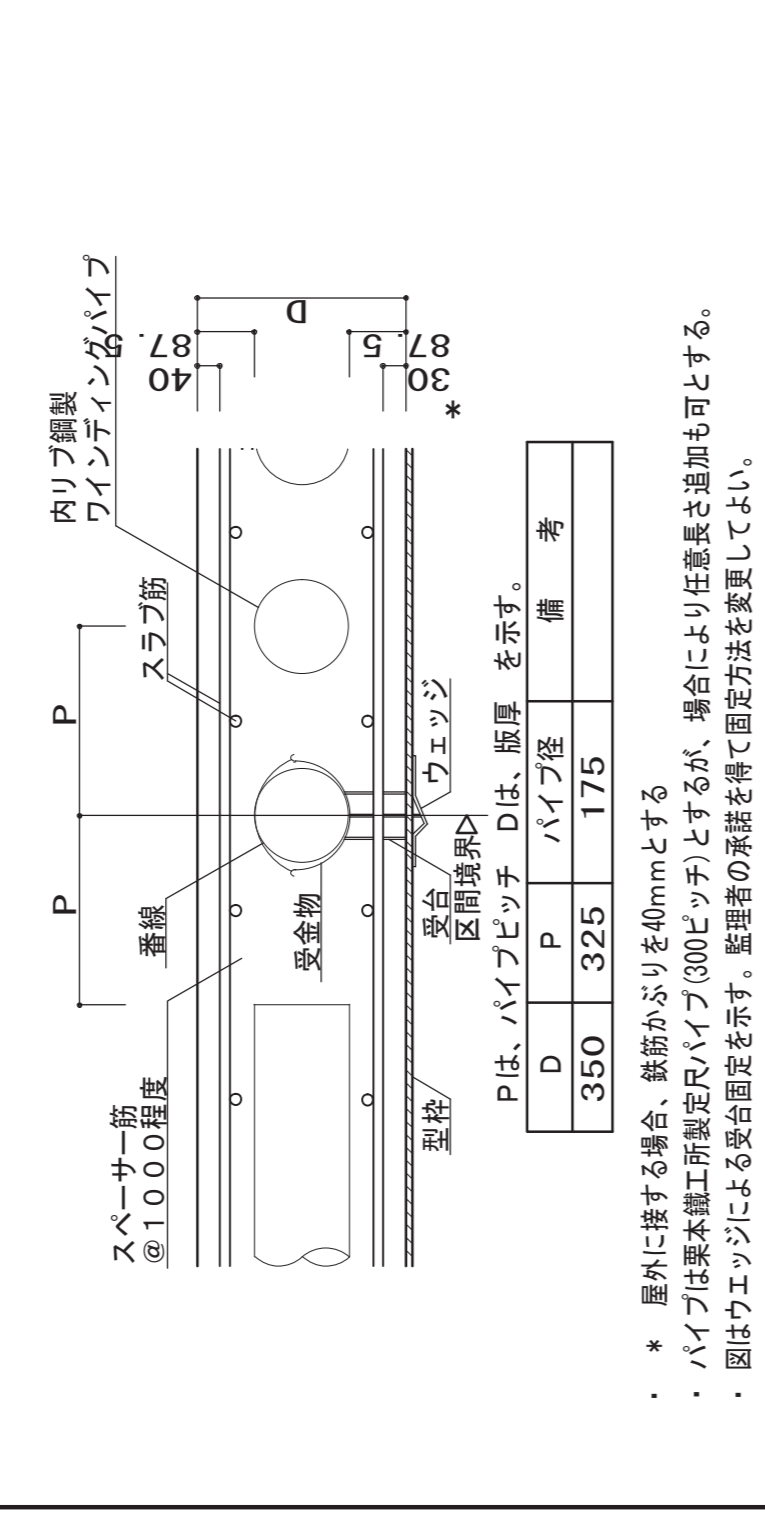
一般建築士登録第 301497 号
高橋 徹

(新) 荒川沖消防署新築建築主体工事

中空スラブ標準仕様書
SCALE A1: 1/ A3: 1/2
DWG NO. 構造 S-027

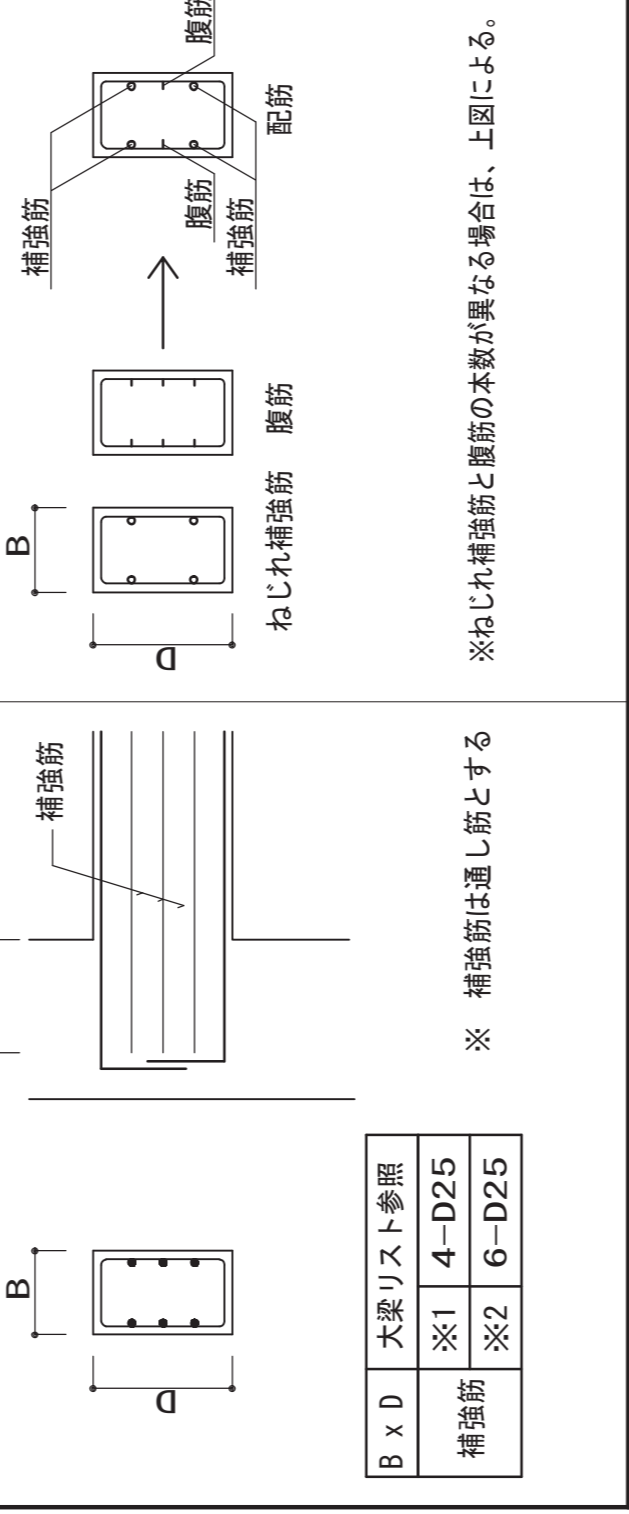
記号		VS1	
W.P.	方向	全断面	重直方向
φ175@325	中央	中央	中央
	端部	端部	端部
	位置	位置	位置
	断面	断面	断面
	上端筋	上端筋	上端筋
	下端筋	下端筋	下端筋

中空スラブ断面図

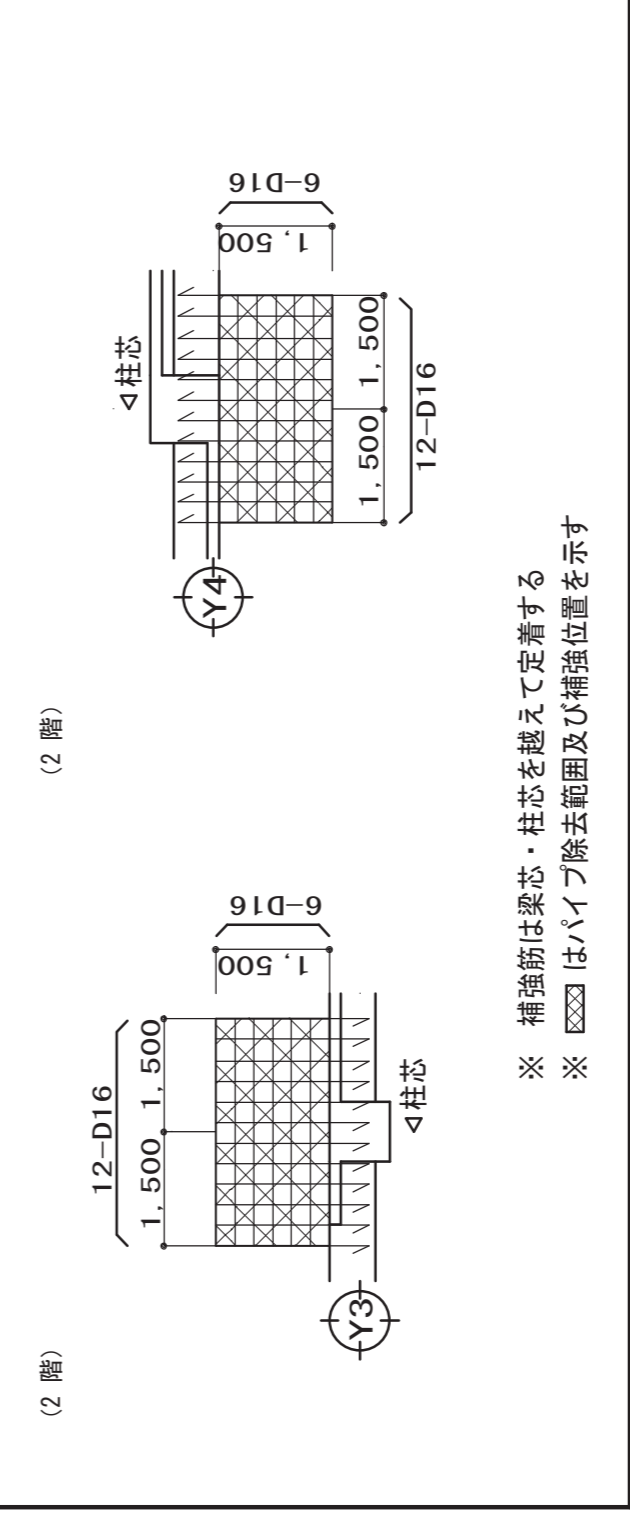


・ * 屋外に露する場合は、鉄筋かぶり厚40mmとする。
 ・ ハイブは標準工所製定パイプ(φ200(ピッチ))とするが、場合により任意径を追加可とする。
 ・ 図はウェッジによる受金固定を示す。監理者の承認を得て固定方法を変更してよい。

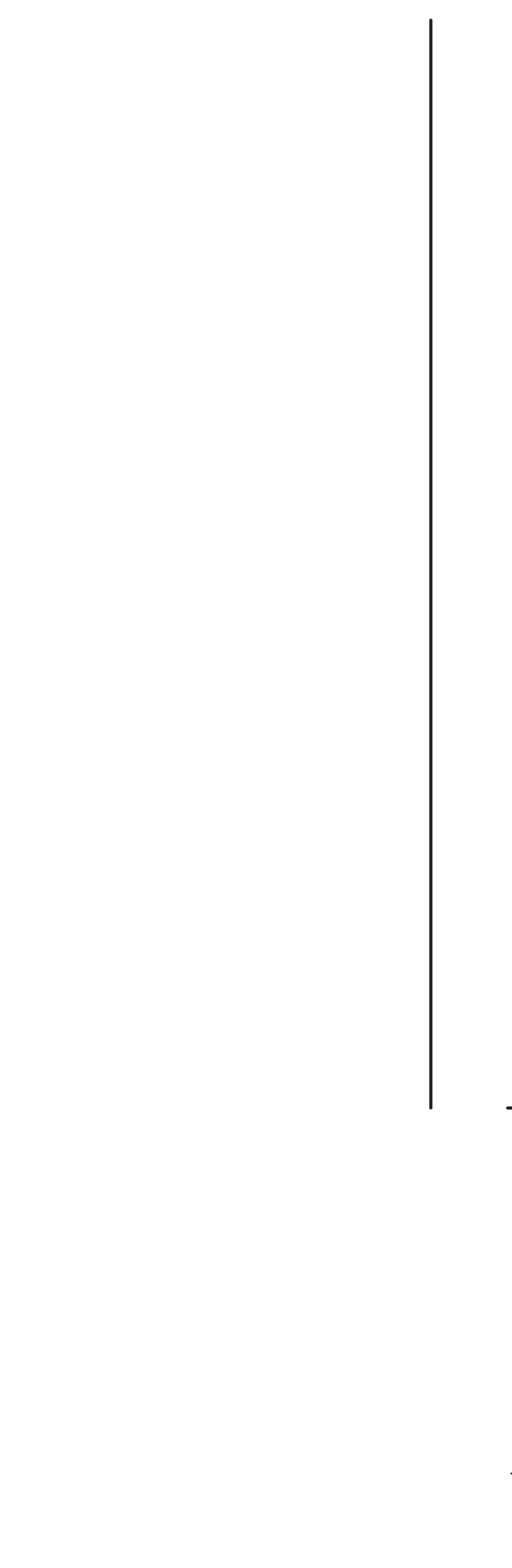
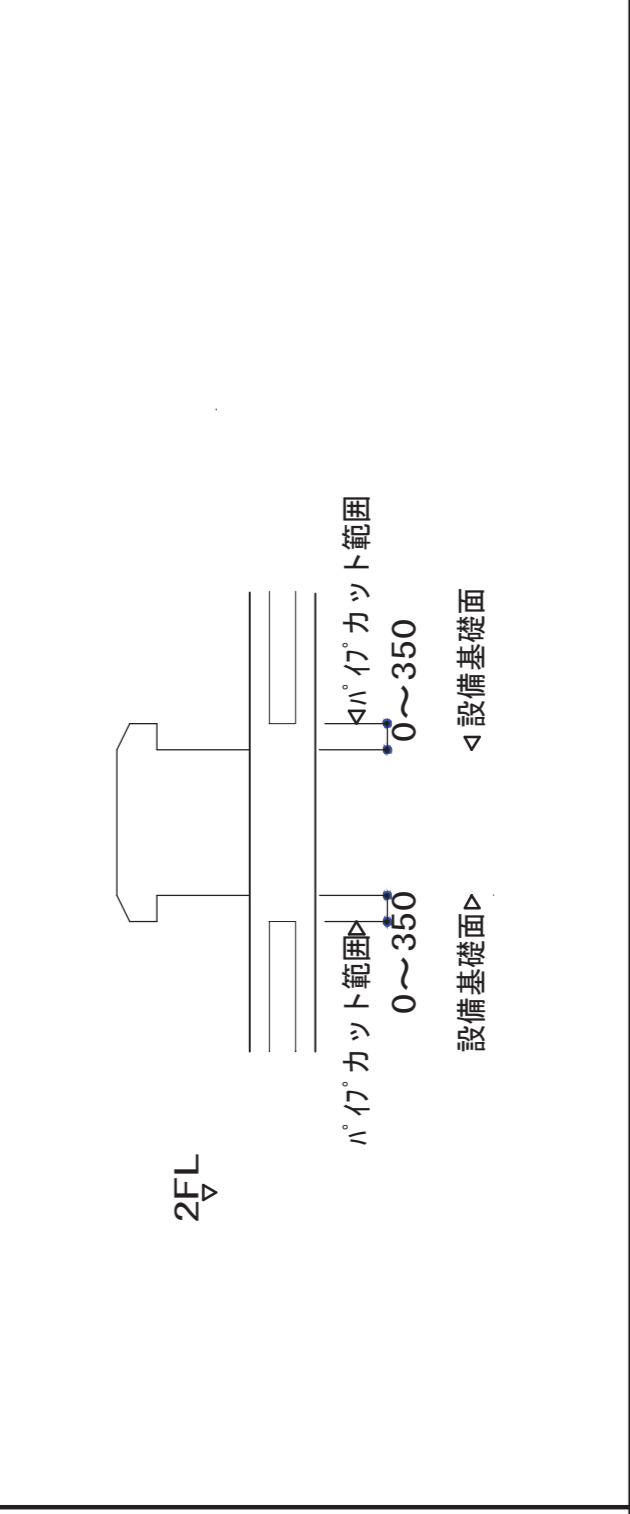
受梁ねじれ補強要領



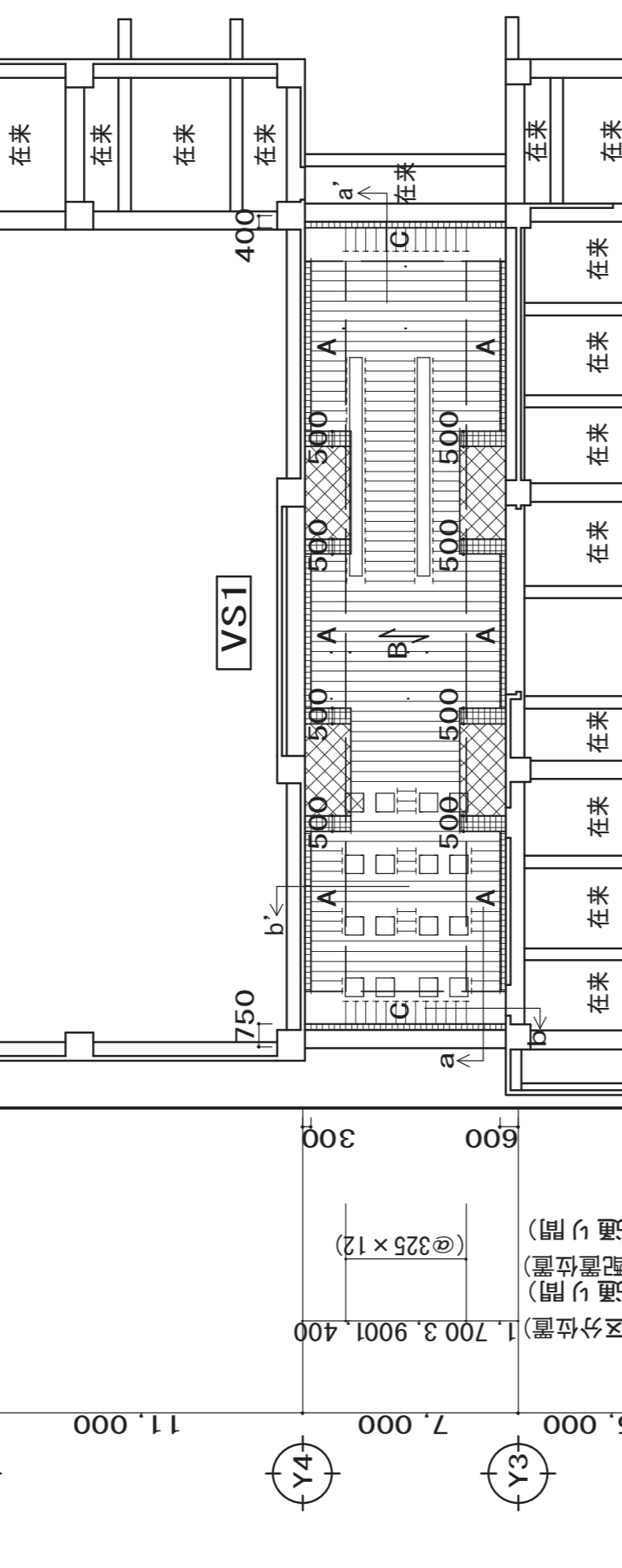
柱周辺補強要領



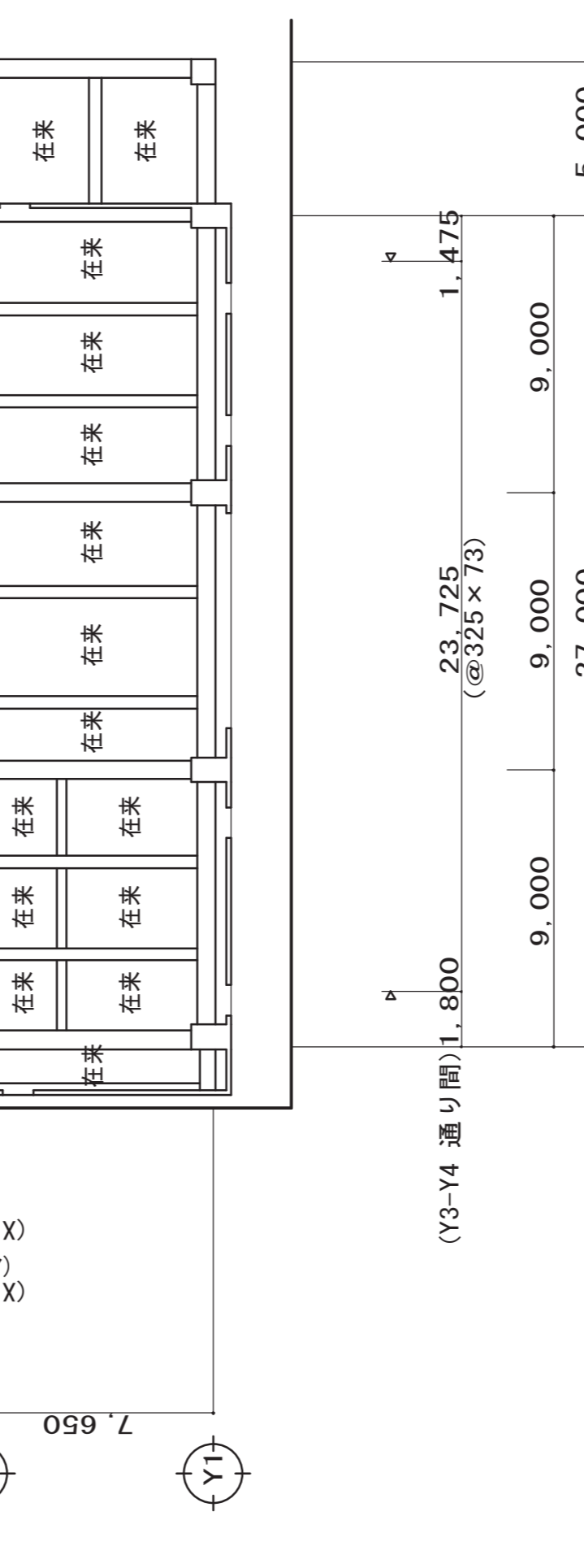
2階 設備基礎部分



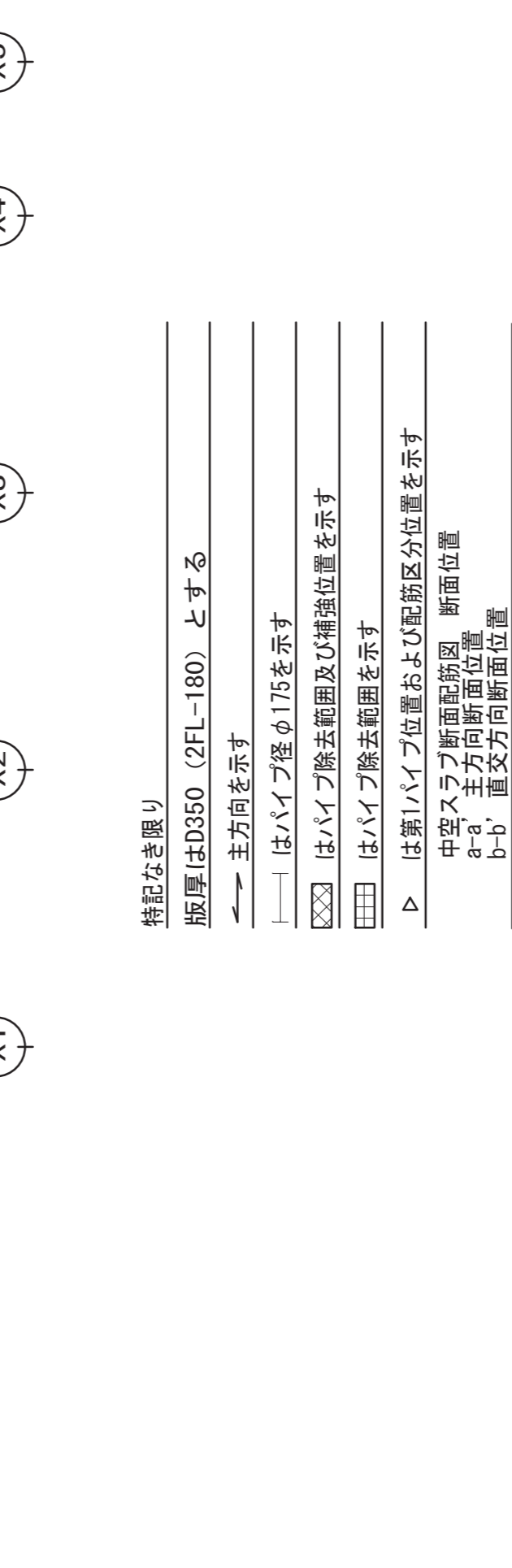
VS1 断面配筋図 1/30



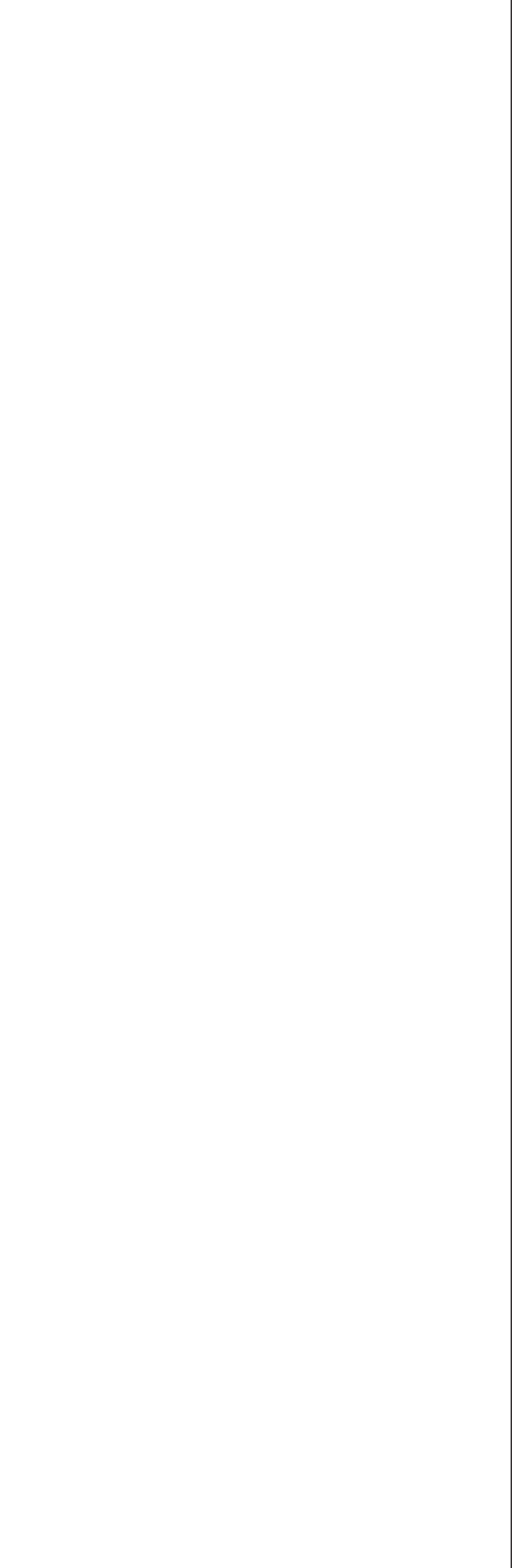
柱周辺補強要領



2階 設備基礎部分



2階 設備基礎部分



一級建築士事務所 楠山設計
 株式会社 枝川建築設計事務所
 東京都千代田区神田小川町3-20

一級建築士事務所 高橋 敬
 一般建築士登録第 301497 号
 東京都千代田区神田 271689 号

一級建築士登録第 301497 号
 高橋 敬
 一般建築士登録第 301497 号

一級建築士登録第 301497 号
 高橋 敬
 一般建築士登録第 301497 号

2 階中空スラブ伏図、中空スラブリスト、配筋要領図、断面配筋図
 SCALE A1: 1/200, 1/30
 A3: 1/100, 1/60
 DWG NO. 構造 S - 028